

平塚市男女共同参画に関する 市民意識調査報告書

平成 27 年(2015 年)11 月

平 塚 市

目 次

I. 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査概要	1
3 報告書の見方	1
II. 調査結果の概要及び総括	2
1 男女共同参画社会に向けた意識改革	2
2 あらゆる分野における男女共同参画の推進	2
3 女性に対するあらゆる暴力の根絶と人権の尊重	3
4 男女共同参画社会の実現に向けた市の積極的な取り組み	4
III. 調査結果	5
1 ご自身・ご家族のことについて	5
2 男女平等意識と実態について	11
3 社会参画について	24
4 仕事や家庭、地域生活などについて	33
5 ドメスティック・バイオレンス（DV）について	67
6 防災について	78
7 平塚市の実施する男女共同参画推進事業について	84
8 自由回答	87
IV. 調査票	98

I. 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「ひらつか男女共同参画プラン 2007」の改訂にあたり、現状の市民意識や実態、要望等の情報を整理・分析し、課題を明らかにするとともに、計画の方向性等の検討に向けた策定の基礎資料とするため実施しました。

2 調査概要

- 調査地域：平塚市全域
- 調査対象者：16歳以上75歳未満の男女
- 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- 調査期間：平成27年9月4日（金）～9月30日（水）
- 調査方法：郵送配付・郵送回収、礼状兼督促を1回送付

配付数	回収数	回収率
3,000件	1,194件	39.8%

3 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、又は回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

Ⅱ．調査結果の概要及び総括

1 男女共同参画社会に向けた意識改革

- ・“学校教育の場”で男女平等が進んでいると考えている人が多く、この傾向は10年前と同様である。一方、「政治の場」や「法律や制度上」、「社会通念・しきたり・慣習」、「地域活動」では『男性優遇』感が強まった。(問1)
- ・世代間、性別間でも平等意識の感じ方は異なっており、特に“家庭”や“職場”などの身近な場所では女性の40歳代以上で『男性優遇』感が強いことがうかがえる。(問1)
- ・性別による固定的な役割分担意識については、依然として50歳代以上の世代では「肯定派」が多くなる傾向がみられるものの、全体的には「否定派」が「肯定派」を上回ってきており、この10年で改善していることがわかる。(問2)
- ・家事・育児・地域活動・介護について、女性が担っている割合が高く、女性への負担が大きいことがうかがえる。一方で、そういった活動は「夫婦が同じくらい分担」、「家族で交代・分担」するのが望ましいと考えている人も、特に若い世代を中心に少なくないことから、実際の状況と望ましい状況が乖離していることが予想される。(問14、15)



意識の上では改善がみられるが、特に家庭や職場など、身近な場所での男女共同参画の実践には依然として至っていないことがうかがえる。そのため、男女共同・平等意識が実際の行動に結びつくよう、さらなる意識啓発を図るとともに、それを可能にする環境づくりに取り組んでいく必要がある。

2 あらゆる分野における男女共同参画の推進

- ・社会におけるさまざまな役職や公職への女性の登用について、男女ともに推進した方がよいと考える人が多くなっているものの、実際にそのような機会が得られた場合に、「自信がない」、「家事・育児・介護で忙しい」などの理由で承諾する女性は少ない傾向がみられる。(問4、5)
- ・女性が指導的地位に占める割合を増やすために必要なこととして、男性では「女性自身が積極的に参画意識・意欲を持つこと」、女性では「家族からの支援や協力があること」が高くなるなど、男女で違いがみられる。(問6)
- ・生活の優先度は、女性では『家庭生活』を優先、男性では『仕事』と『家庭生活』をともに優先している人が多い。また、男性・女性それぞれの望ましいと思うものについては、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先が高く、国や県の水準を上回っている。(問7)
- ・現状で『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先している人は、希望としても『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先を挙げる人が多く、7割を超えており、これらの人は現状と希望が一致しているといえる。(問7)
- ・介護休業制度や介護休暇制度に関して、介護に必要な家族がいるにも関わらず、介護の必要な

家族がいない人よりも「制度があることを知らなかった」と回答している人が多く、制度が十分に認知されていない状況がうかがえる。(問 11③④)

- ・地域活動については、「時間がない」、「関心がない」、「きっかけがない」などの理由で「地域活動に参加したことがない」人が多くなっている。(問 16、17)
- ・地域活動の望ましい担い手として、「主に自分」と回答した人が、女性では 40 歳代以上、男性では 30 歳代以上で年齢とともに上昇している。(問 15④)
- ・女性が仕事を続けることについては、「結婚や子育てに関わらず、働くことを選択するのは女性の自由である」や「家事や子育てと仕事とが両立するなら、結婚や出産に関わらずずっと働き続けてもよい」など、就業継続に対する肯定派が多くなっている。実際に、結婚・育児の時期にあたる女性の 20 歳代から 50 歳代で「共働きしている」人が半数以上を占めている。(問 9、属性③)
- ・防災や災害復興活動における、男女共同参画推進の必要性への意識は男女ともに高くなっているが、実際に地域の防災訓練に参加したことがある人は、女性で約 2 割、男性で 2 割半ばとなっている。(問 25、26、27)



男女共同参画を推進する上で、指導的地位や社会のさまざまな場面に女性の占める割合が増えることは必要不可欠であり、その必要性についての認識は高いものの、実際に行動に移すことは難しいと感じている人が多いことがうかがえる。一方で、地域活動への関心は高くなっている。そのため、年代別のニーズや参加の妨げとなっている理由を把握しながら、地域活動をはじめ、防災や災害復興活動などの身近な取り組みを契機に、男女共同参画の理解促進及び普及と浸透を図る必要がある。

また、女性の就業選択・継続は女性の自由である割合が高いこと、生活の優先度で現状と希望が一致している人が比較的多いこと、利用できる制度が十分に活用されていない状況などを踏まえ、今後も継続して、自らの希望するバランスで生活を送れるよう、法制度等の周知や利用促進を含め、側面的支援に努めることが重要であると考えられる。

3 女性に対するあらゆる暴力の根絶と人権の尊重

- ・親しい間柄における暴力について、それらを暴力であると認識する人はこの 10 年で増えている。特に、身体的暴力や性的暴力、経済的暴力に対する認識は 8 割を超えている。一方で、精神的暴力や社会的暴力への認識は依然として 6 割程度となっており、男性の 20 歳代から 40 歳代では他の年代よりもその認識は低い傾向となった。(問 20)
- ・暴力の被害・加害の経験については、女性では被害経験として「大声でどなる」や「『誰のおかげで生活できるのだ』などと言う」、男性では加害経験として「大声でどなる」がやや高くなっているものの、この 10 年で被害・加害経験は減少傾向にある。(問 21)
- ・暴力を受けた際に相談するかについては、「相談するほどのことではないと思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」などの理由で、「相談しなかった」、「相談できなかった」人が 7 割弱を占め、女性よりも男性に多くなっている。(問 22、24)



親しい間柄間での暴力への認識は高まっているものの、精神的・社会的暴力など、普段何気なく行っていることが相手にとっては暴力となっている場合が多いことが想定される。そのため、ドメスティック・バイオレンスや若い世代におけるデートDVへの認識をさらに深めるとともに、性別に関わらず、被害にあった場合には適切な救済が受けられるよう、暴力に対する正しい理解促進と相談窓口の周知、情報提供等を進めていく必要がある。

4 男女共同参画社会の実現に向けた市の積極的な取り組み

- ・男女共同参画に関する言葉の認知について、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」が9割、「マタニティ・ハラスメント」が8割、「イクメン・イクボス」、「育児・介護休業法」が7割を超えて高くなっている。特に、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」は10年前よりも約20ポイント高くなっている。一方で、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」や「男女共同参画週間」、「性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）」は約1割に止まり、特に「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」10年前よりも認知度は低くなっている。（問3）
- ・市の男女共同参画推進事業の認知については、全体及び男女すべての年代で「どれも知らない」が最も高くなっており、3年前とほぼ同様の傾向となっている。そうした中で、「女性のための相談窓口」の認知度は相対的に高くなっている。（問28）
- ・男女共同参画社会実現に向け、市が取り組むべきことについては、「事業所に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける」が最も望まれているほか、「保育や介護サービスを充実させる」、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」の希望も高くなっている。（問29）
- ・男女の違いを認めた上で、互いに助け合いながら、それぞれの能力を活かすことができる、男女共同に立脚した“共生社会”の必要性が高まっている。（自由回答）



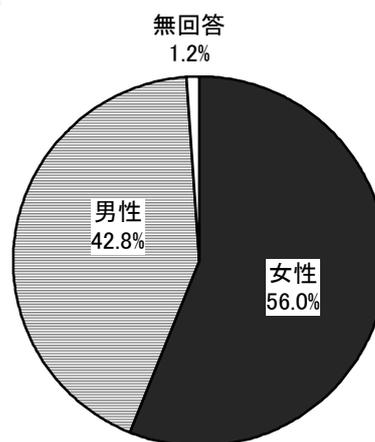
男女共同参画を本質的に示す言葉をはじめ、市の実施する男女共同参画推進事業の市民への認知度は低い。そのため、市民のニーズを的確に把握し、必要な取り組みを実施していくことで、男女共同参画のさらなる普及と浸透を進めることが必要であり、さらに男女共同参画の考え方に基づく“共生社会”の構築が求められている。

Ⅲ. 調査結果

1 ご自身・ご家族のことについて

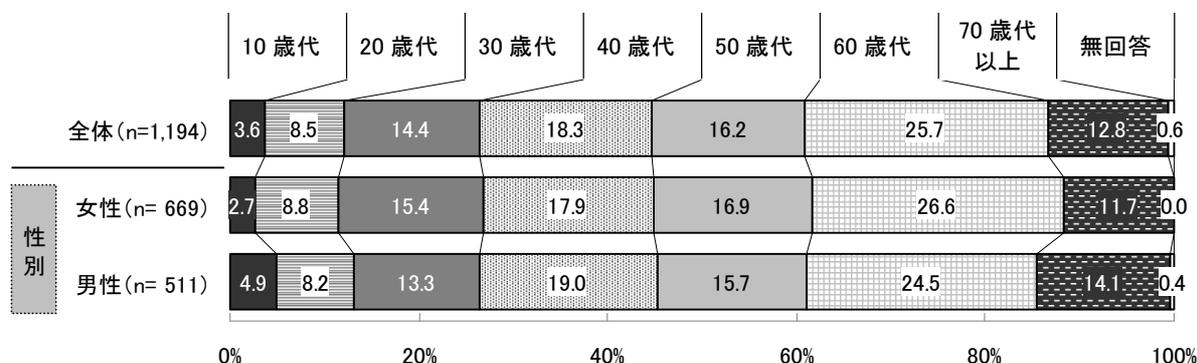
①性別

性別については、「女性」が56.0%、「男性」が42.8%で、「女性」が「男性」を上回っています。 (n=1,194)



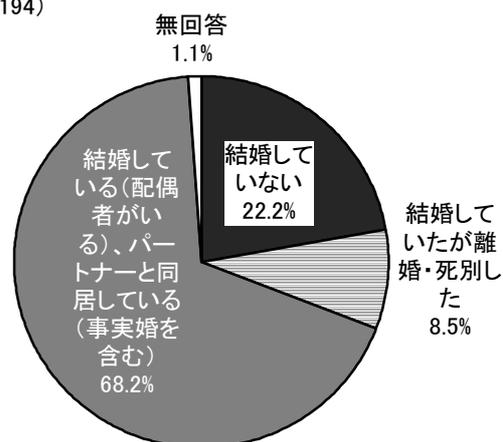
②年齢

年齢については、「60歳代」が25.7%と最も高く、次いで「40歳代」が18.3%、「50歳代」が16.2%となっており、50歳代以上が半数以上を占めています。性別にみても、全体の傾向とほぼ同様となっています。



③結婚

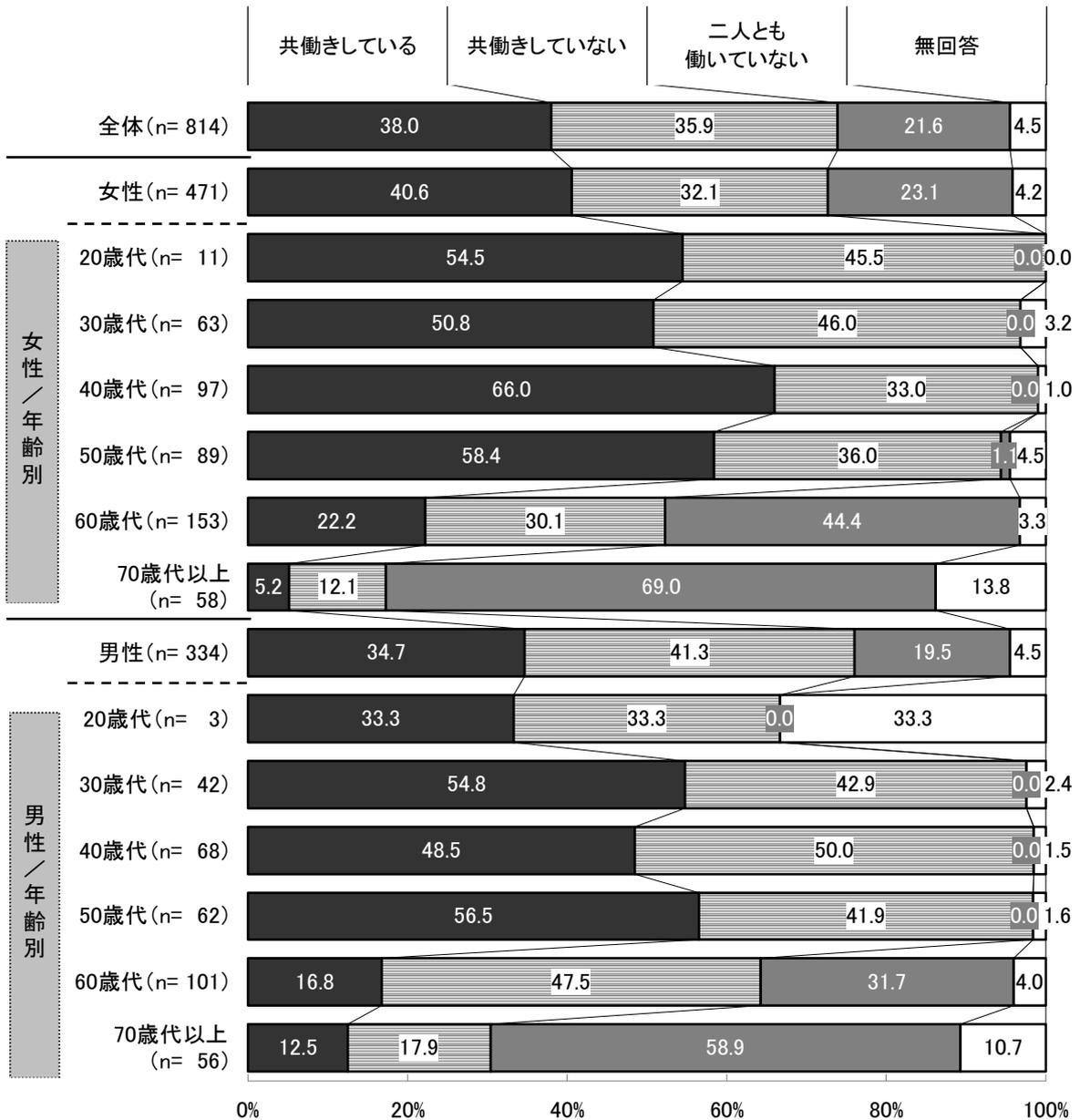
婚姻の状況については、「結婚している（配偶者がいる）、パートナーと同居している（事実婚を含む）」が68.2%と最も高くなっています。 (n=1,194)



【結婚している方のうち、共働きか否か】

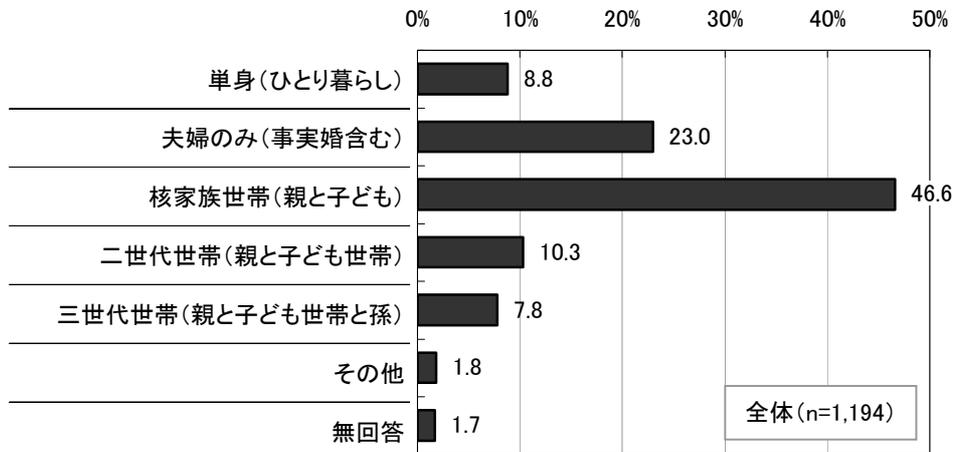
共働きか否かについては、「共働きしている」が38.0%、「共働きしていない」が35.9%で、ほぼ同程度となっています。

性・年齢別にみると、「共働きしている」が、女性では20歳代から50歳代にかけて5割から6割強、男性では30歳代から50歳代にかけて5割前後で高くなっています。



④世帯構成

世帯構成については、「核家族世帯（親と子ども）」が46.6%と最も高く、次いで「夫婦のみ（事実婚含む）」が23.0%となっています。



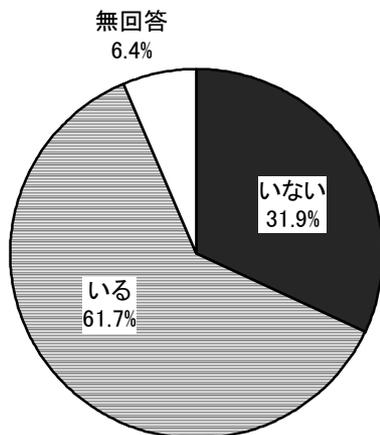
⑤子ども

子どもの有無については、「いる」が61.7%、「いない」が31.9%で、「いる」が「いない」を上回っています。

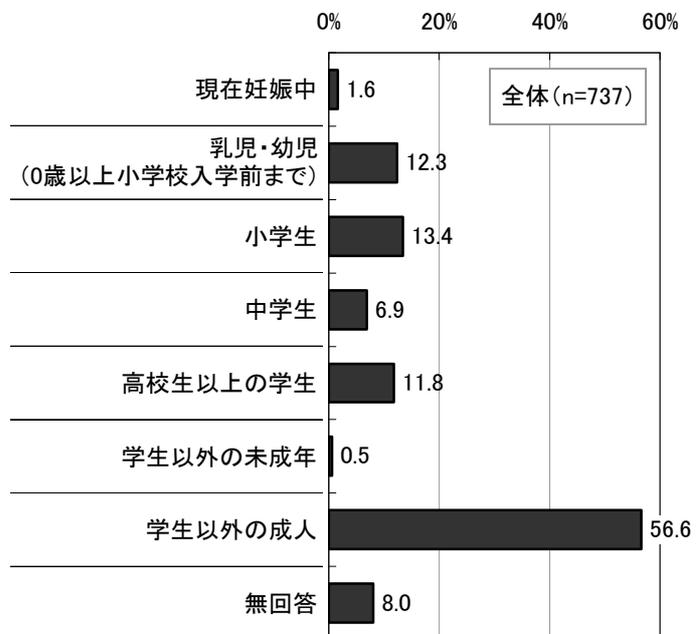
また、子どもの年齢については、「学生以外の成人」が56.6%と最も高くなっています。

【子どもの有無】

(n=1,194)



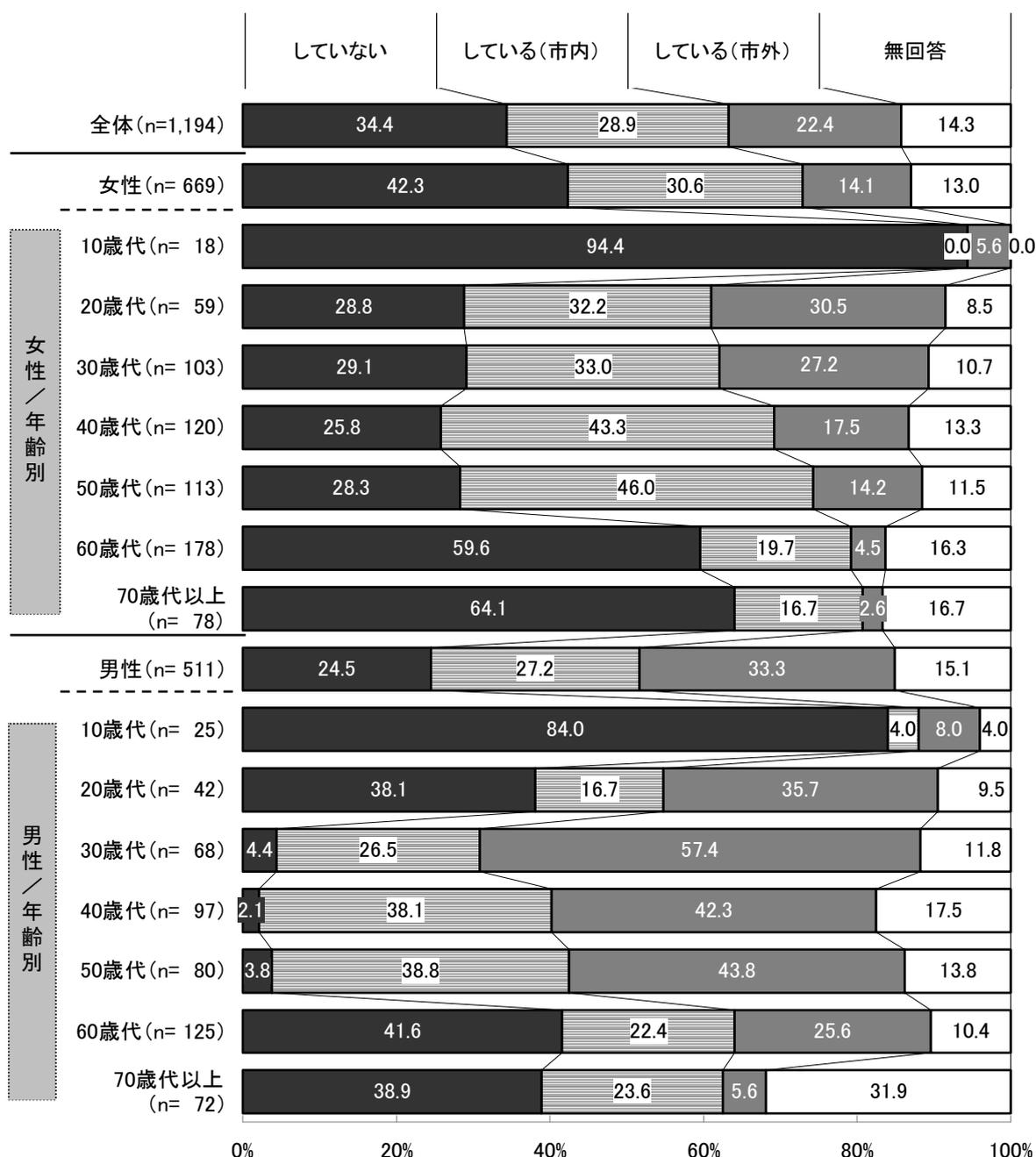
【子どもの年齢】（複数回答）



⑥就業

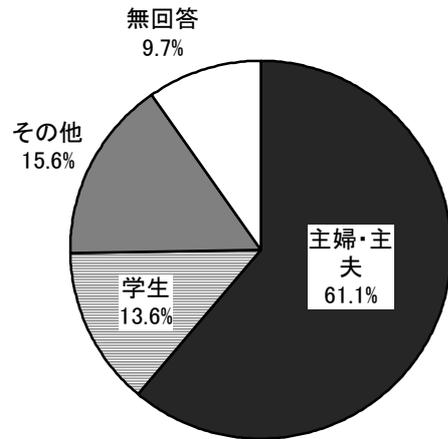
就業の状況については、「していない」が34.4%、「している」が51.3%、そのうち市内就業が28.9%、市外就業が22.4%となっています。

性・年齢別にみると、女性では20歳代から50歳代で「している（市内）」、60歳代以上で「していない」が高くなっています。また、男性では30歳代から50歳代で「している（市外）」、10歳代から20歳代と、60歳代以上では「していない」が高くなっています。



【就業していない人の状況】

就業していない人の状況については、「主婦・主夫」が61.1%と最も高くなっています。(n=411)

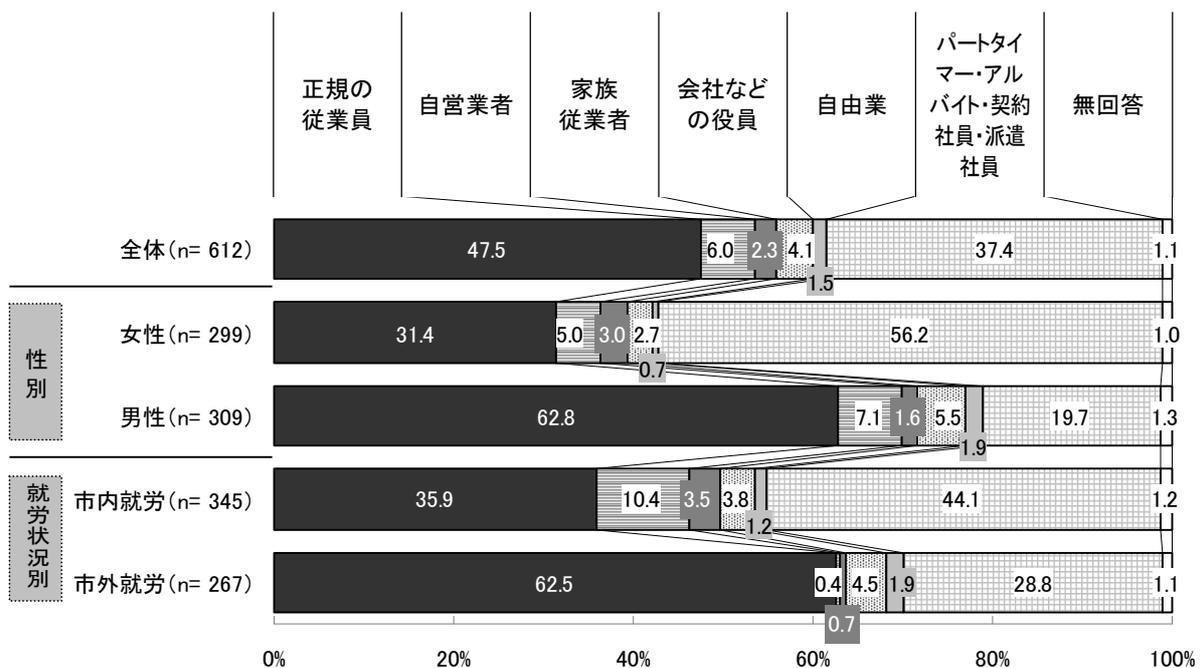


【就業している人の職業】

就業している人の職業については、「正規の従業員」が47.5%と最も高く、次いで「パートタイマー・アルバイト・契約社員・派遣社員」が37.4%となっています。

性別にみると、女性では「パートタイマー・アルバイト・契約社員・派遣社員」が56.2%と半数を超えているのに対し、男性では「正規の従業員」が62.8%と高くなっています。

就労状況別にみると、市内就労では「パートタイマー・アルバイト・契約社員・派遣社員」、市外就労では「正規の従業員」が多いことがわかります。



⑦介護の必要な家族

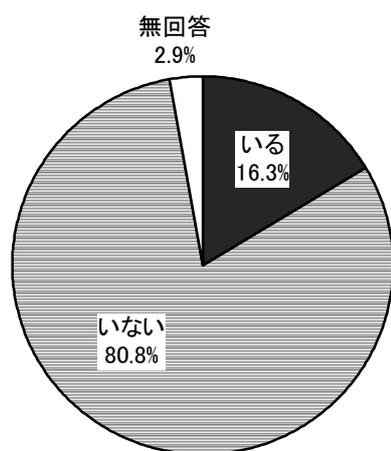
介護の必要な家族の有無については、「いない」が80.8%、「いる」が16.3%で、「いない」が「いる」を上回っています。

また、いる場合の同居か否かについては、「別居」が55.4%と半数を超えています。

介護者との関係については、同居と別居のいずれの場合も「御自身の親」が最も高くなっています。

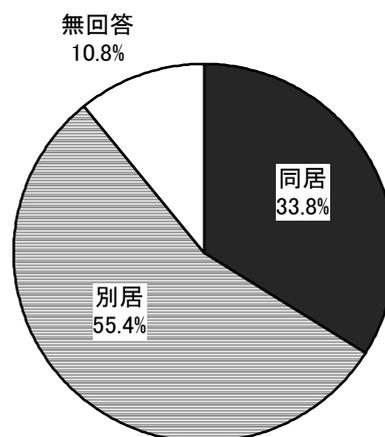
【介護の必要な家族の有無】

(n=1,194)



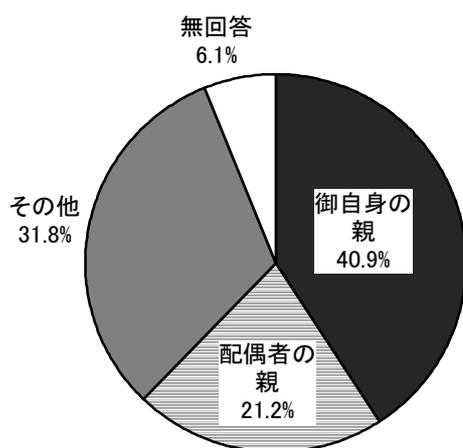
【いる場合、同居か否か】

(n=195)



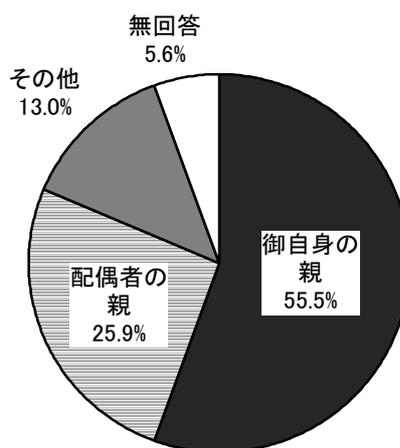
【同居の場合の介護者との関係】

(n=66)



【別居の場合の介護者との関係】

(n=108)



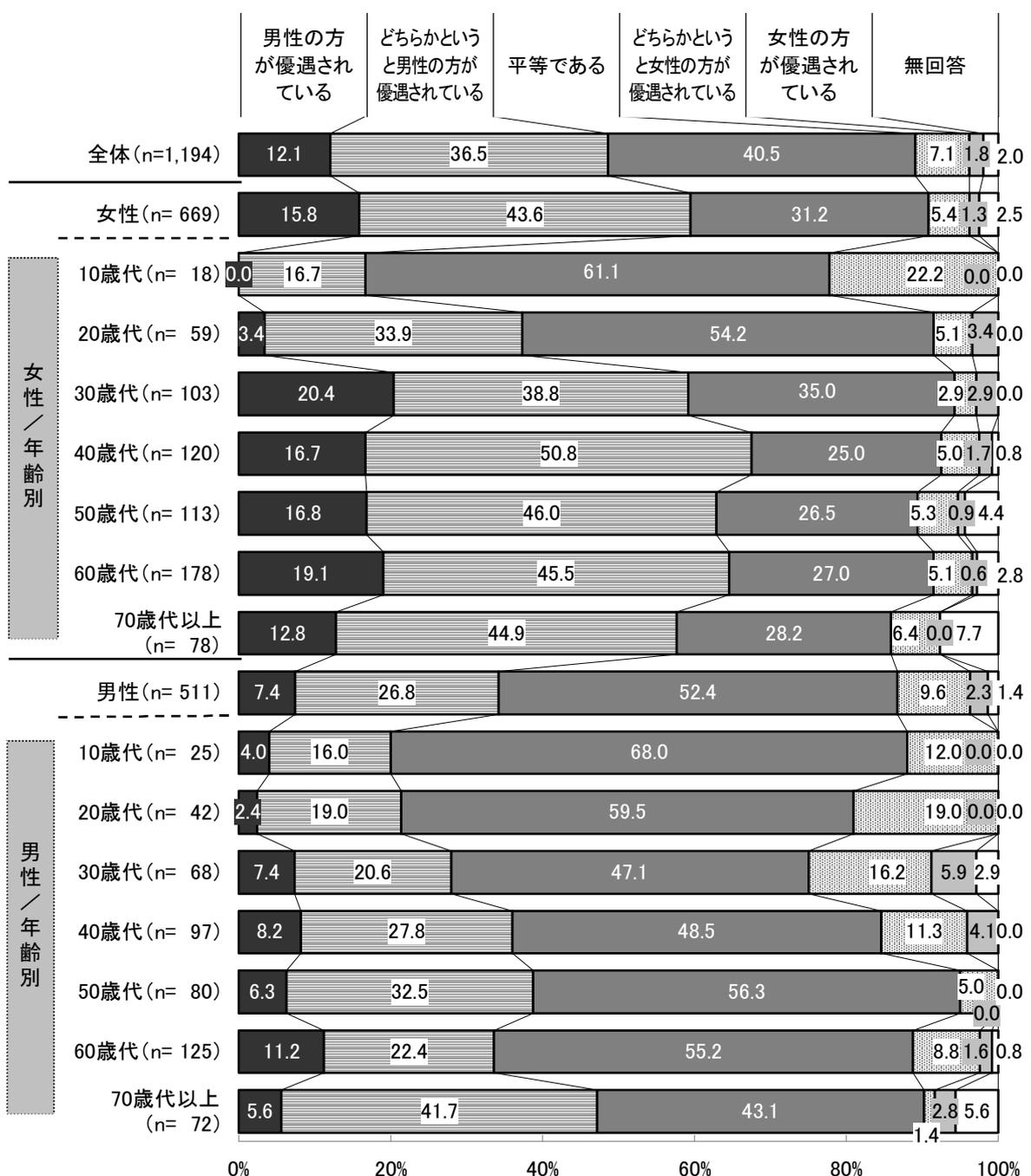
2 男女平等意識と実態について

問1 あなたは次の分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑦の各項目について、1～5の中からあてはまるものを、それぞれ1つ選び、番号に○をつけてください。

①家庭生活

家庭生活における男女の平等感については、「平等である」が40.5%と最も高くなっているものの、「男性の方が優遇されている」と「どちらかというと男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』が48.6%と半数弱を占めています。

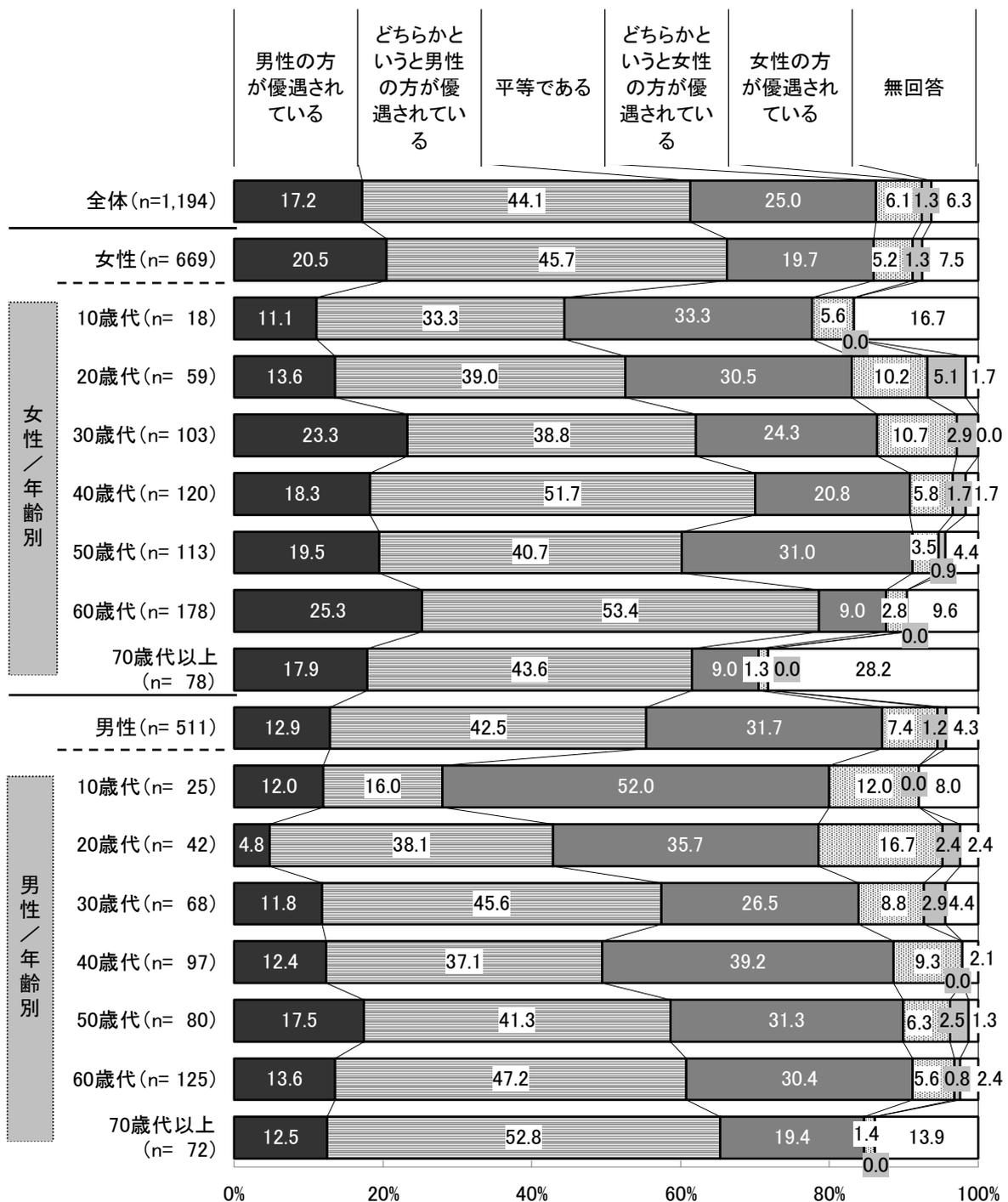
性・年齢別にみると、男性よりも女性で『男性優遇』感が強い傾向がみられ、特に女性の40歳代から60歳代では6割を超えています。



②職場

職場における男女の平等感については、「どちらかというとも男性の方が優遇されている」が44.1%と最も高く、「男性の方が優遇されている」と合わせると『男性優遇』が61.3%となっています。

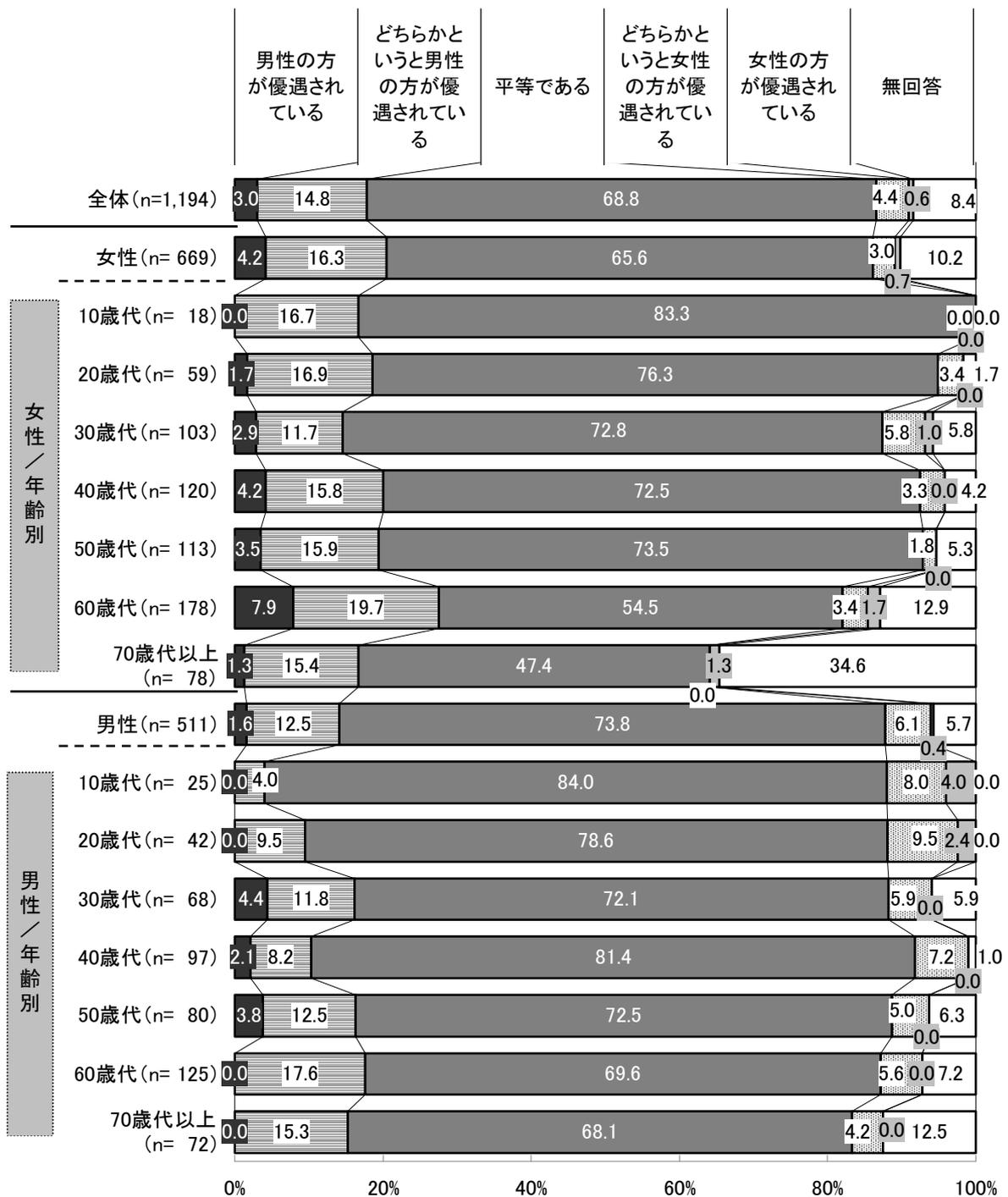
性・年齢別にみると、男性よりも女性で『男性優遇』感が強い傾向がみられ、特に女性の40歳代と60歳代では7割を超えています。



③学校教育の場

学校教育の場における男女の平等感については、「平等である」が 68.8%と最も高くなっています。

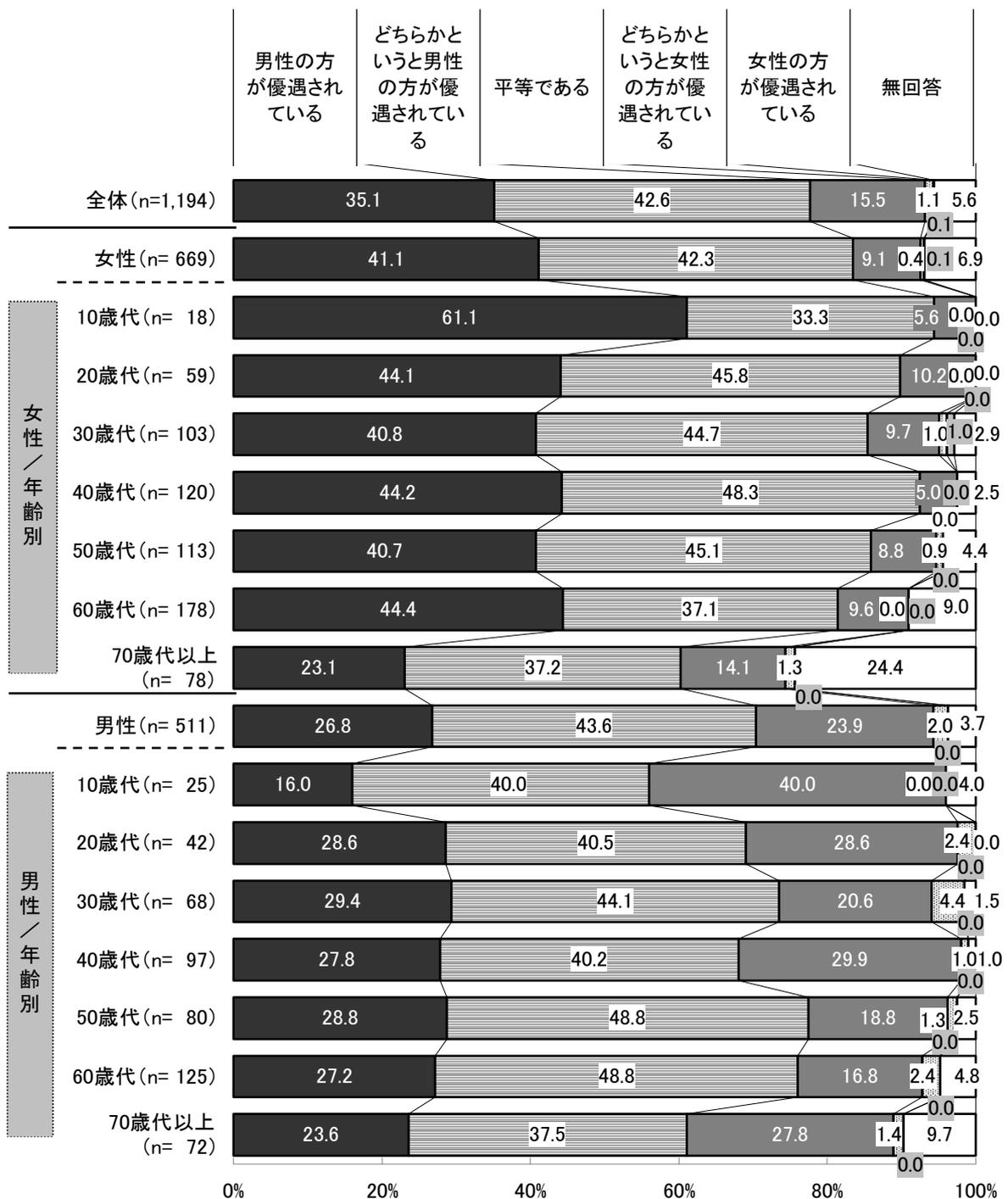
性・年齢別にみると、女性の60歳代で『男性優遇』が3割弱と他の年代に比べやや高くなっているものの、全体的な傾向とほぼ同様であることがわかります。



④政治の場

政治の場における男女の平等感については、「どちらかというと男性の方が優遇されている」が42.6%と最も高く、「男性の方が優遇されている」と合わせると『男性優遇』が77.7%となっています。

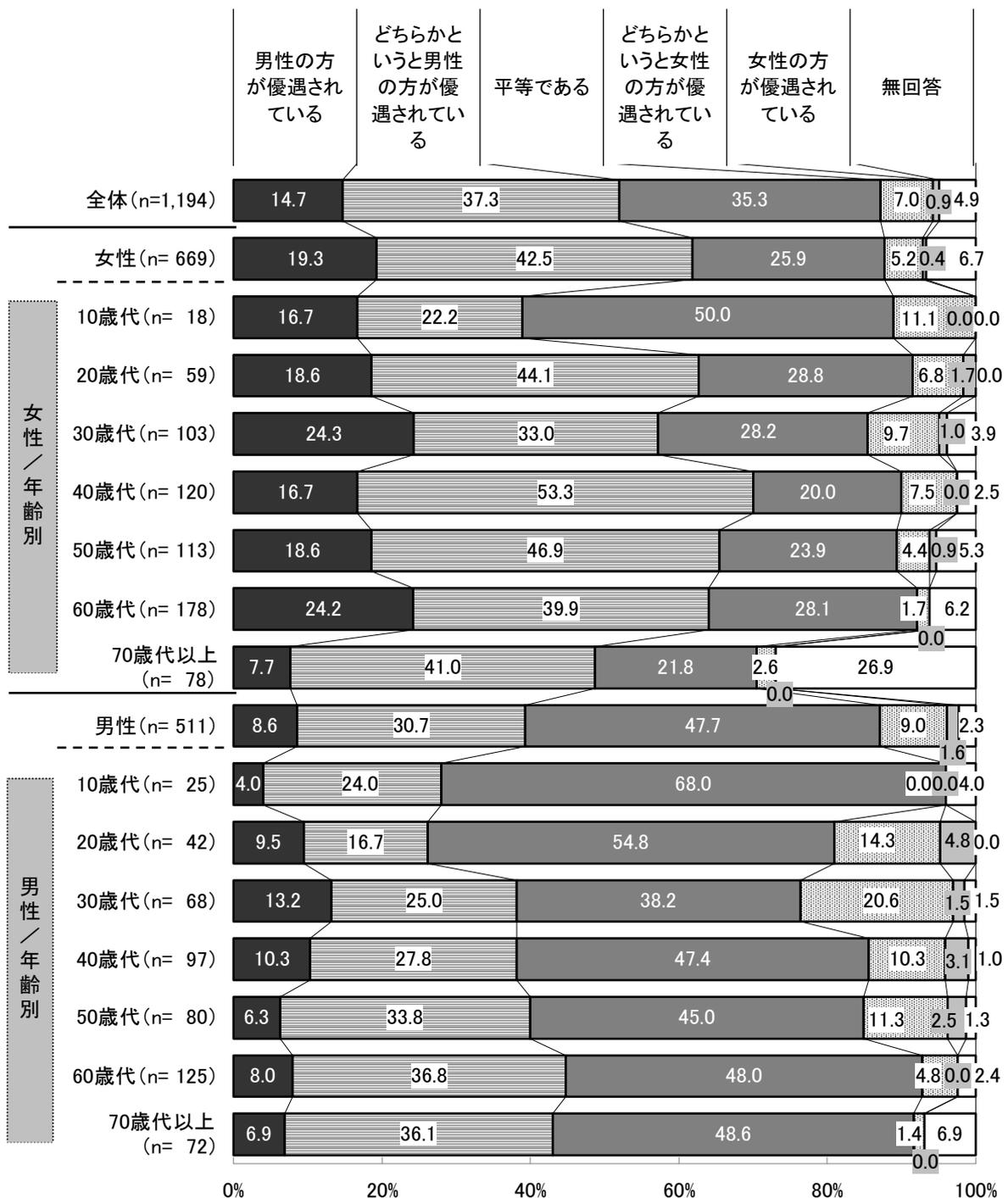
性・年齢別にみると、男性よりも女性で『男性優遇』感が強い傾向がみられ、女性の70歳代以上を除くすべての年代で8割から9割を超えています。



⑤法律や制度上

法律や制度上の男女の平等感については、「どちらかというとな男性の方が優遇されている」が37.3%と最も高く、次いで「平等である」が35.3%となっています。しかし、「男性の方が優遇されている」と「どちらかというとな男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』が52.0%で半数を超えています。

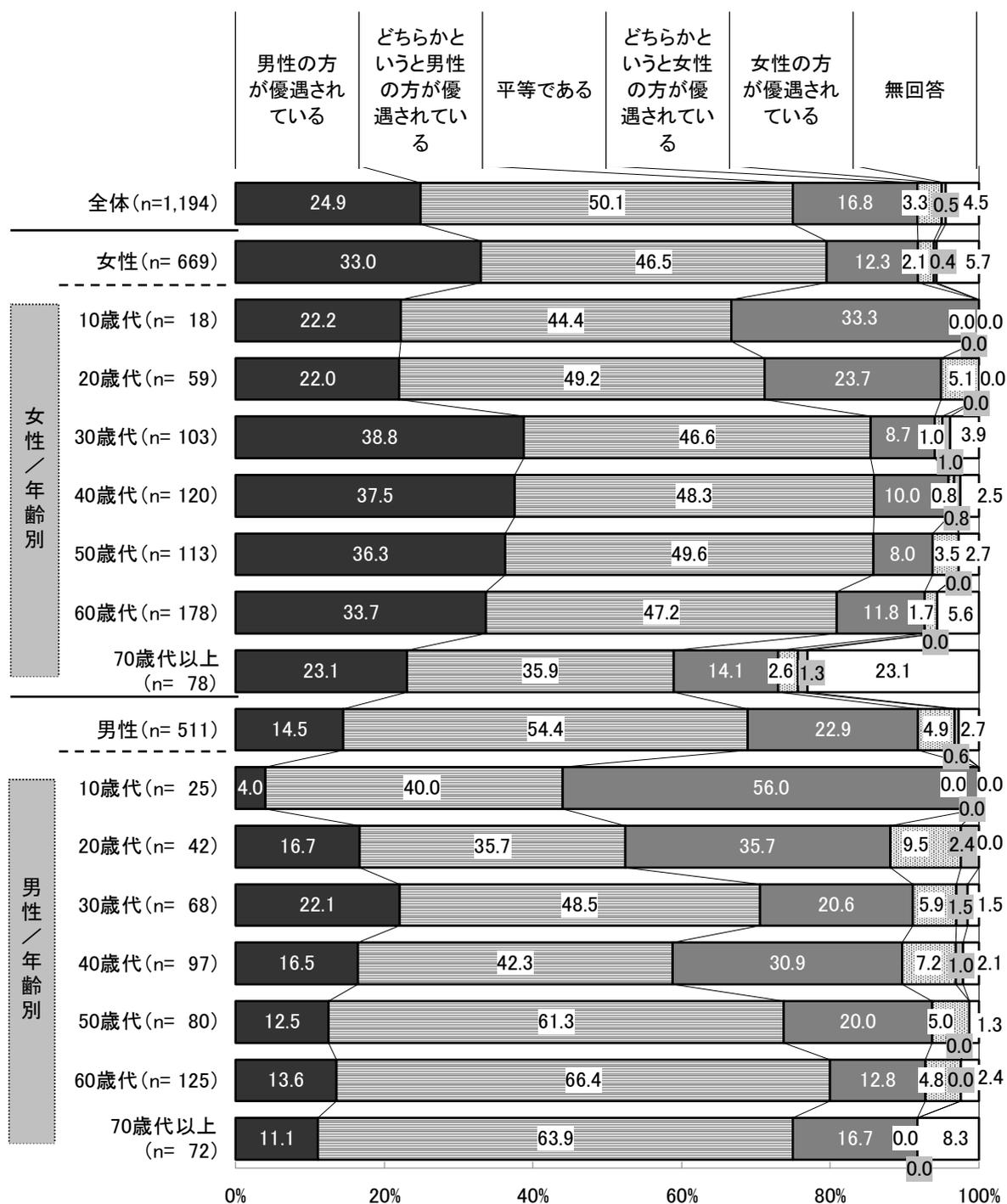
性・年齢別にみると、男性よりも女性で『男性優遇』感が強い傾向がみられます。男性の10歳代と20歳代では「平等である」が5割から6割強、20歳代と30歳代では「女性の方が優遇されている」と「どちらかというとな女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』が2割前後で他の年代よりも高くなっています。



⑥社会通念・慣習・しきたり

社会通念・慣習・しきたりの男女の平等感については、「どちらかというとも男性の方が優遇されている」が50.1%と最も高く、「男性の方が優遇されている」と合わせると『男性優遇』が75.0%と高くなっています。

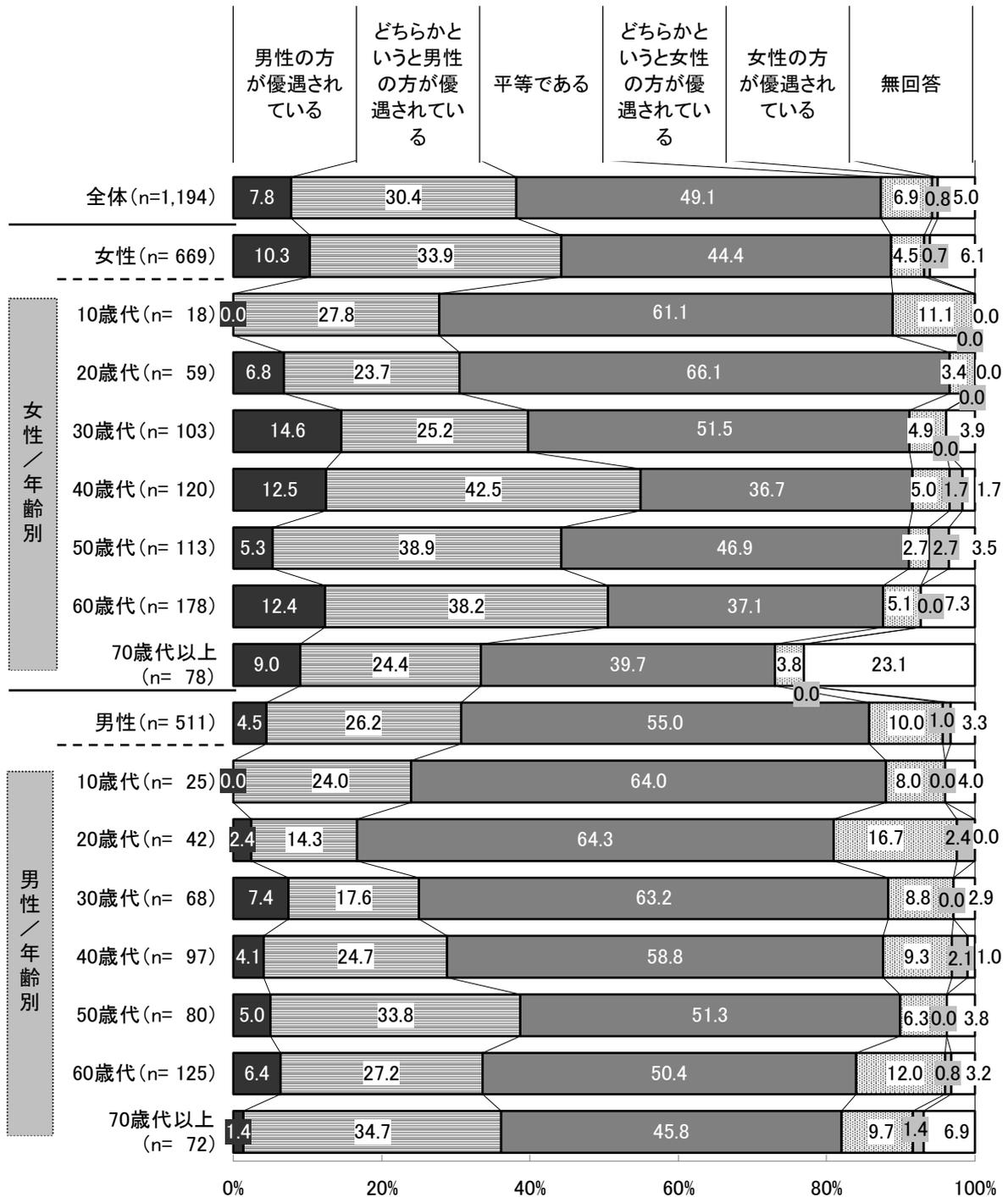
性・年齢別にみると、男性よりも女性で『男性優遇』感が強い傾向がみられ、女性の30歳代から60歳代では8割を超えています。一方で、男性においても30歳代と50歳代以上では『男性優遇』が7割を超えています。



⑦地域活動（自治会・PTA・ボランティア活動など）

地域活動における男女の平等感については、「平等である」が 49.1%とほぼ半数を占めています。

性・年齢別にみると、男女ともに 30 歳代までの比較的若い世代では「平等である」が高くなっているものの、相対的には男性よりも女性で『男性優遇』感が強い傾向がみられます。



①から⑦の各項目間を比較しやすいよう、下式のように各評価に点数を与え、各項目を計算しました。

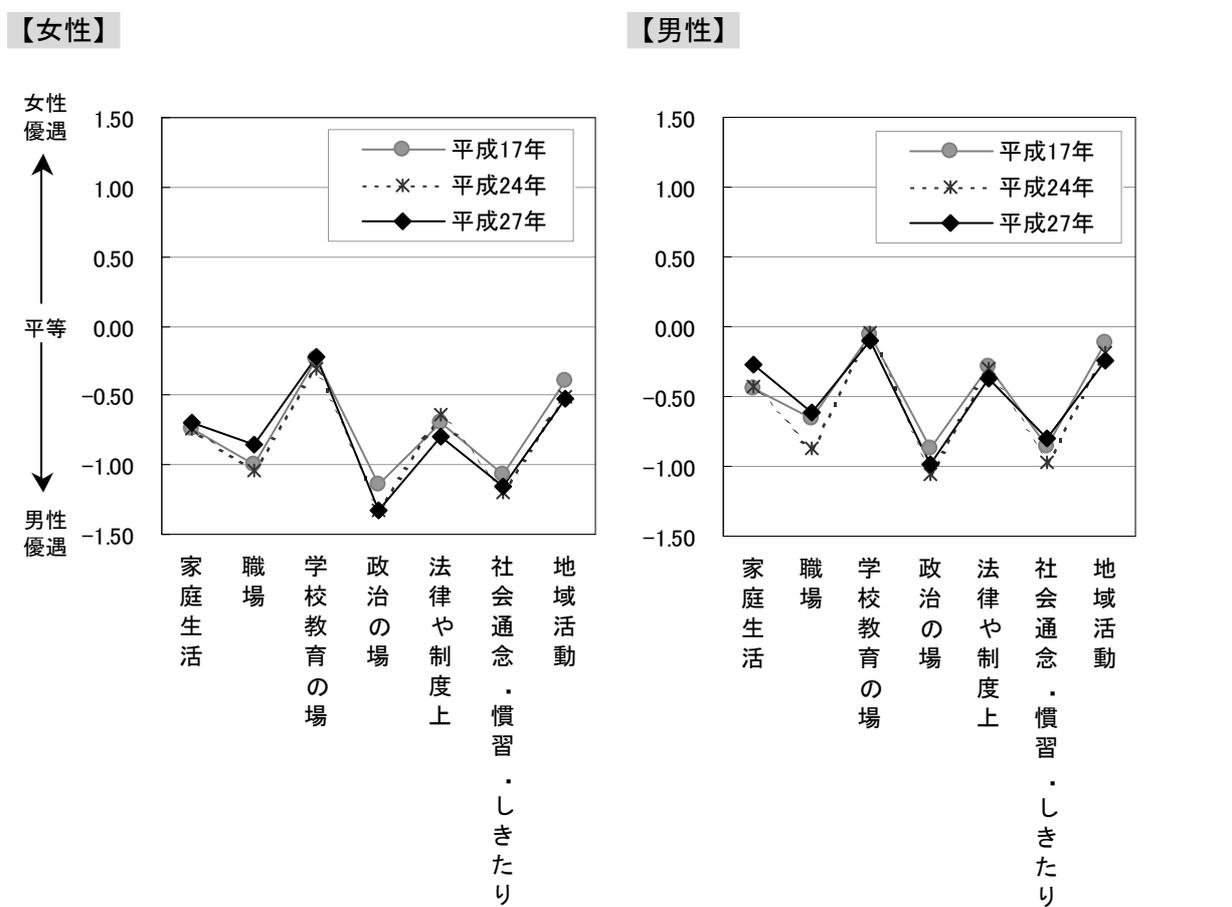
$$\text{平均点評価} = \frac{\text{「女性の方が優遇されている」の回答数} \times 2 \text{点} + \text{「どちらかという女性の方が優遇されている」の回答数} \times 1 \text{点} + \text{「平等である」の回答数} \times 0 \text{点} - \text{「どちらかという男性の方が優遇されている」の回答数} \times 1 \text{点} - \text{「男性の方が優遇されている」の回答数} \times 2 \text{点}}{\text{回答者数}}$$

この算出方法では、「評価点は-2点から+2点の間に分布し、+2点に近いほど『女性の方が優遇されている』、逆に-2点に近いほど『男性の方が優遇されている』」ということになります。

経年比較

平成17年実施の調査と比較すると、女性では「職場」でやや改善の傾向がみられるものの、「政治の場」や「法律や制度上」、「社会通念・慣習・しきたり」、「地域活動」では『男性優遇』感が強まっています。

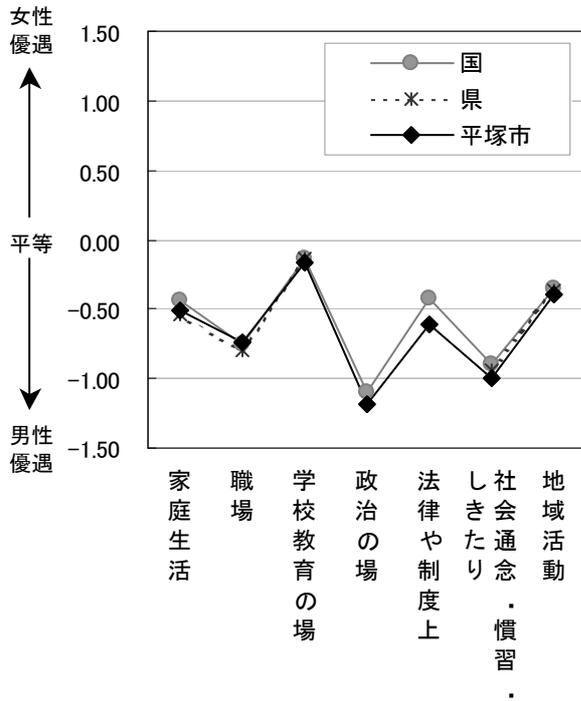
また、男性では「家庭生活」では改善がみられるものの、おおむね10年前と同様の傾向がみられます。



資料：平塚市「男女共同参画に関する市民意識調査」（平成17年度）
平塚市「男女共同参画に関する市民意識調査」（平成24年度）

他調査との比較

※各調査の数値は、前頁の式に従い再計算したものの。

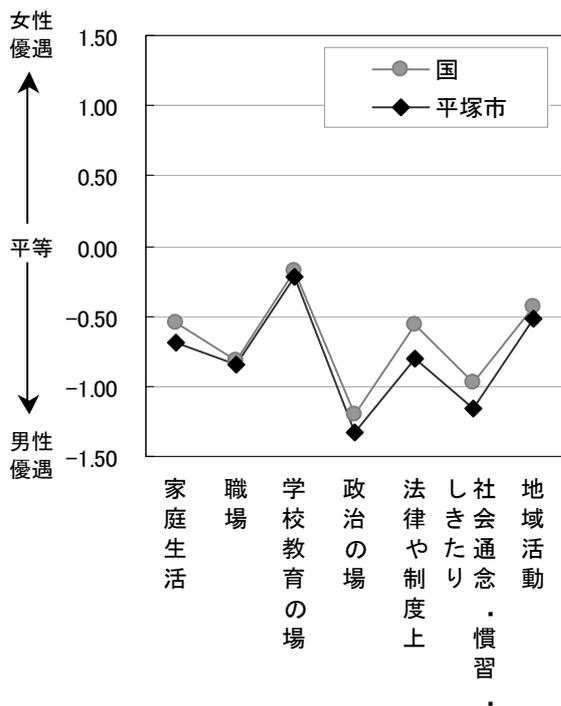


国及び県調査と比較すると、すべての項目でおおむね同様の傾向となっています。しかし、「政治の場」や「法律や制度上」、「社会通念・慣習・しきたり」では、やや国よりも『男性優遇』が強い傾向がうかがえます。

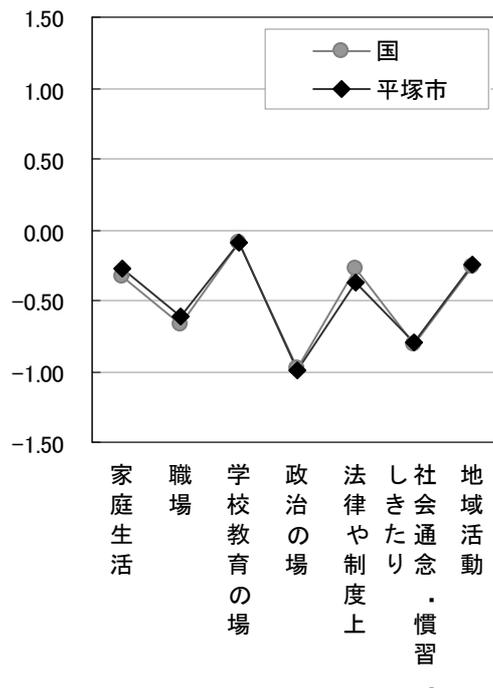
資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（平成 24 年度）
 神奈川県「県民ニーズ調査（第 1 回課題調査）」（平成 23 年度）
 ※県調査では“政治の場”、“法律や制度上”の項目の設定がない。

国調査を性別で比較すると、男性はおおむね同様の傾向を示しているのに対し、女性では「家庭生活」、「政治の場」「法律や制度上」、「社会通念・慣習・しきたり」の項目で、国よりも『男性優遇』が強いことがわかります。

【女性】



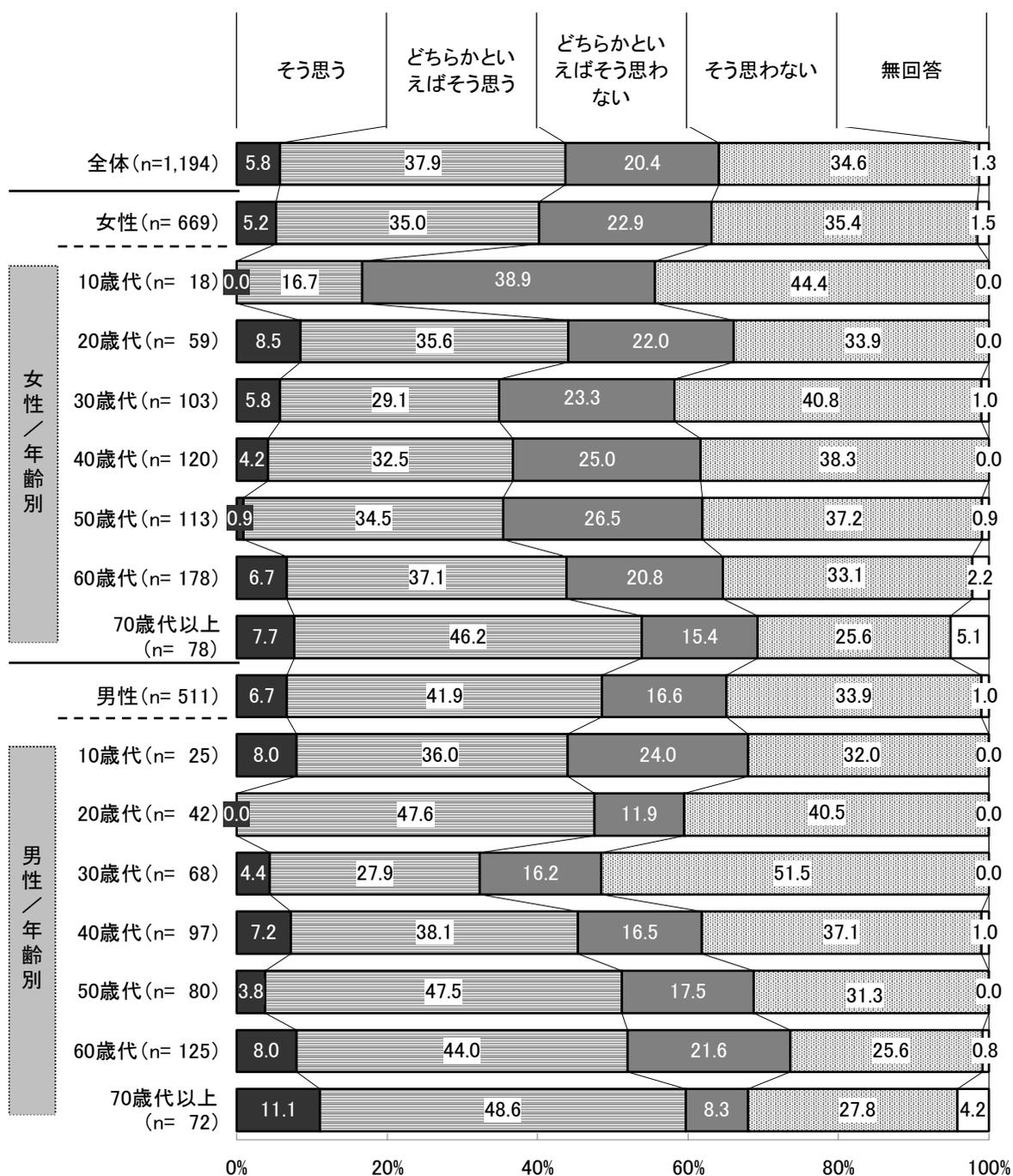
【男性】



問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方がありますが、あなたはどうか考えですか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

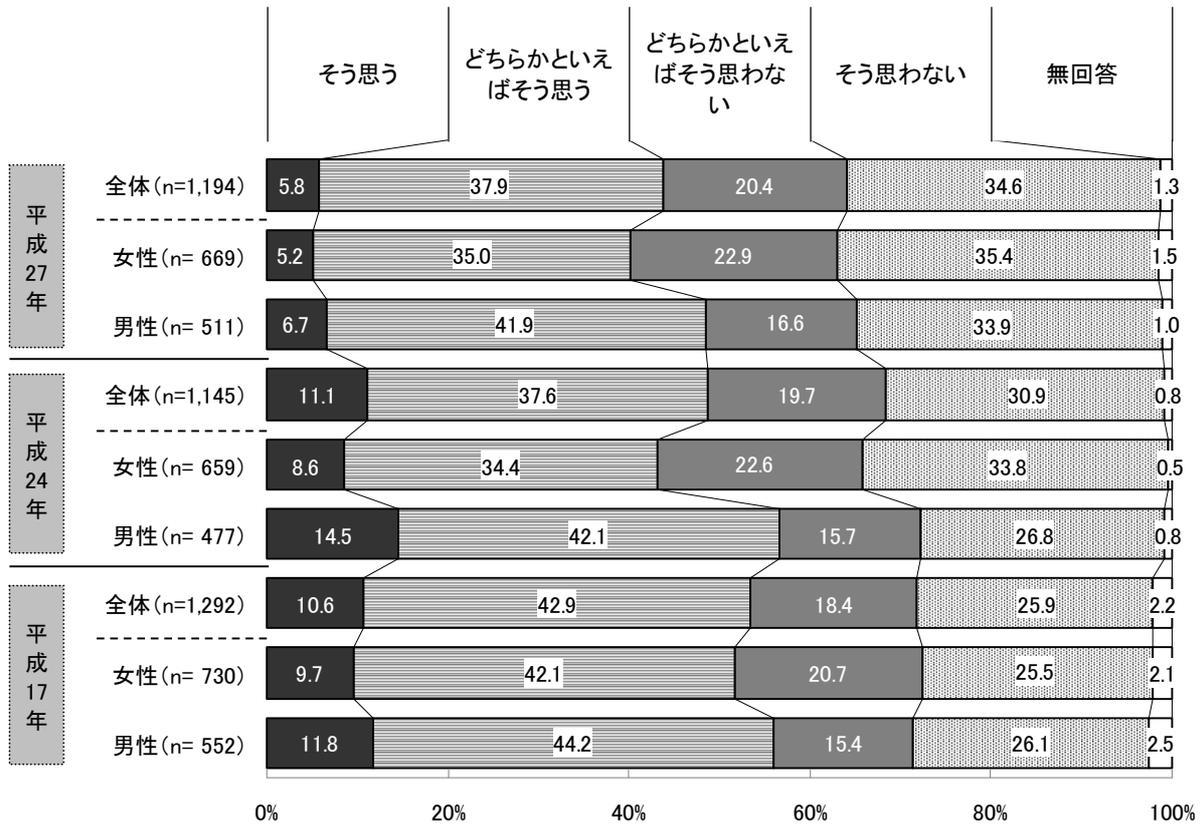
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方については、「どちらかといえばそう思う」が37.9%で最も高く、次いで「そう思わない」が34.6%となっています。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』が55.0%と半数を超えています。

性・年齢別にみると、全体的な傾向はおおむね同様となっています。また、男女とも50歳代以上で「どちらかといえばそう思う」と「そう思う」を合わせた『そう思う』が、年齢とともに増加する傾向がうかがえます。



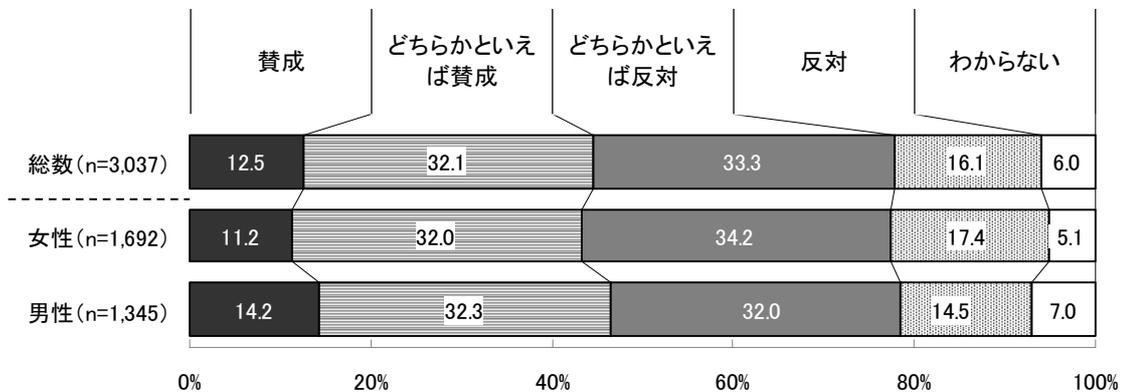
経年比較

過去に実施した調査と比較すると、平成 17 年には全体及び男女いずれも『そう思う』が『そう思わない』を上回っていたものの、平成 24 年には全体と女性で、今回の調査で全体及び男女いずれも『そう思わない』が『そう思う』を上回り、意識に変化がみられます。



資料：平塚市「男女共同参画に関する市民意識調査」（平成 17 年度）
平塚市「男女共同参画に関する市民意識調査」（平成 24 年度）

■参考データ

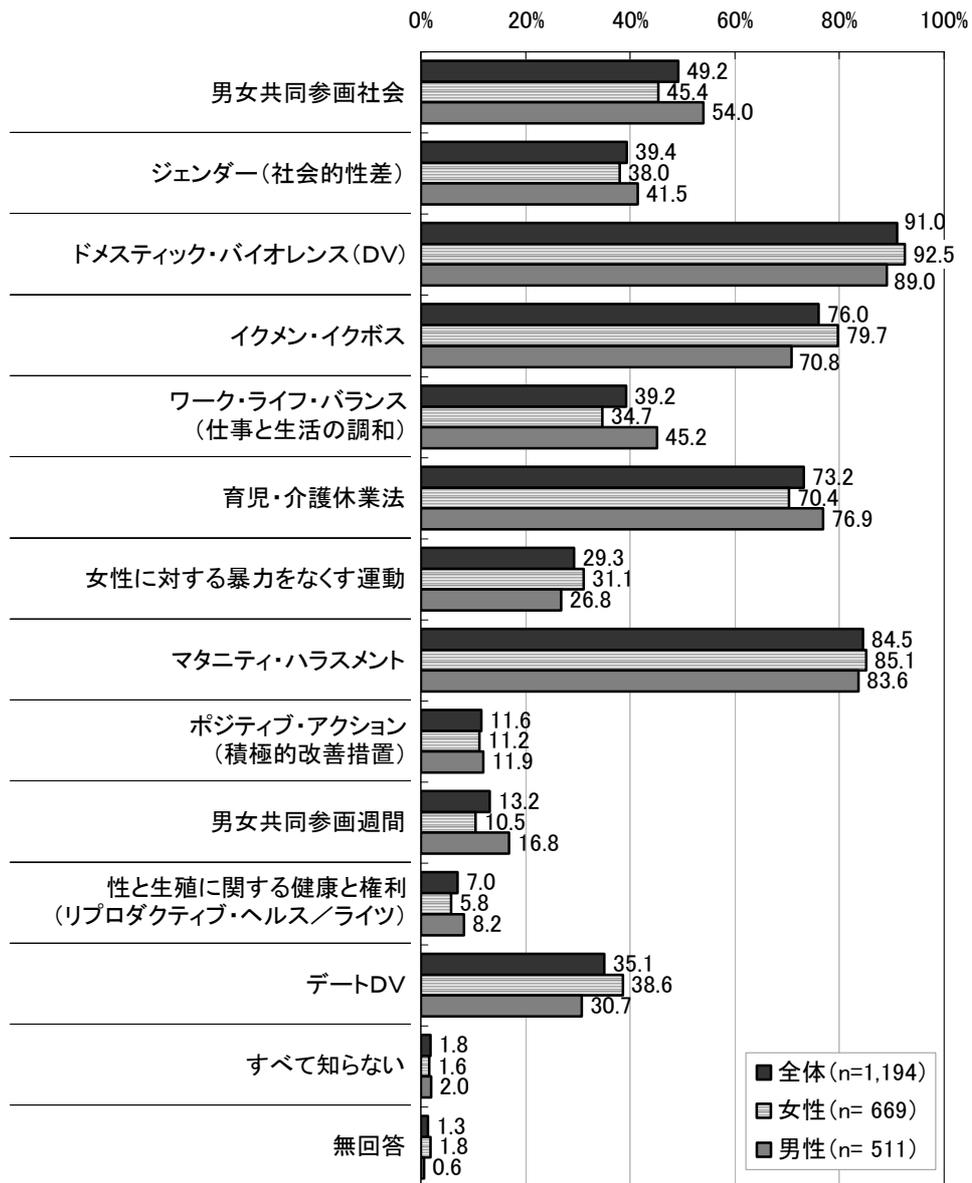


資料：内閣府「女性の活躍推進に関する世論調査」（平成 26 年度）

問3 男女共同参画に関する次の1～12の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりして知っているものについて、すべてを選び、番号に○をつけてください。

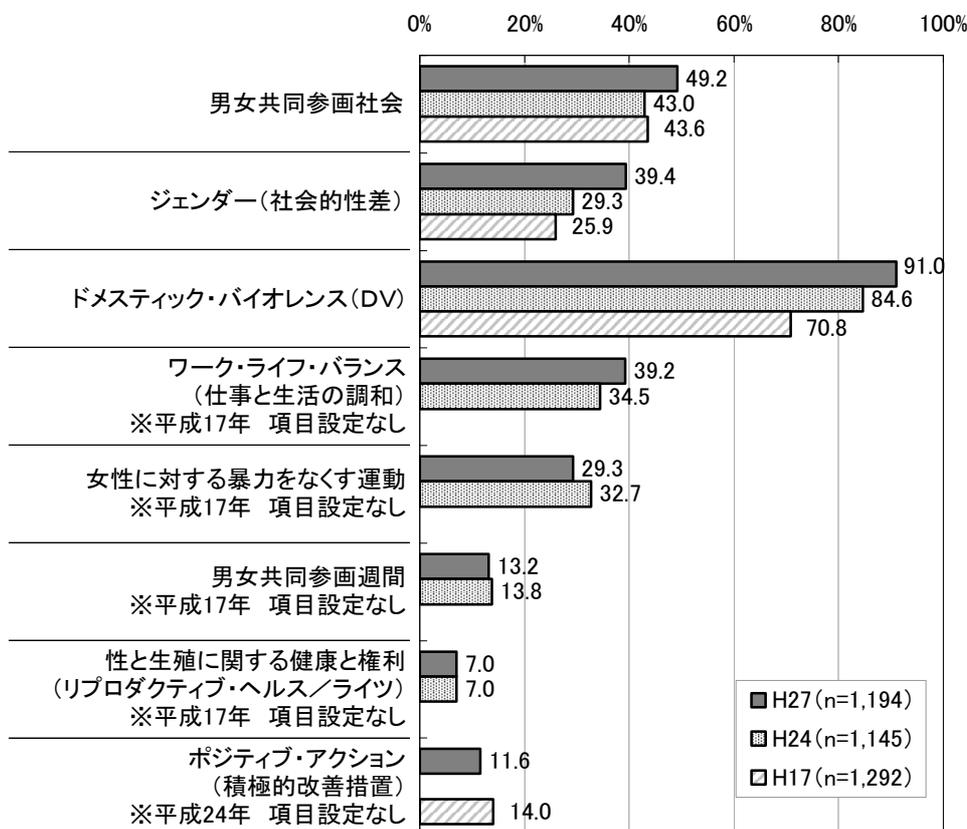
男女共同参画に関する言葉の認知については、「ドメスティック・バイオレンス(DV)」が91.0%と最も高く、次いで「マタニティ・ハラスメント」が84.5%、「イクメン・イクボス」が76.0%となっています。

性別にみると、全体的な傾向はほぼ同様となっているものの、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」は男性が女性を10ポイント以上上回っています。



経年比較

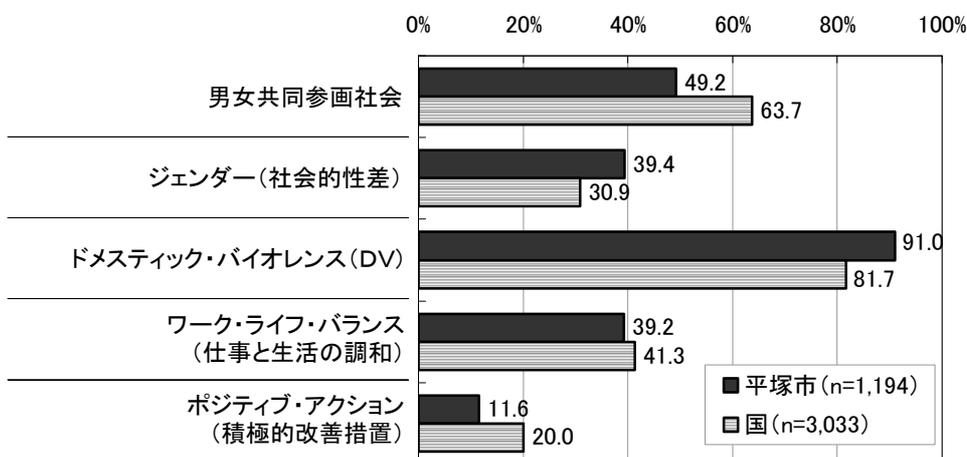
過去に実施した調査と比較すると、おおむねすべての項目で数値の上昇がみられます。しかし、「女性に対する暴力をなくす運動」、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」ではやや数値が減少しています。



資料：平塚市「男女共同参画に関する市民意識調査」(平成17年度)
平塚市「男女共同参画に関する市民意識調査」(平成24年度)

他調査との比較

国調査と比較すると、「男女共同参画社会」や「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」、「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」で国よりも数値が下回っています。



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成24年度)

3 社会参画について

内閣府は、2020年までに、社会のあらゆる指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%にするという「2020年30%」の目標を掲げています。

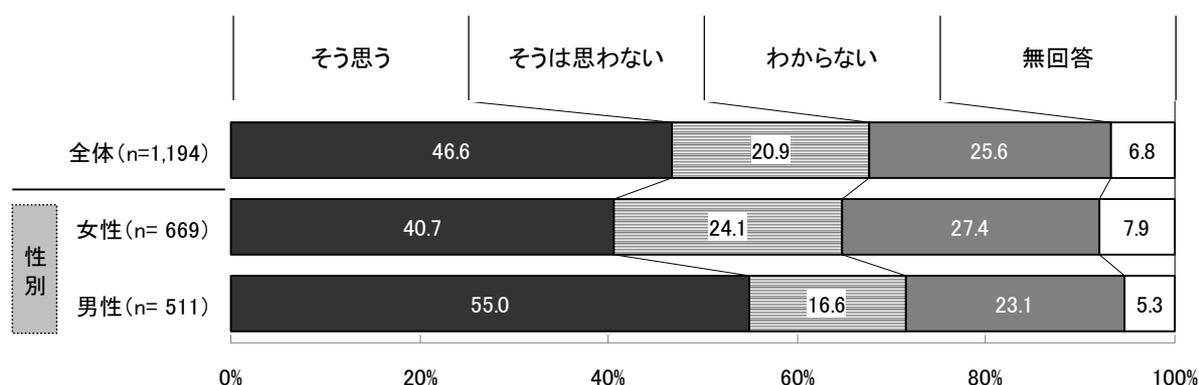
それでは、次の①～⑤にあげる役職や公職に女性が就くことについて、あなたの考えを伺います。

問4 ①～⑤の役職や公職に、あなたは「女性をもっと就いた方がよい」と思いますか。1～3の中からそれぞれ1つ選び、番号に○をつけてください。

①PTA会長

PTA会長に「女性をもっと就いた方がよい」と思うかについては、「そう思う」が46.6%と約半数を占めています。

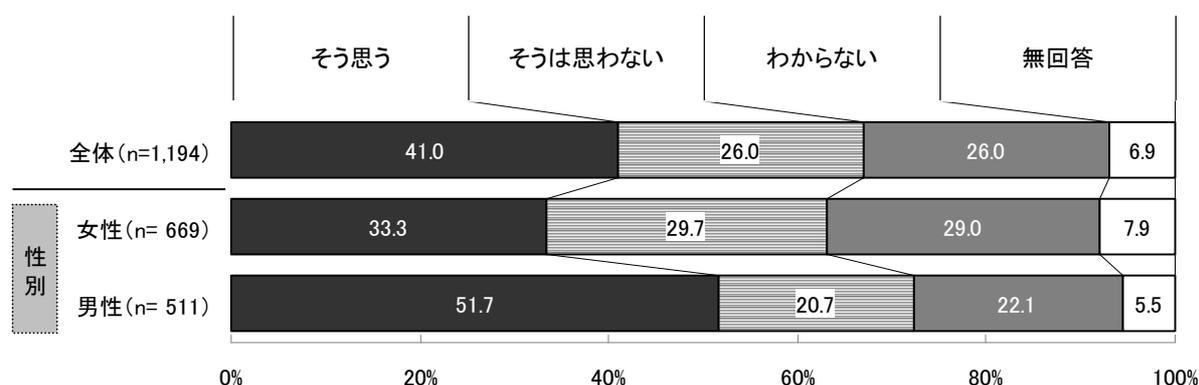
性別にみると、女性よりも男性で「そう思う」が高く、約15ポイント上回っています。



②自治会長

自治会長に「女性をもっと就いた方がよい」と思うかについては、「そう思う」が41.0%で、「そうは思わない」を上回っています。

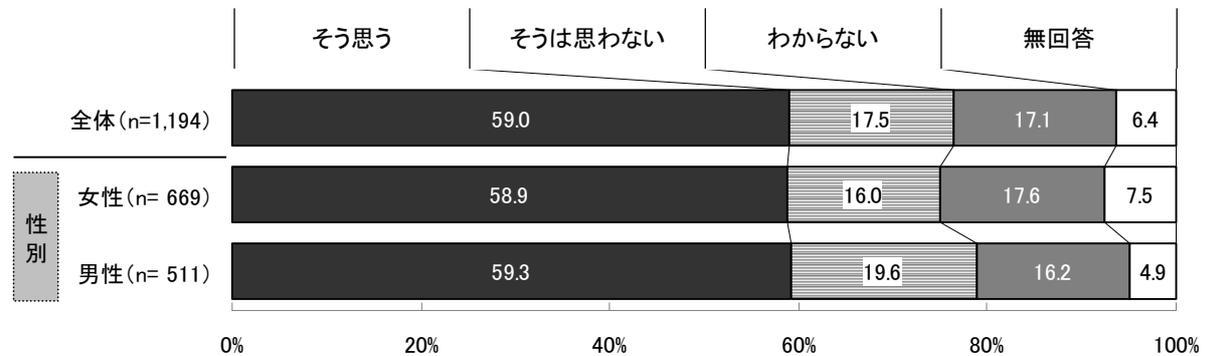
性別にみると、女性よりも男性で「そう思う」が高く、20ポイント弱上回っています。



③職場の管理職

職場の管理職に「女性がもっと就いた方がよい」と思うかについては、「そう思う」が 59.0%と約6割を占めています。

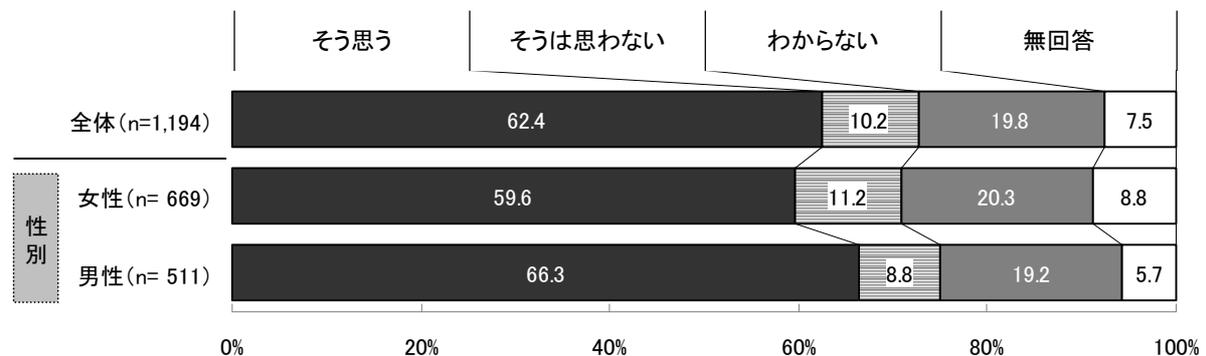
性別にみると、男女ともにおおむね同様の傾向を示しています。



④市の審議会等の委員

市の審議会等の委員に「女性がもっと就いた方がよい」と思うかについては、「そう思う」が 62.4%と6割以上を占めています。

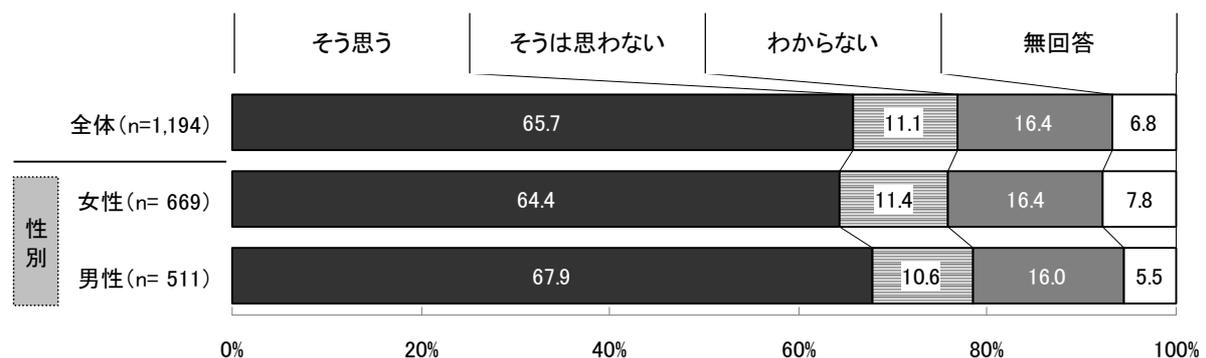
性別にみると、男女ともにおおむね同様の傾向を示しているものの、「そう思う」で男性が女性を5ポイント以上上回っています。



⑤市議会議員

市議会議員に「女性がもっと就いた方がよい」と思うかについては、「そう思う」が 65.7%と6割以上を占めています。

性別にみると、男女ともにおおむね同様の傾向を示しています。



問5 もしも、①～⑤の役職や公職に、就任や立候補を依頼されたらどうしますか。

- ・あなたが女性の場合には、ご自身が承諾するかどうか
- ・あなたが男性の場合には、あなたの配偶者・パートナー（いない方は、いることを想定して）について賛成するかどうか

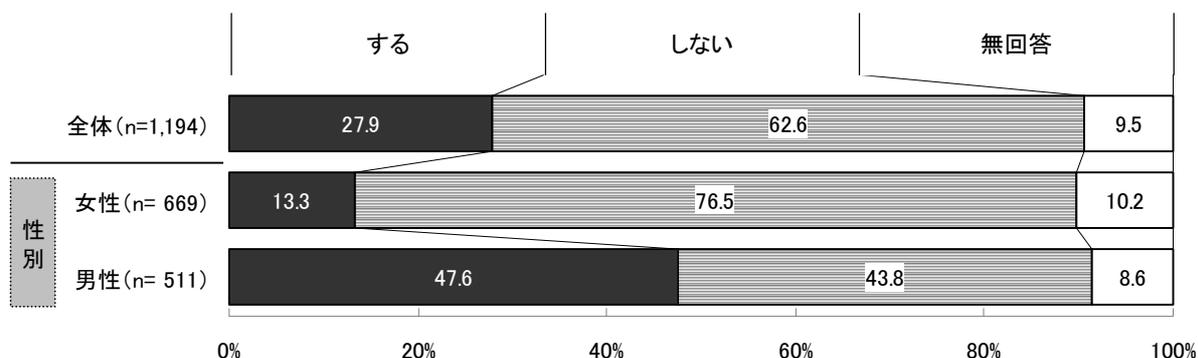
あなたの考えはどちらですか。①～⑤の各項目について、それぞれ1つ選び、番号に○をつけてください。また、「5 承諾しない又は賛成しない」に○をした場合には、さらにその理由を1～9の中から1つ選び、○をつけてください。

①PTA会長

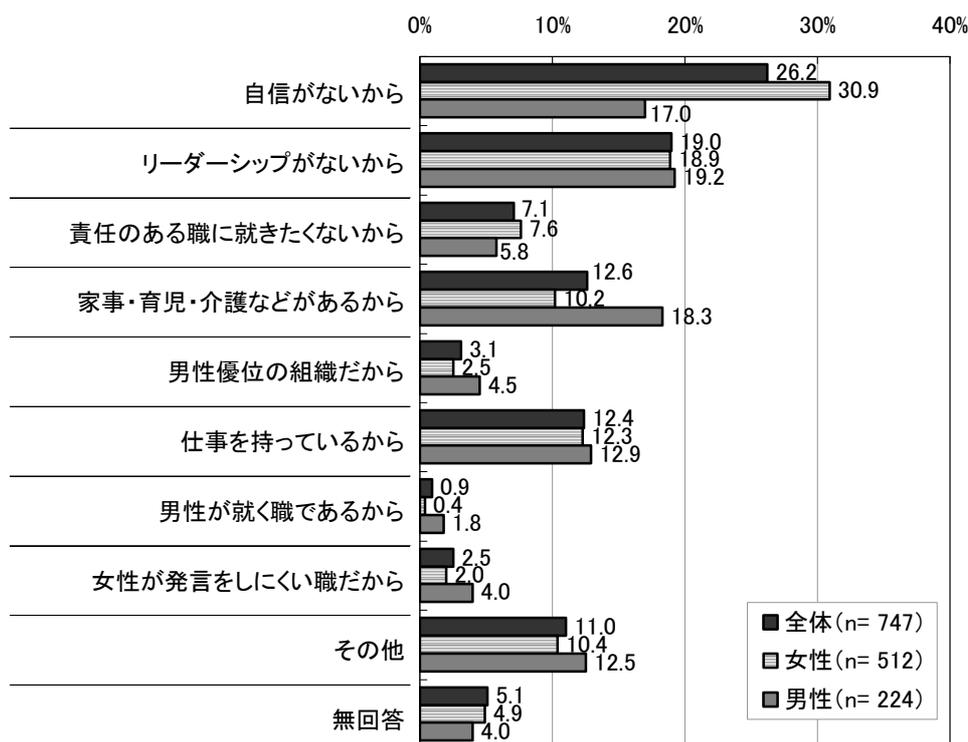
PTA会長に就任や立候補を依頼された場合の対応については、「承諾しない又は賛成しない」が62.6%と6割を超えています。

性別にみると、男性よりも女性で「しない」が高く、30ポイント以上上回っています。

また、「承諾しない又は賛成しない」理由については、全体及び女性では「自信がないから」、男性では「リーダーシップがないから」が最も高くなっています。



【承諾しない又は賛成しない場合の理由】

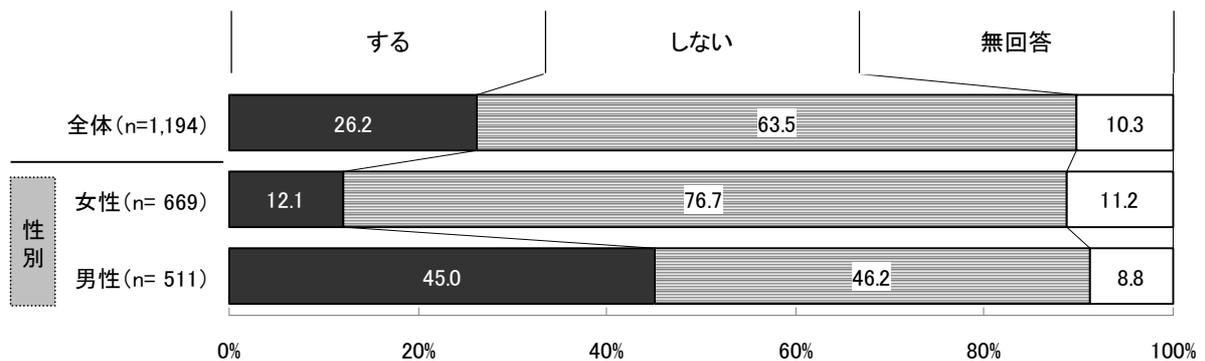


②自治会長

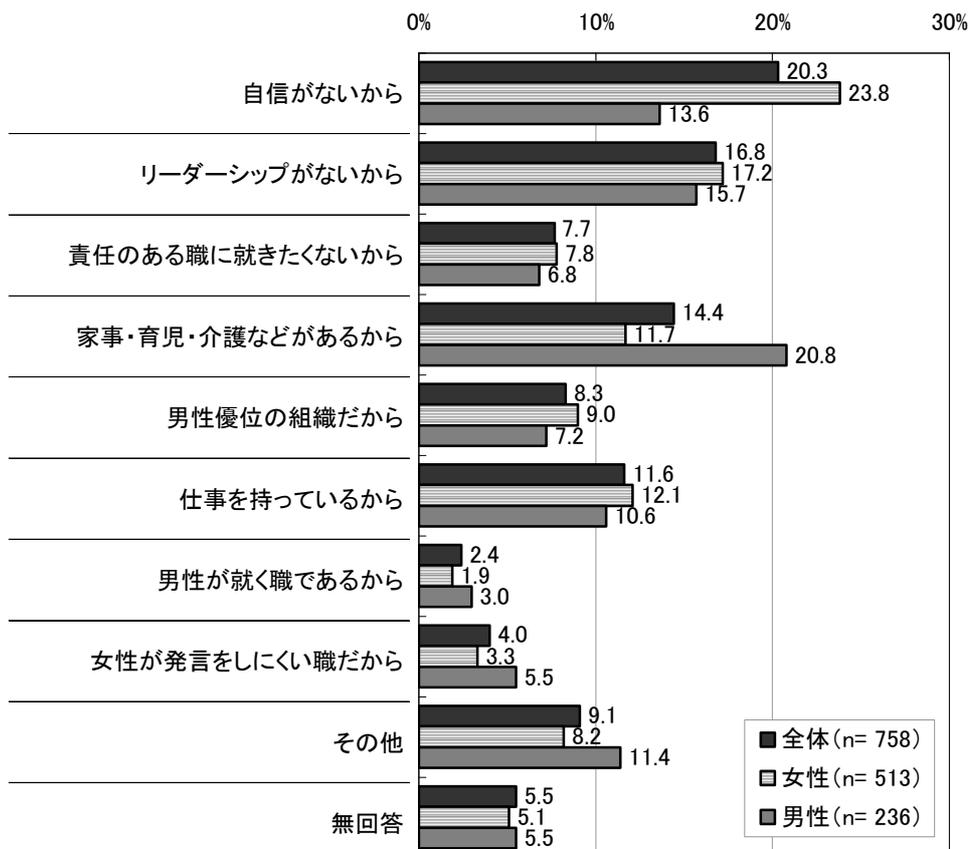
自治会長に就任や立候補を依頼された場合の対応については、「承諾しない又は賛成しない」が63.5%と6割を超えています。

性別にみると、男性よりも女性で「しない」が高く、約30ポイント上回っています。

また、「承諾しない又は賛成しない」理由については、全体及び女性では「自信がないから」、男性では「家事・育児・介護などがあるから」が最も高くなっています。



【承諾しない又は賛成しない場合の理由】

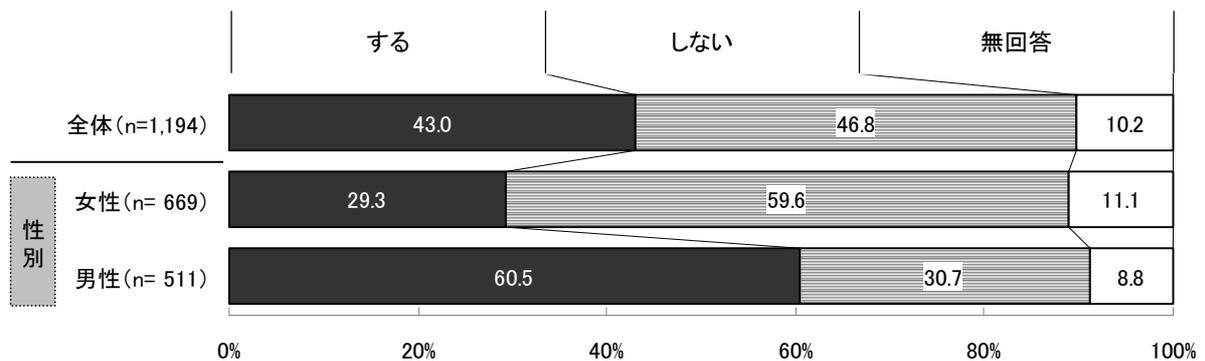


③職場の管理職

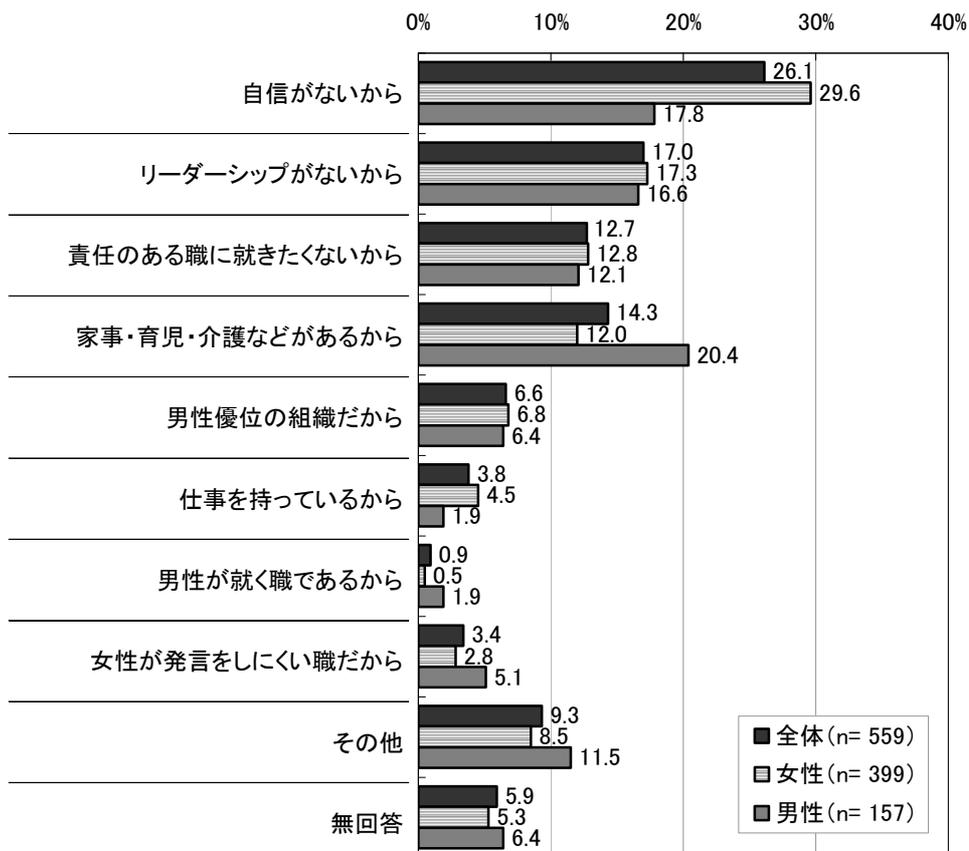
職場の管理職に就任や立候補を依頼された場合の対応については、「承諾しない又は賛成しない」が46.8%、「承諾する又は賛成する」が43.0%とほぼ同程度となっています。

性別にみると、男性よりも女性で「しない」が高く、約30ポイント上回っています。

また、「承諾しない又は賛成しない」理由については、全体及び女性では「自信がないから」、男性では「家事・育児・介護などがあるから」が最も高くなっています。



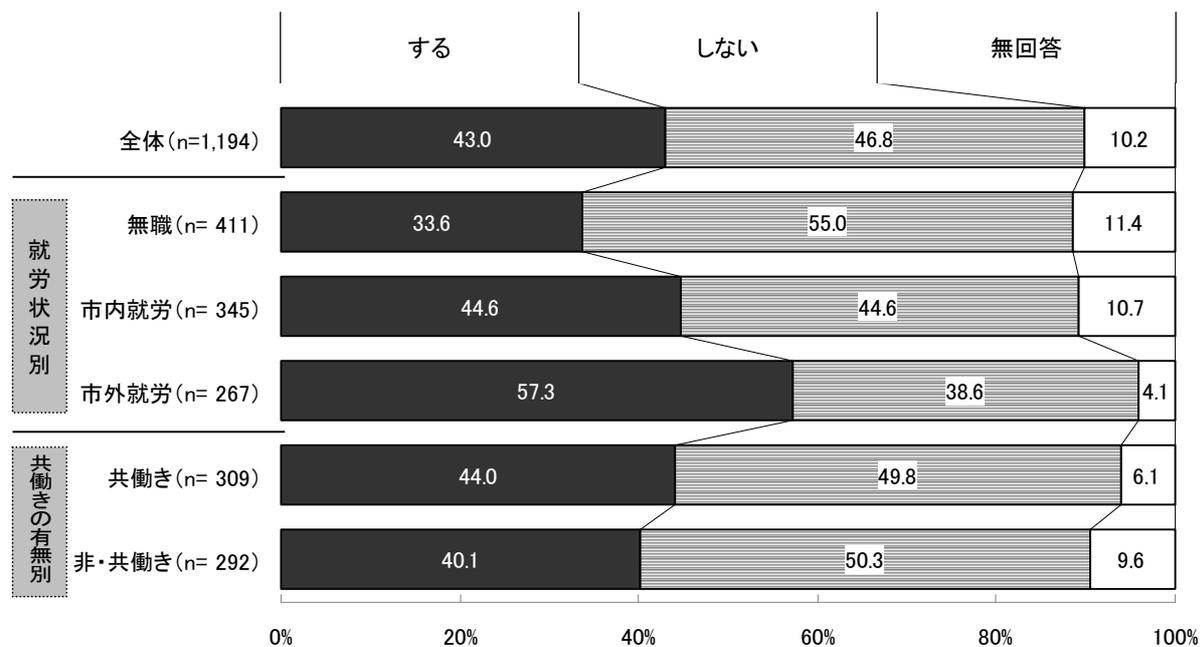
【承諾しない又は賛成しない場合の理由】



就労状況別／共働きの有無別

就労状況別にみると、無職では「承諾しない又は賛成しない」、市外就労では「する」が、それぞれ過半数となっています。また、市内就労では「する」と「しない」が同程度となっています。

共働きの有無別にみると、いずれも「しない」が半数程度で「する」を上回っているものの、非・共働きよりも共働きで「する」がやや高くなっています。

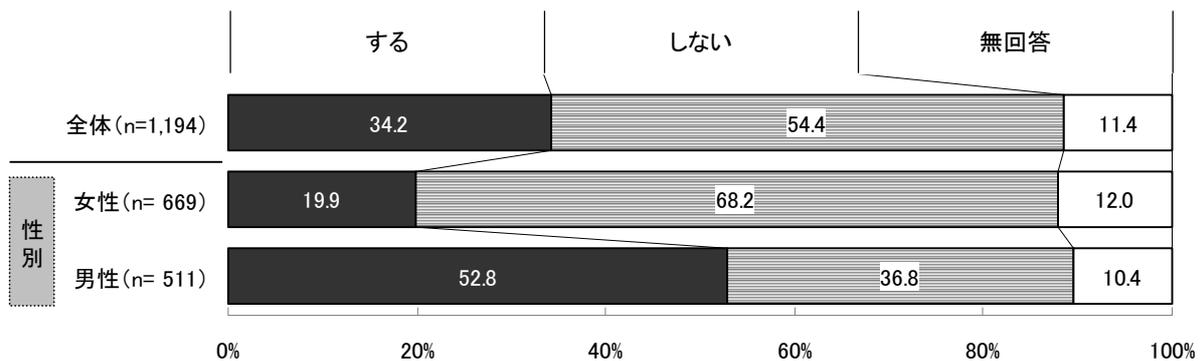


④市の審議会等の委員

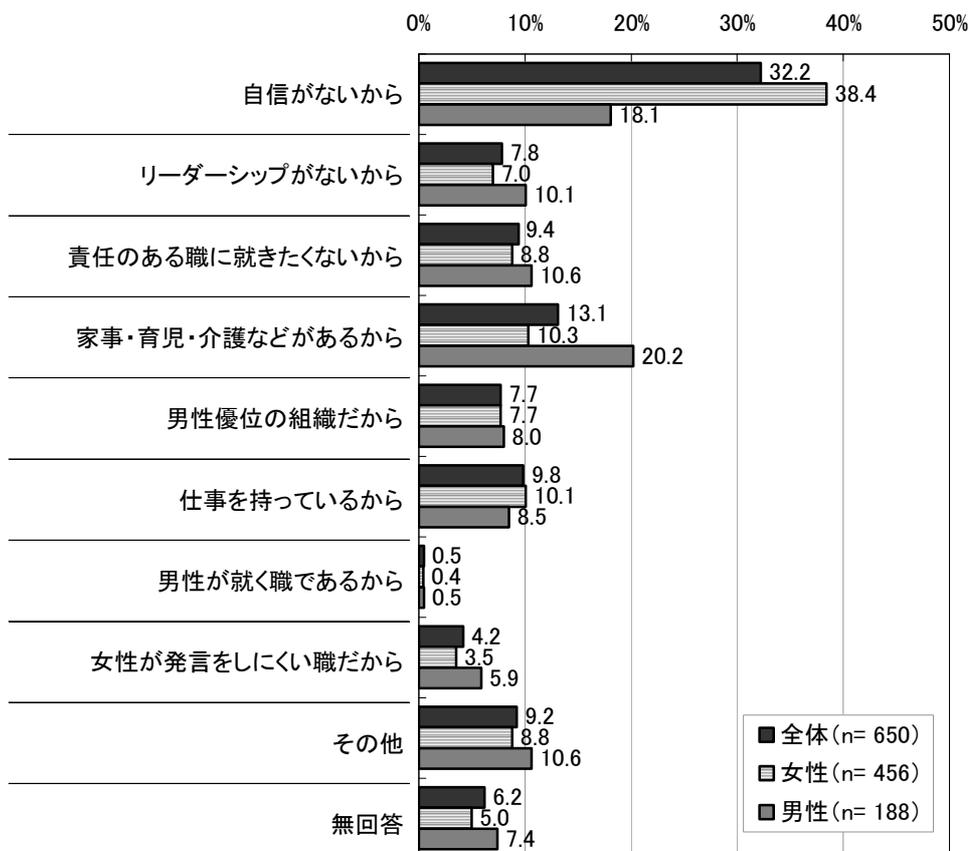
市の審議会等の委員に就任や立候補を依頼された場合の対応については、「承諾しない又は賛成しない」が54.4%と半数を超えています。

性別にみると、男性よりも女性で「しない」が高く、30ポイント以上上回っています。

また、「承諾しない又は賛成しない」理由については、全体及び女性では「自信がないから」、男性では「家事・育児・介護などがあるから」が最も高くなっています。



【承諾しない又は賛成しない場合の理由】

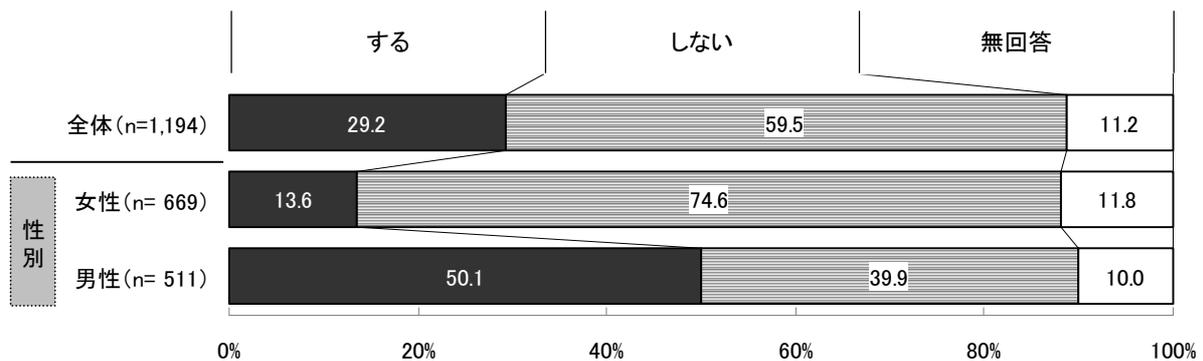


⑤市議会議員

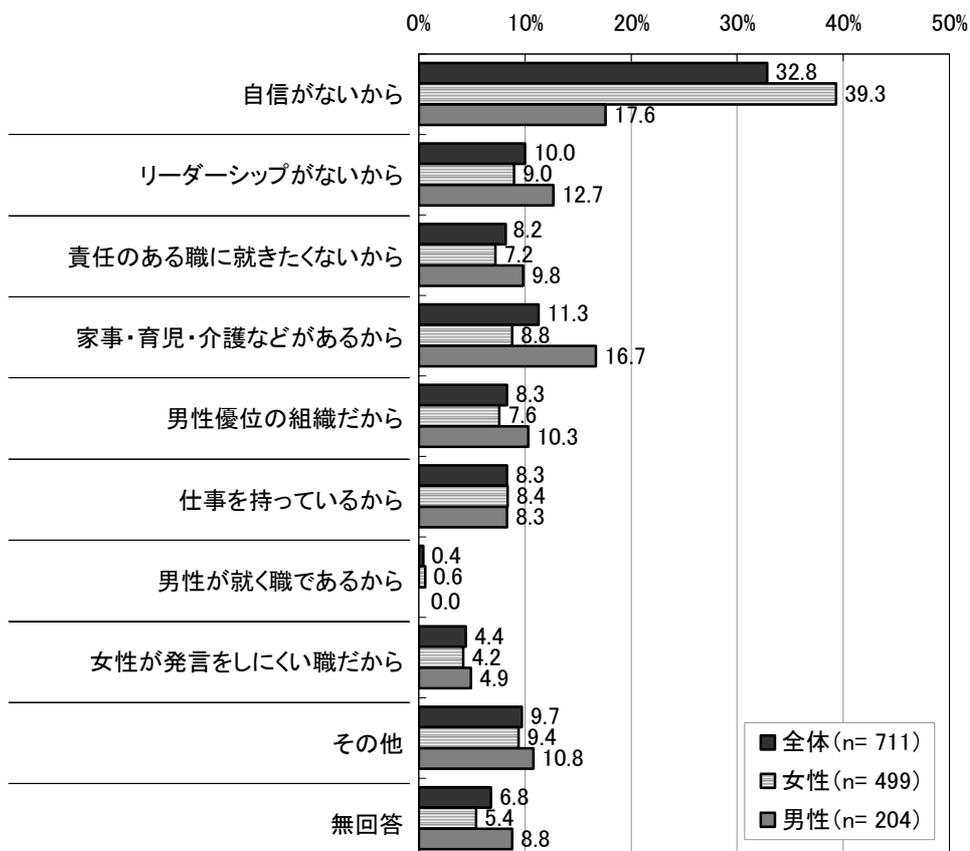
市議会議員に就任や立候補を依頼された場合の対応については、「承諾しない又は賛成しない」が59.5%と約6割を占めています。

性別にみると、男性よりも女性で「しない」が高く、約35ポイント上回っています。

また、「承諾しない又は賛成しない」理由については、全体及び男女のいずれも「自信がないから」が最も高くなっています。



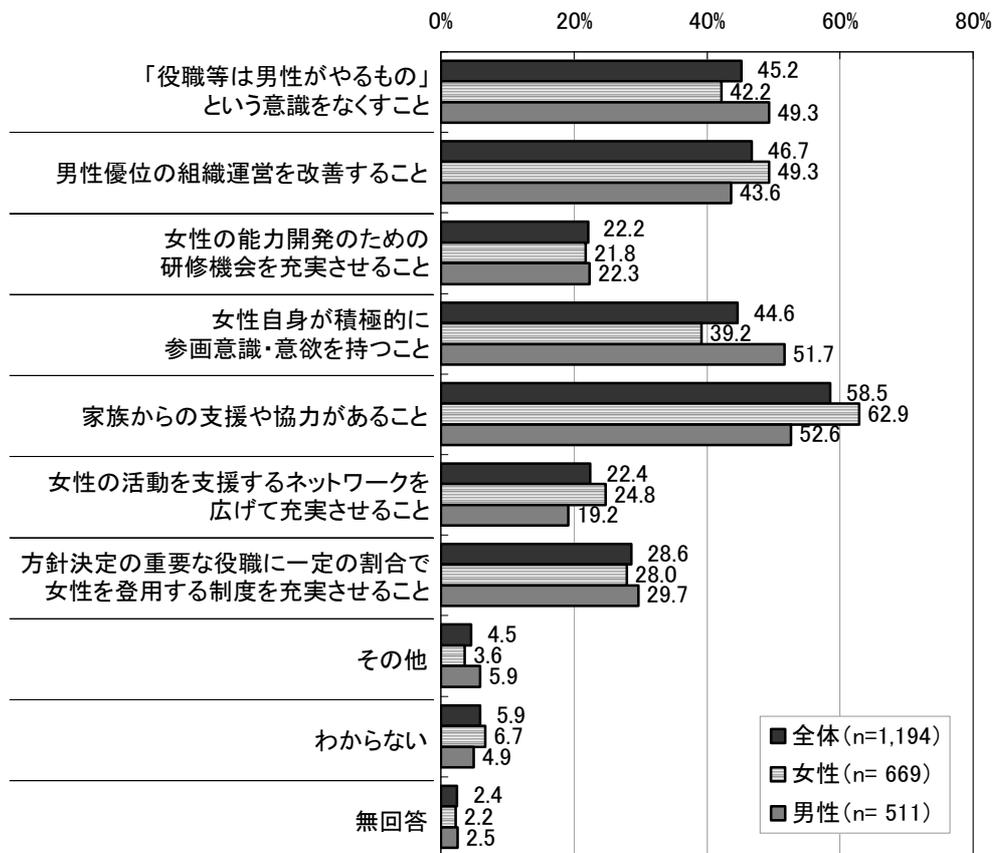
【承諾しない又は賛成しない場合の理由】



問6 役職や公職への就任や立候補を依頼された際に、承諾する女性や賛成する男性が増えるなど、女性が指導的地位に占める割合を増やすためには、何が必要だと思いますか。1～8の中から3つ選び、番号に○をつけてください。

女性が指導的地位に占める割合を増やすために必要なものについては、「家族からの支援や協力があること」が58.5%と最も高く、次いで「男性優位の組織運営を改善すること」が46.7%、「『役職等は男性がやるもの』という意識をなくすこと」が45.2%となっています。

性別にみると、全体的な傾向はほぼ同様となっているものの、「女性自身が積極的に参画意識・意欲を持つこと」では男性が女性を10ポイント以上、「家族からの支援や協力があること」では女性が男性を10ポイント上回っており、違いがみられます。



4 仕事や家庭、地域生活などについて

問7 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について伺います。次の①～④のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

①あなたご自身の現状

生活の優先度について現状は、『家庭生活』を優先が28.5%と最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先が22.8%となっています。

性・年齢別にみると、女性では30歳代以上で『家庭生活』を優先、男性では20歳代と60歳代で『仕事』を優先、30歳代から50歳代で『仕事』と『家庭生活』をともに優先が最も高くなっています。

単位:%	n	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	わからない	無回答	
全体	1,194	17.8	28.5	4.4	22.8	4.0	8.3	5.7	4.9	3.7	
女性	女性全体	669	10.8	39.6	3.4	19.4	3.6	10.2	5.5	3.9	3.6
	10歳代	18	5.6	11.1	16.7	11.1	5.6	16.7	0.0	27.8	5.6
	20歳代	59	22.0	10.2	6.8	18.6	16.9	6.8	8.5	10.2	0.0
	30歳代	103	17.5	40.8	1.0	23.3	3.9	5.8	5.8	1.9	0.0
	40歳代	120	15.0	41.7	2.5	22.5	1.7	8.3	5.0	1.7	1.7
	50歳代	113	11.5	32.7	0.0	25.7	1.8	10.6	11.5	2.7	3.5
	60歳代	178	5.1	50.6	3.9	15.7	2.2	14.6	2.2	2.8	2.8
	70歳代以上	78	0.0	48.7	6.4	11.5	1.3	9.0	3.8	3.8	15.4
男性	男性全体	511	27.0	13.9	5.7	27.0	4.7	5.9	6.1	6.1	3.7
	10歳代	25	12.0	12.0	16.0	16.0	4.0	4.0	8.0	24.0	4.0
	20歳代	42	38.1	7.1	9.5	4.8	11.9	4.8	2.4	19.0	2.4
	30歳代	68	30.9	2.9	1.5	41.2	5.9	7.4	4.4	4.4	1.5
	40歳代	97	33.0	8.2	2.1	37.1	2.1	0.0	7.2	9.3	1.0
	50歳代	80	31.3	10.0	0.0	38.8	5.0	1.3	8.8	2.5	2.5
	60歳代	125	24.8	20.0	8.0	22.4	4.0	10.4	6.4	1.6	2.4
	70歳代以上	72	13.9	30.6	11.1	9.7	4.2	11.1	4.2	1.4	13.9

②あなたの希望

生活の優先度について希望は、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」が25.0%と最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が23.2%となっています。

性・年齢別にみると、女性では20歳代から50歳代で「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」、60歳代で「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」、男性では10歳代と20歳代、60歳代で「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」、30歳代から50歳代で「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も高くなっています。

単位：%	n	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	わからない	無回答	
全体	1,194	2.8	16.3	4.4	23.2	5.8	14.5	25.0	4.3	3.7	
女性	女性全体	669	1.6	19.6	3.4	20.3	4.3	16.9	25.4	4.5	3.9
	10歳代	18	0.0	11.1	11.1	16.7	5.6	5.6	16.7	33.3	0.0
	20歳代	59	1.7	15.3	3.4	16.9	10.2	11.9	35.6	5.1	0.0
	30歳代	103	2.9	25.2	1.9	20.4	3.9	12.6	31.1	1.9	0.0
	40歳代	120	2.5	21.7	1.7	22.5	3.3	11.7	30.0	4.2	2.5
	50歳代	113	0.9	18.6	0.9	26.5	5.3	13.3	28.3	2.7	3.5
	60歳代	178	1.1	18.0	5.1	19.1	2.8	27.5	18.5	4.5	3.4
	70歳代以上	78	1.3	19.2	6.4	14.1	3.8	17.9	16.7	3.8	16.7
男性	男性全体	511	4.5	12.1	5.5	26.8	7.4	11.2	25.0	3.9	3.5
	10歳代	25	8.0	16.0	8.0	12.0	4.0	8.0	24.0	16.0	4.0
	20歳代	42	7.1	0.0	11.9	16.7	21.4	11.9	28.6	2.4	0.0
	30歳代	68	4.4	19.1	2.9	32.4	5.9	8.8	26.5	0.0	0.0
	40歳代	97	3.1	9.3	2.1	42.3	1.0	3.1	28.9	7.2	3.1
	50歳代	80	3.8	11.3	6.3	40.0	2.5	6.3	25.0	2.5	2.5
	60歳代	125	5.6	16.0	5.6	17.6	8.8	14.4	25.6	2.4	4.0
	70歳代以上	72	2.8	9.7	6.9	12.5	13.9	25.0	15.3	4.2	9.7

③女性として望ましいと思うもの

生活の優先度について女性として望ましいと思うものは、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」が 32.7%と最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が 20.8%となっています。

性・年齢別にみると、女性ではすべての年代で『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」、男性では年代により多少のばらつきはみられるものの、20歳代と30歳代、50歳代で『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」が最も高くなっています。

単位：%	n	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	わからない	無回答	
全体	1,194	0.6	12.9	1.6	20.8	3.0	14.0	32.7	9.3	5.1	
女性	女性全体	669	0.6	11.7	1.5	19.1	3.4	11.1	40.2	8.2	4.2
	10歳代	18	0.0	5.6	5.6	11.1	0.0	5.6	38.9	27.8	5.6
	20歳代	59	0.0	10.2	1.7	18.6	1.7	10.2	49.2	8.5	0.0
	30歳代	103	1.9	11.7	1.0	22.3	1.0	12.6	42.7	6.8	0.0
	40歳代	120	0.0	15.8	0.8	21.7	0.8	8.3	43.3	7.5	1.7
	50歳代	113	1.8	11.5	0.9	15.9	3.5	5.3	49.6	8.8	2.7
	60歳代	178	0.0	11.8	1.7	19.7	7.3	15.2	34.3	6.2	3.9
	70歳代以上	78	0.0	7.7	2.6	16.7	3.8	14.1	25.6	10.3	19.2
男性	男性全体	511	0.6	14.3	1.8	22.7	2.3	18.0	23.7	10.4	6.3
	10歳代	25	0.0	20.0	0.0	16.0	0.0	12.0	20.0	28.0	4.0
	20歳代	42	2.4	4.8	0.0	21.4	0.0	21.4	33.3	16.7	0.0
	30歳代	68	0.0	14.7	2.9	27.9	0.0	5.9	35.3	11.8	1.5
	40歳代	97	1.0	16.5	1.0	26.8	1.0	10.3	22.7	17.5	3.1
	50歳代	80	0.0	12.5	0.0	27.5	1.3	18.8	28.8	6.3	5.0
	60歳代	125	0.8	17.6	2.4	17.6	4.8	23.2	21.6	3.2	8.8
	70歳代以上	72	0.0	11.1	4.2	19.4	5.6	29.2	8.3	5.6	16.7

④男性として望ましいと思うもの

生活の優先度について男性として望ましいと思うものは、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」が 38.0%と最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が 26.0%となっています。

性・年齢別にみると、男性の50歳代を除き、男女ともすべての年代で『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」が最も高くなっています。また、男性の50歳代では『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も高くなっています。

単位:%	n	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	わからない	無回答	
全体	1,194	7.4	3.9	0.7	26.0	4.9	4.7	38.0	8.5	5.9	
女性	女性全体	669	6.9	3.7	0.6	24.2	3.3	3.1	41.3	8.5	8.4
	10歳代	18	0.0	0.0	5.6	22.2	0.0	0.0	38.9	27.8	5.6
	20歳代	59	3.4	3.4	1.7	30.5	1.7	1.7	49.2	8.5	0.0
	30歳代	103	2.9	3.9	0.0	34.0	1.9	2.9	46.6	5.8	1.9
	40歳代	120	11.7	4.2	0.0	30.0	2.5	1.7	43.3	4.2	2.5
	50歳代	113	5.3	4.4	1.8	17.7	3.5	0.0	49.6	11.5	6.2
	60歳代	178	7.9	5.1	0.0	21.3	4.5	5.1	36.0	7.3	12.9
	70歳代以上	78	9.0	0.0	0.0	14.1	5.1	7.7	25.6	12.8	25.6
男性	男性全体	511	8.2	3.9	0.8	28.0	7.2	6.5	34.4	8.4	2.5
	10歳代	25	16.0	4.0	0.0	24.0	4.0	0.0	28.0	20.0	4.0
	20歳代	42	11.9	2.4	0.0	16.7	11.9	2.4	45.2	9.5	0.0
	30歳代	68	7.4	4.4	0.0	29.4	0.0	4.4	42.6	10.3	1.5
	40歳代	97	3.1	4.1	1.0	32.0	5.2	2.1	33.0	16.5	3.1
	50歳代	80	7.5	3.8	0.0	40.0	5.0	7.5	32.5	3.8	0.0
	60歳代	125	9.6	4.8	1.6	26.4	8.8	8.8	36.0	3.2	0.8
	70歳代以上	72	9.7	2.8	1.4	19.4	15.3	13.9	23.6	4.2	9.7

自身の現状別にみた希望の優先度

自身の現状別にみると、「『仕事』を優先」している人で「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」したいと希望している人が約4割、「仕事」と「家庭生活」、「地域・個人の生活」のいずれか2つを優先している人で、すべてを優先したいと希望している人が3割強から約4割みられます。

また、現状で「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」している人は、現状と希望が一致している人が7割を超えています。

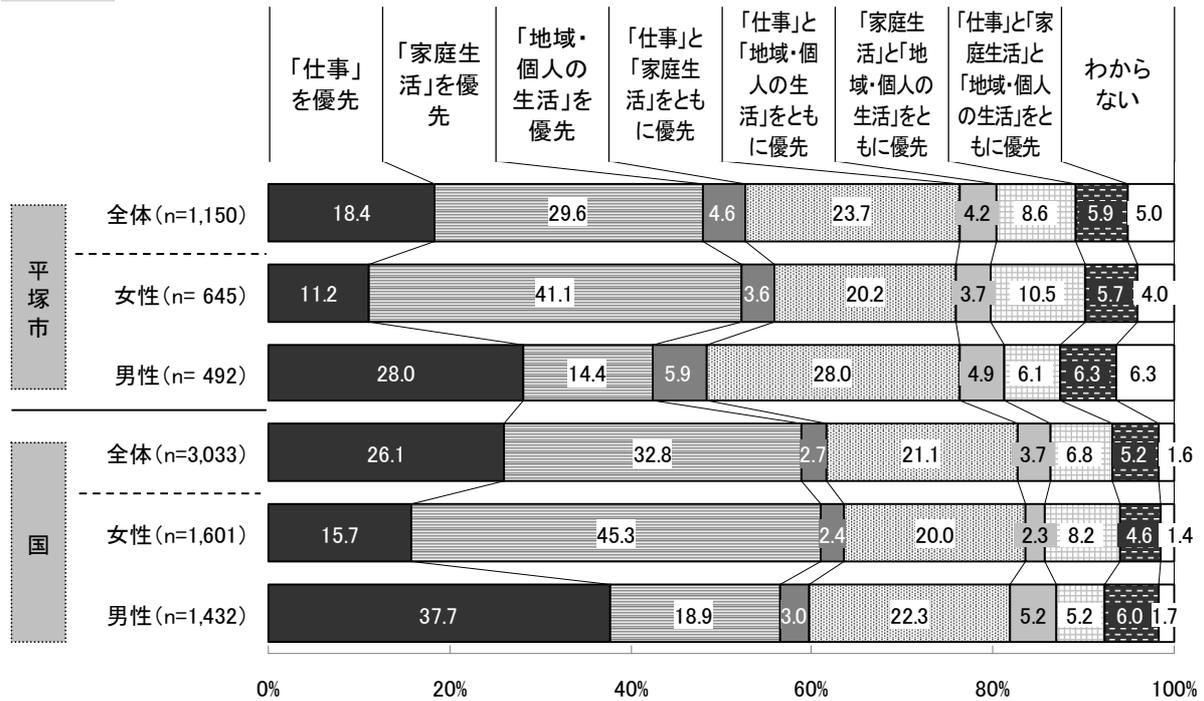
単位：%		あなたの希望							
		「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	わからない
あなた自身の現状	「仕事」を優先	9.9	14.6	5.6	39.0	8.5	3.8	17.4	0.9
	「家庭生活」を優先	1.5	33.8	3.8	20.9	2.4	18.8	13.8	2.9
	「地域・個人の生活」を優先	0.0	7.7	25.0	3.8	13.5	30.8	15.4	1.9
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	1.1	13.2	1.1	38.6	3.7	5.1	34.2	1.5
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	0.0	0.0	6.3	0.0	37.5	12.5	39.6	2.1
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	1.0	2.0	2.0	5.1	1.0	52.5	35.4	0.0
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	1.5	7.4	1.5	2.9	4.4	7.4	73.5	1.5
	わからない	3.4	1.7	5.2	6.9	5.2	12.1	13.8	51.7

他調査との比較

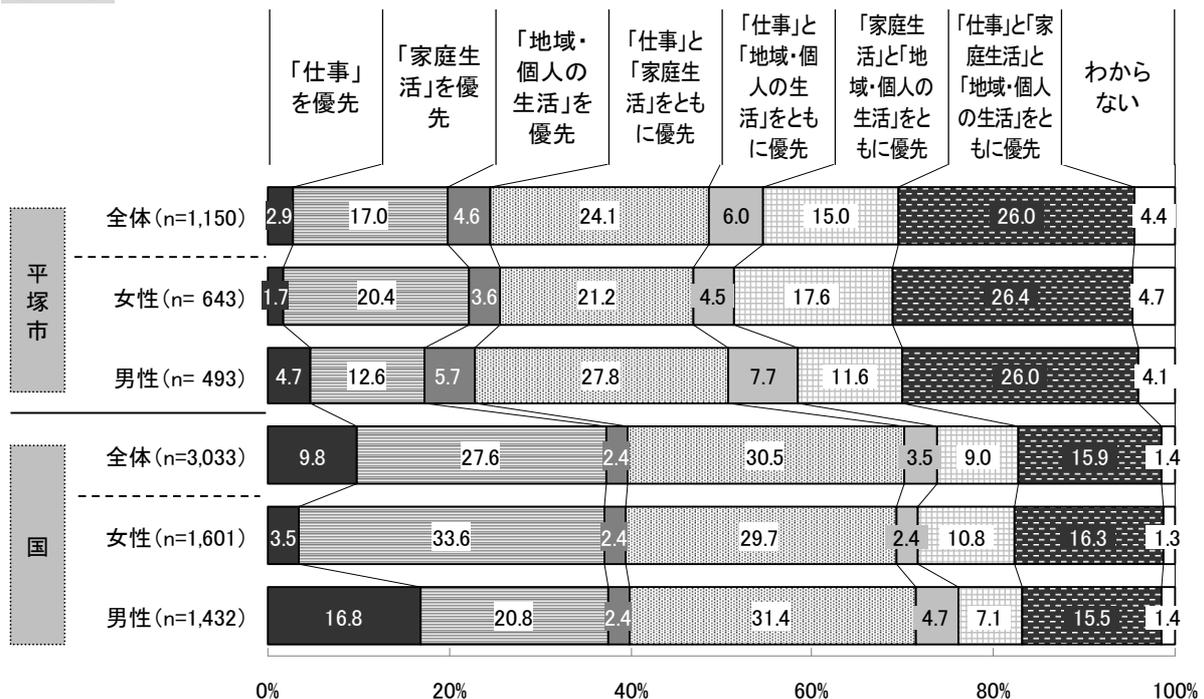
国調査と比較すると、現状については、『仕事』と『家庭生活』をともに優先している傾向がややみられるものの、全体的な傾向はほぼ同様であることがわかります。

希望については、男女ともに国よりも『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したいと考えている人が多くなっています。

【現状】



【希望】

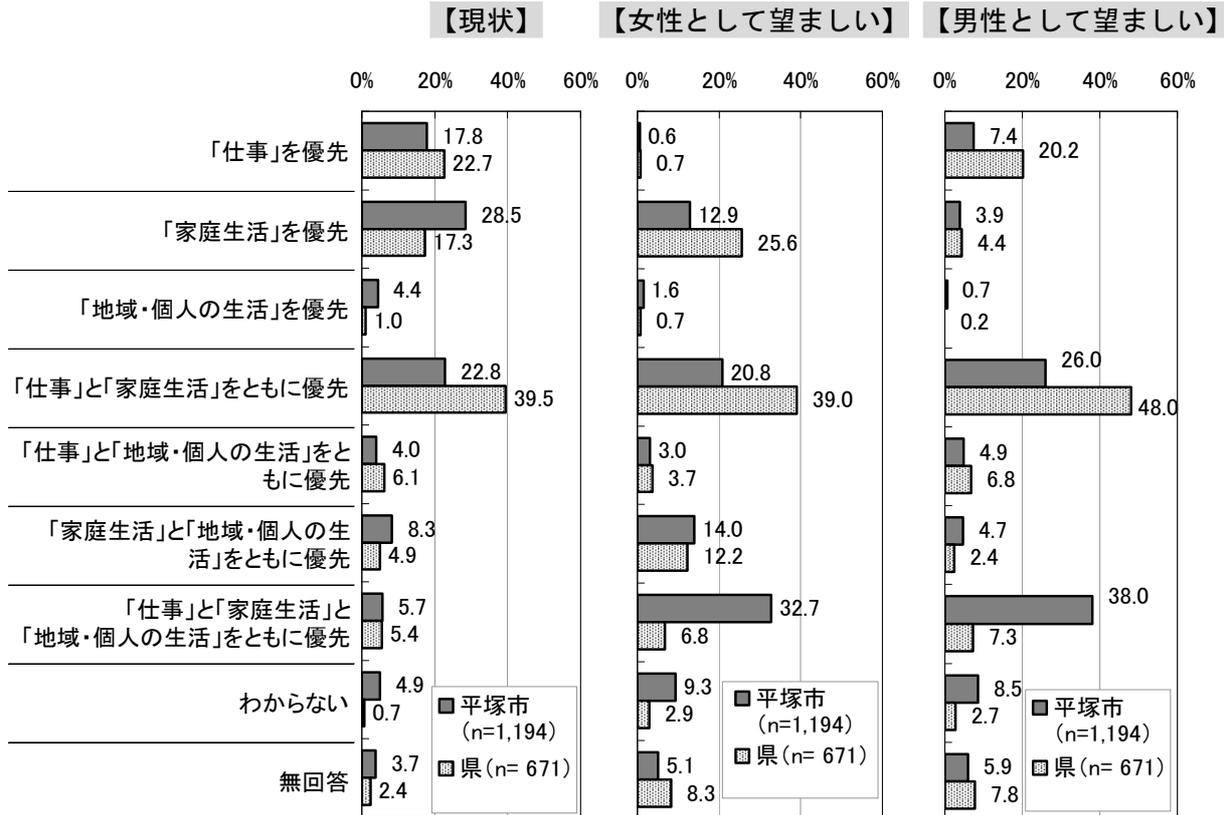


資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（平成 24 年度）
 ※国調査に合わせ、無回答を除いて再集計した。

他調査との比較

県調査と比較すると、現状については、県では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」している人が多いのに対し、市では「『家庭生活』を優先」している人が多くなっています。

また、女性として望ましいもの・男性として望ましいものについては、県では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」している人が多いのに対し、市では「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」するべきと考えている人が多くなっています。

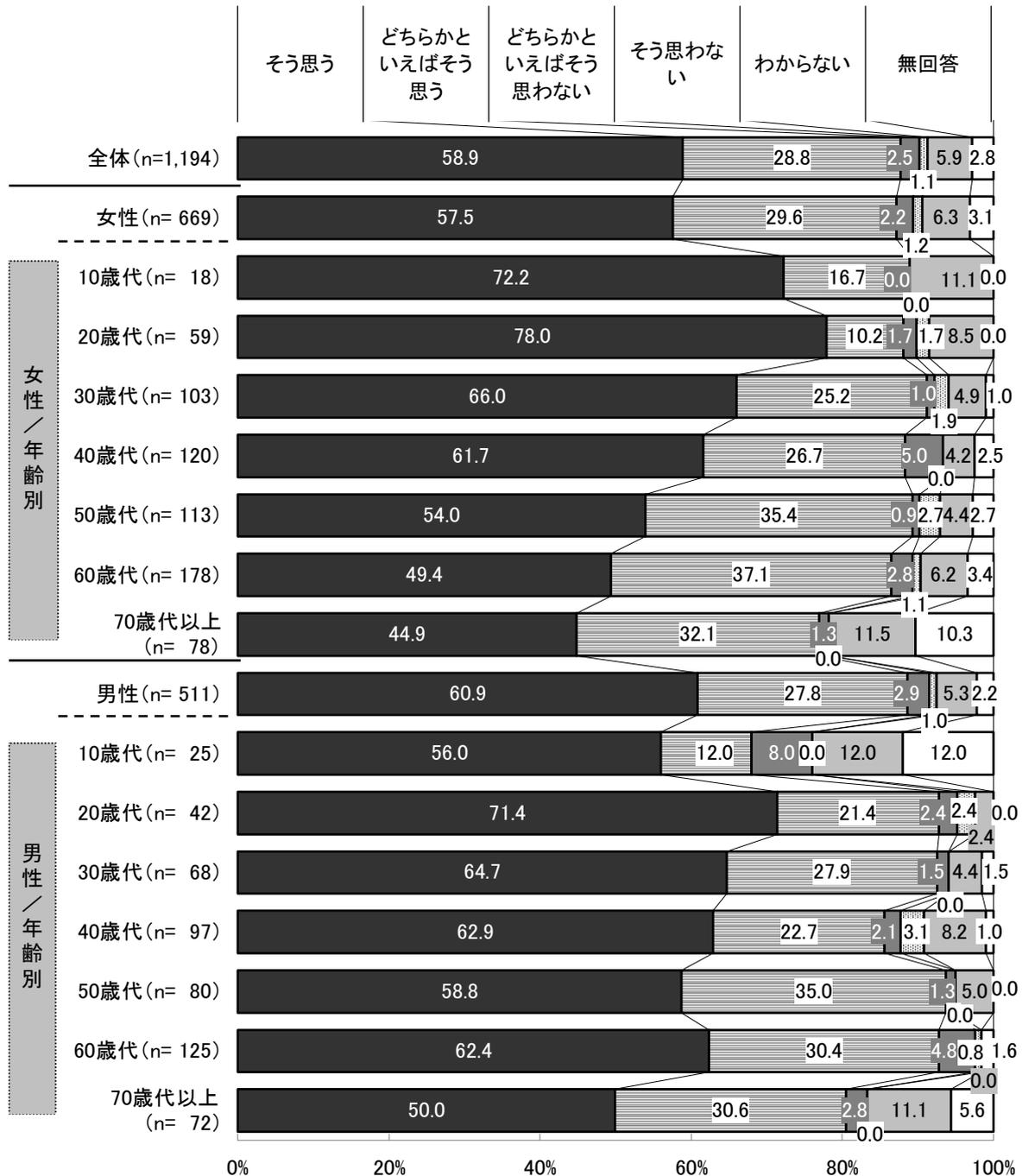


資料：神奈川県「県民ニーズ調査（第1回課題調査）」（平成23年度）

問8 「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」を推進していく考え方について、あなたはどのように思いますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」推進に対する考えについては、「そう思う」が58.9%と最も高く、「どちらかといえばそう思う」と「そう思う」を合わせた『そう思う』が87.7%と9割弱を占めています。

性・年齢別にみると、「そう思う」が女性では年齢とともに減少しているのに対し、男性では20歳代から60歳代で6割前後から7割強と高くなっています。



問9 あなたは女性が仕事を続けることについてどう思いますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

女性が仕事を続けることに対してどう思うかについては、「結婚や子育てに関わらず、働くことを選択するのは女性の自由である」が41.8%と最も高く、次いで「家事や子育てと仕事とが両立するなら、結婚や出産に関わらずずっと働き続けてもよい」が23.5%となっています。

性・年齢別にみると、女性の70歳代以上を除き、男女ともすべての年代で「結婚や子育てに関わらず、働くことを選択するのは女性の自由である」が最も高くなっています。

単位：%	n	結婚や子育てに関わらず、働くことを選択するのは女性の自由である	結婚や出産をしても仕事を続ける方がよい	家事や子育てと仕事とが両立するなら、結婚や出産に関わらずずっと働き続けてもよい	結婚したら仕事をやめる方がよい	子どもができたら仕事をやめる方がよい	子どもができたら仕事をやめ、ある程度大きくなったら再び仕事(正規)に就くのがよい	子どもができたら仕事をやめ、ある程度大きくなったら再び仕事(非正規)に就くのがよい
全体	1,194	41.8	5.0	23.5	0.8	0.7	12.4	8.1
女性	669	41.0	3.7	26.6	0.4	0.1	12.4	7.6
10歳代	18	44.4	5.6	38.9	0.0	0.0	5.6	5.6
20歳代	59	55.9	0.0	23.7	1.7	0.0	13.6	3.4
30歳代	103	58.3	1.9	19.4	0.0	0.0	8.7	5.8
40歳代	120	46.7	3.3	25.0	0.0	0.0	7.5	8.3
50歳代	113	44.2	4.4	30.1	0.9	0.0	11.5	5.3
60歳代	178	28.1	6.7	26.4	0.0	0.6	16.3	11.8
70歳代以上	78	21.8	1.3	33.3	1.3	0.0	17.9	6.4
男性	511	42.7	6.7	19.6	1.2	1.4	12.5	8.6
10歳代	25	56.0	8.0	4.0	0.0	4.0	12.0	8.0
20歳代	42	47.6	7.1	26.2	0.0	0.0	11.9	4.8
30歳代	68	54.4	8.8	13.2	0.0	1.5	8.8	5.9
40歳代	97	52.6	6.2	15.5	2.1	0.0	8.2	9.3
50歳代	80	41.3	8.8	20.0	0.0	1.3	15.0	10.0
60歳代	125	33.6	5.6	28.0	2.4	1.6	12.0	9.6
70歳代以上	72	27.8	4.2	18.1	1.4	2.8	19.4	9.7

単位：%	n	結婚を機に仕事をやめ、子どもがある程度大きくなったら再び仕事(正規)に就くのがよい	結婚を機に仕事をやめ、子どもがある程度大きくなったら再び仕事(非正規)に就くのがよい	女性は仕事をしない方がよい	その他	無回答
全体	1,194	2.3	1.5	0.3	1.7	2.0
女性	669	1.6	1.6	0.4	1.9	2.4
10歳代	18	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	59	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0
30歳代	103	1.9	1.0	0.0	1.9	1.0
40歳代	120	2.5	0.0	0.8	4.2	1.7
50歳代	113	0.0	0.0	0.0	1.8	1.8
60歳代	178	2.2	2.8	1.1	1.7	2.2
70歳代以上	78	2.6	5.1	0.0	1.3	9.0
男性	511	3.1	1.4	0.2	1.4	1.4
10歳代	25	0.0	4.0	0.0	0.0	4.0
20歳代	42	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0
30歳代	68	1.5	1.5	0.0	4.4	0.0
40歳代	97	1.0	2.1	0.0	2.1	1.0
50歳代	80	2.5	0.0	0.0	1.3	0.0
60歳代	125	4.8	0.8	0.0	0.0	1.6
70歳代以上	72	8.3	2.8	1.4	0.0	4.2

女性の就業に対する意識を傾向として把握するため、以下のとおり分類しました。

○就業継続型

- ・結婚や出産をしても仕事を続ける方がよい
- ・家事や子育てと仕事とが両立するなら、結婚や出産に関わらずずっと働き続けてもよい

○結婚・出産離職型

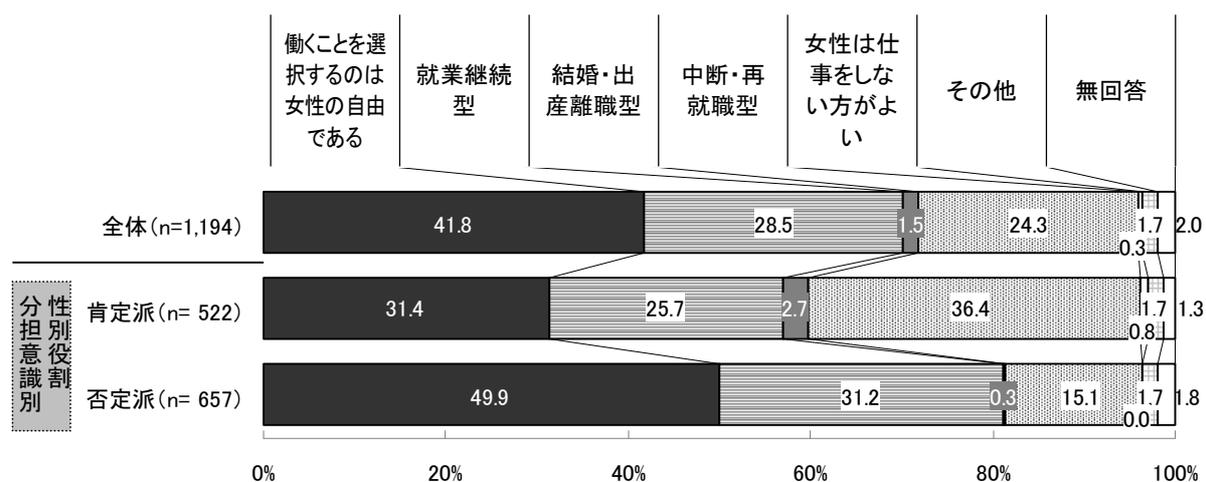
- ・結婚したら仕事をやめる方がよい
- ・子どもができたら仕事をやめる方がよい

○中断・再就職型

- ・子どもができたら仕事をやめ、ある程度大きくなったら再び仕事（正規／非正規）に就くのがよい
- ・結婚を機に仕事をやめ、子どもがある程度大きくなったら再び仕事（正規／非正規）に就くのがよい

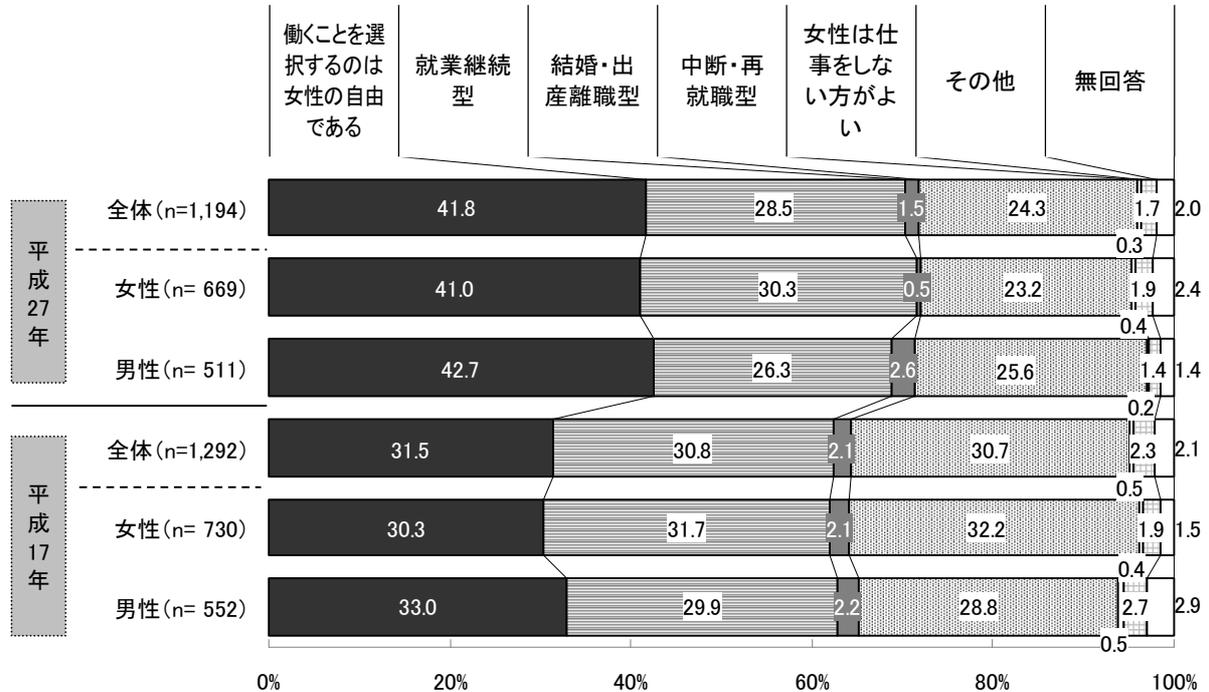
性別による固定的な役割分担意識別

性別による固定的な役割分担意識別にみると、性別による固定的な役割分担意識に肯定派では「中断・再就職型」が3割半ばで最も高いのに対し、性別による固定的な役割分担意識に否定派では「働くことを選択するのは女性の自由である」が約半数を占め最も高くなっています。



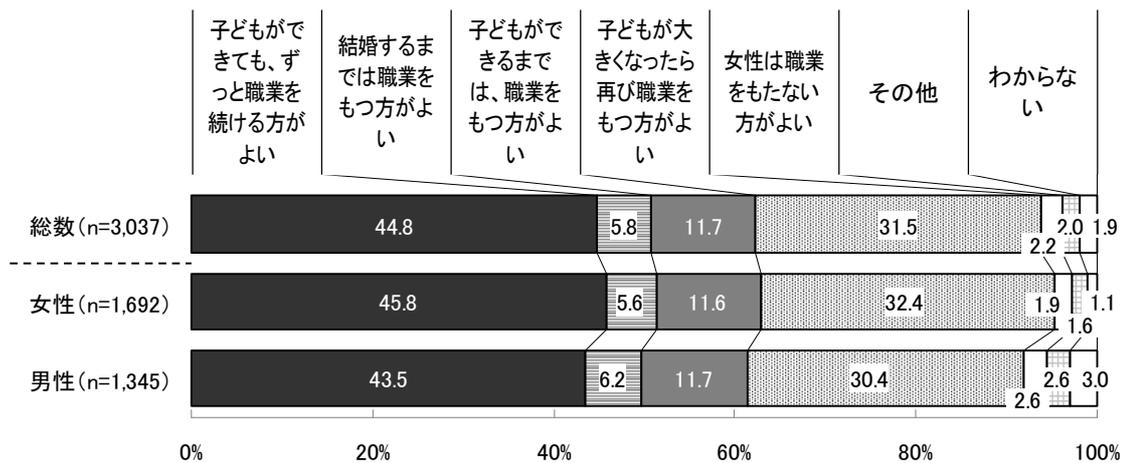
経年比較

平成 17 年に実施した調査と比較すると、全体及び男女のいずれも「働くことを選択するのは女性の自由である」が 10 ポイント前後上昇しています。一方で、「中断・再就職型」はやや減少しています。



資料：平塚市「男女共同参画に関する市民意識調査」（平成 17 年度）

■参考データ



資料：内閣府「女性の活躍推進に関する世論調査」（平成 26 年度）

問10 仕事をされている方に伺います。(仕事をされていない方は、問12へお進みください。)
あなたの職場では、女性が男性に比べて、次のような扱いを受けていると思うことはありますか。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

女性の職場での扱いについては、全体及び男女のいずれも「男性と女性での扱いの差はない」が最も高くなっています。

性・年齢別にみると、女性の20歳代から40歳代の比較的若い世代では「能力があっても昇進・昇格が遅い、または望めない」、50歳代以上の世代では「同じ仕事をしていても賃金が少ない」と感じている人が多くなっています。男性では20歳代から30歳代の比較的若い世代では「能力があっても補助的な仕事や雑用を任されることが多い」、40歳代から60歳代の世代では「能力があっても昇進・昇格が遅い、または望めない」と感じている人が多くなっています。

単位:%	n	同じ仕事をしていても賃金が少ない	結婚や出産時に退職する習慣や圧力がある	能力があっても補助的な仕事や雑用を任されることが多い	配置転換(職務や部署・勤務地等を変えること)が少なく、能力を向上させにくい	教育の訓練の機会が少ない、訓練の内容が男女で異なる	能力があっても昇進・昇格が遅い、または望めない	職業意識が低いものとして見られる	
全体	612	15.8	8.7	17.0	11.6	9.8	20.8	14.1	
女性	女性全体	299	21.1	9.0	18.7	8.7	9.7	24.4	16.4
	10歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	37	18.9	16.2	18.9	8.1	8.1	21.6	18.9
	30歳代	62	24.2	17.7	21.0	11.3	19.4	38.7	19.4
	40歳代	73	21.9	8.2	23.3	8.2	8.2	31.5	13.7
	50歳代	68	19.1	5.9	17.6	11.8	11.8	17.6	17.6
	60歳代	43	23.3	0.0	14.0	4.7	0.0	14.0	14.0
	70歳代以上	15	13.3	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	13.3
男性	男性全体	309	10.7	8.4	15.5	14.6	10.0	17.2	12.0
	10歳代	3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
	20歳代	22	4.5	4.5	22.7	13.6	4.5	9.1	0.0
	30歳代	57	8.8	10.5	14.0	12.3	5.3	12.3	8.8
	40歳代	78	10.3	3.8	15.4	15.4	14.1	19.2	15.4
	50歳代	66	10.6	9.1	15.2	15.2	10.6	18.2	12.1
	60歳代	60	13.3	16.7	11.7	15.0	11.7	20.0	15.0
	70歳代以上	21	14.3	0.0	19.0	14.3	9.5	14.3	9.5

単位:%	n	男性と女性での扱いの差はない	その他	無回答	
全体	612	42.5	9.8	8.0	
女性	女性全体	299	39.1	11.4	8.7
	10歳代	1	100.0	0.0	0.0
	20歳代	37	51.4	5.4	2.7
	30歳代	62	40.3	9.7	1.6
	40歳代	73	35.6	9.6	8.2
	50歳代	68	38.2	16.2	7.4
	60歳代	43	32.6	14.0	18.6
	70歳代以上	15	40.0	13.3	33.3
男性	男性全体	309	45.6	8.4	7.1
	10歳代	3	66.7	0.0	0.0
	20歳代	22	54.5	9.1	0.0
	30歳代	57	56.1	10.5	1.8
	40歳代	78	47.4	7.7	2.6
	50歳代	66	40.9	7.6	10.6
	60歳代	60	41.7	6.7	10.0
	70歳代以上	21	28.6	14.3	23.8

就労状況別／職業別

就労状況別にみると、市内就労と市外就労のいずれも「男性と女性での扱いの差はない」が最も高くなっているものの、市内就労よりも市外就労が約10ポイント上回っています。また、「配置転換（職務や部署・勤務地等を変えること）が少なく、能力を向上させにくい」を除くすべての項目で、市内就労が市外就労よりも高くなっています。

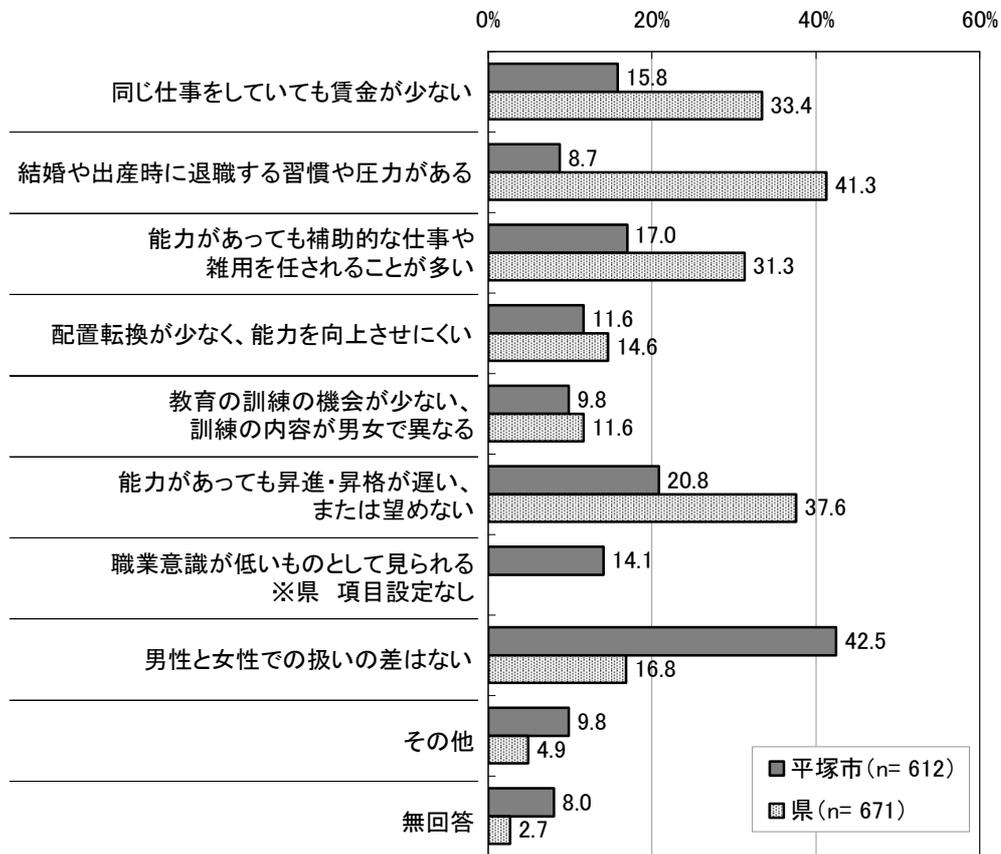
職業別にみると、いずれの職業でも「男性と女性での扱いの差はない」が最も高く、家族従業では「職業意識が低いものとして見られる」も高くなっています。また、正規雇用と非正規雇用を比べると、正規雇用では「配置転換（職務や部署・勤務地等を変えること）が少なく、能力を向上させにくい」、非正規雇用では「同じ仕事をしていても賃金が少ない」が、それぞれ5ポイント以上高くなっていることがわかります。

単位:%	n	同じ仕事をしていても賃金が少ない	結婚や出産時に退職する習慣や圧力がある	能力があっても補助的な仕事や雑用を任されることが多い	配置転換（職務や部署・勤務地等を変えること）が少なく、能力を向上させにくい	教育の訓練の機会が少ない、訓練の内容が男女で異なる	能力があっても昇進・昇格が遅い、または望めない	職業意識が低いものとして見られる	
全体	612	15.8	8.7	17.0	11.6	9.8	20.8	14.1	
状況別	市内就労	345	18.6	9.9	18.3	9.0	9.9	22.0	15.9
	市外就労	267	12.4	7.1	15.4	15.0	9.7	19.1	11.6
職業別	正規雇用	291	13.7	9.3	16.2	15.8	11.7	21.3	14.4
	自営業者	37	10.8	10.8	10.8	2.7	5.4	10.8	2.7
	家族従業	14	0.0	0.0	21.4	0.0	7.1	7.1	28.6
	役員	25	12.0	8.0	16.0	8.0	8.0	16.0	8.0
	自由業	9	22.2	22.2	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1
	非正規雇用	229	21.0	7.9	19.2	9.2	8.7	23.6	15.7

単位:%	n	男性と女性での扱いの差はない	その他	無回答	
全体	612	42.5	9.8	8.0	
状況別	市内就労	345	38.6	12.2	9.9
	市外就労	267	47.6	6.7	5.6
職業別	正規雇用	291	45.4	8.2	3.8
	自営業者	37	32.4	16.2	29.7
	家族従業	14	28.6	21.4	14.3
	役員	25	44.0	12.0	8.0
	自由業	9	55.6	0.0	11.1
	非正規雇用	229	40.6	10.0	8.7

他調査との比較

県調査と比較すると、ほぼすべての項目で県の数値を下回っており、「男性と女性での扱いの差はない」で市が県を約 25 ポイント上回っています。



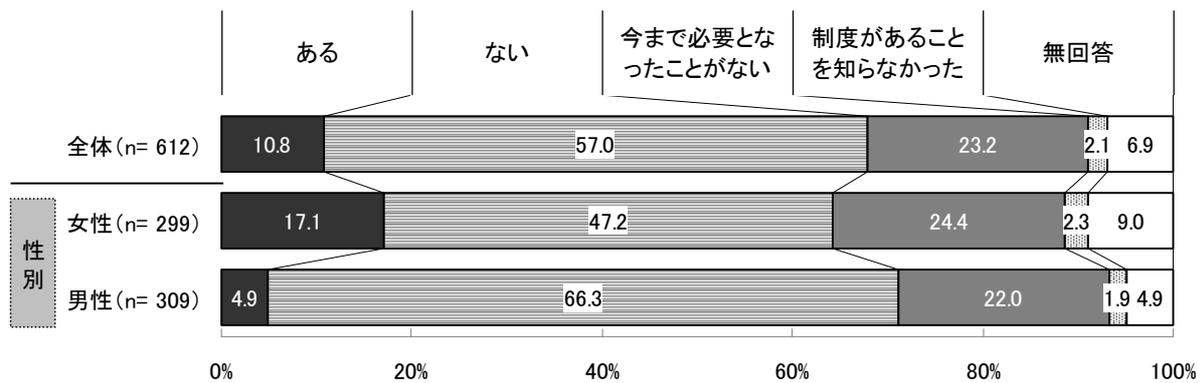
資料：神奈川県「県民ニーズ調査（第1回課題調査）」（平成23年度）

問 11 育児や家族介護のために、法律に基づき育児休業・子の看護休暇・介護休業・介護休暇を取得できる制度があります。あなたは、この制度を活用して、育児休業などを取ったことがありますか。①～④のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

①育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）

育児休業の取得については、「ない」が57.0%と半数を超えて最も高くなっています。

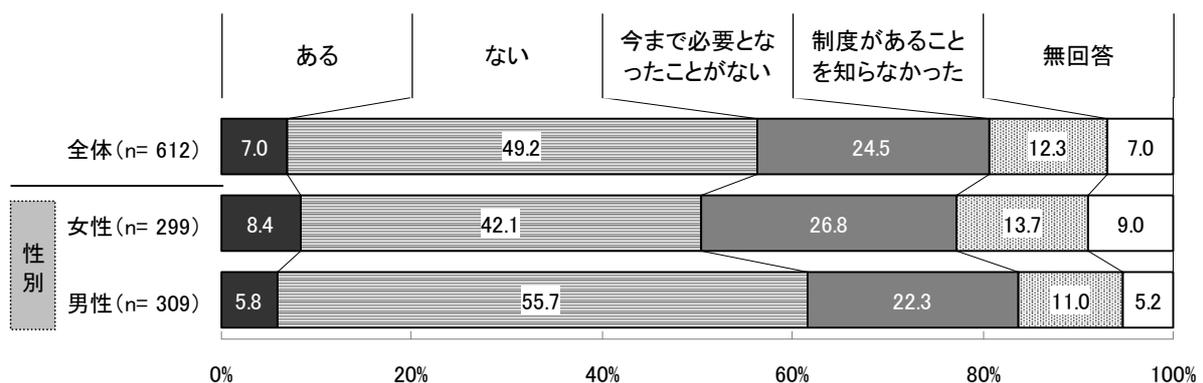
性別にみると、男女ともに「ない」が最も高くなっているものの、女性では「ある」が17.1%と、男性よりも10ポイント以上高くなっています。



②子の看護休暇（病気等の子どもの看護のための年5日程度の休暇）

子の看護休暇の取得については、「ない」が49.2%とほぼ半数を占めて最も高くなっています。

性別にみると、男女ともに「ない」が最も高く、特に男性では女性よりも10ポイント以上高くなっています。

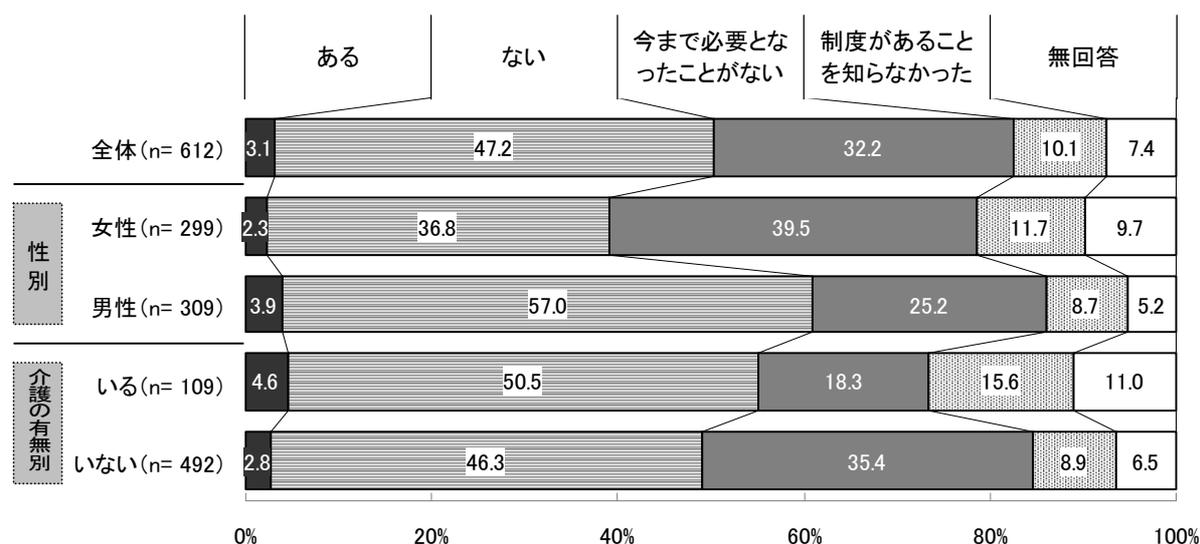


③介護休業（介護のために一定期間休業できる制度）

介護休業の取得については、「ない」が47.2%と半数弱を占めて最も高くなっています。

性別にみると、女性では「今まで必要となることがない」が39.5%、男性では「ない」が57.0%と最も高くなっています。

介護の有無別にみると、介護の必要な家族がいる人で「制度があることを知らなかった」が15.6%で、介護の必要な家族がいない人よりも高くなっています。

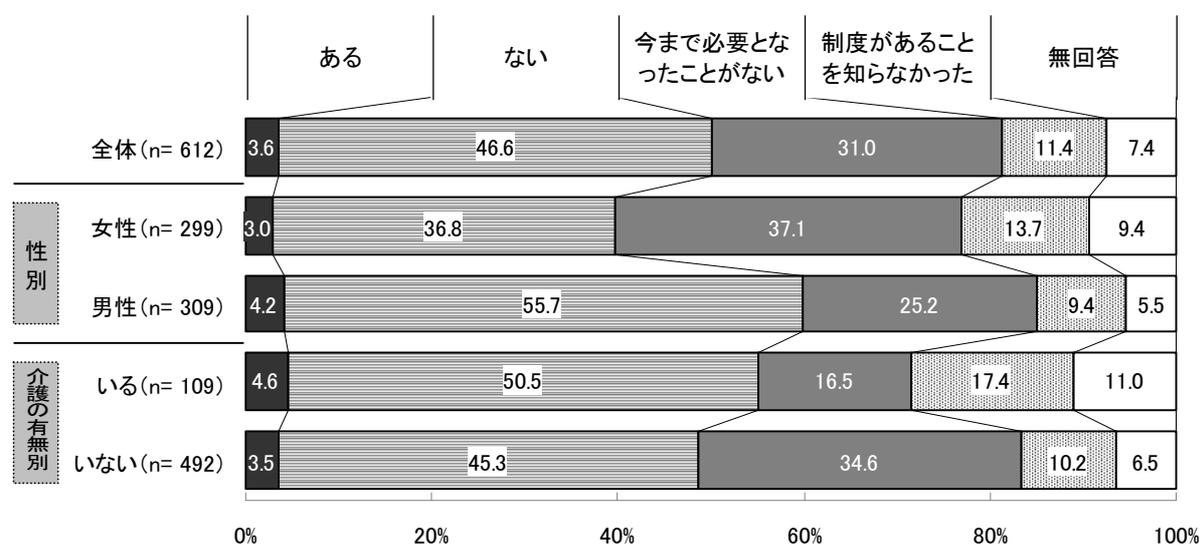


④介護休暇（短期の介護のための年5日程度の休暇）

介護休暇の取得については、「ない」が46.6%と4割半ばを占めて最も高くなっています。

性別にみると、女性では「今まで必要となることがない」が37.1%、男性では「ない」が55.7%と最も高くなっています。

介護の有無別にみると、介護の必要な家族がいる人で「制度があることを知らなかった」が17.4%で、介護の必要な家族がいない人よりも高くなっています。

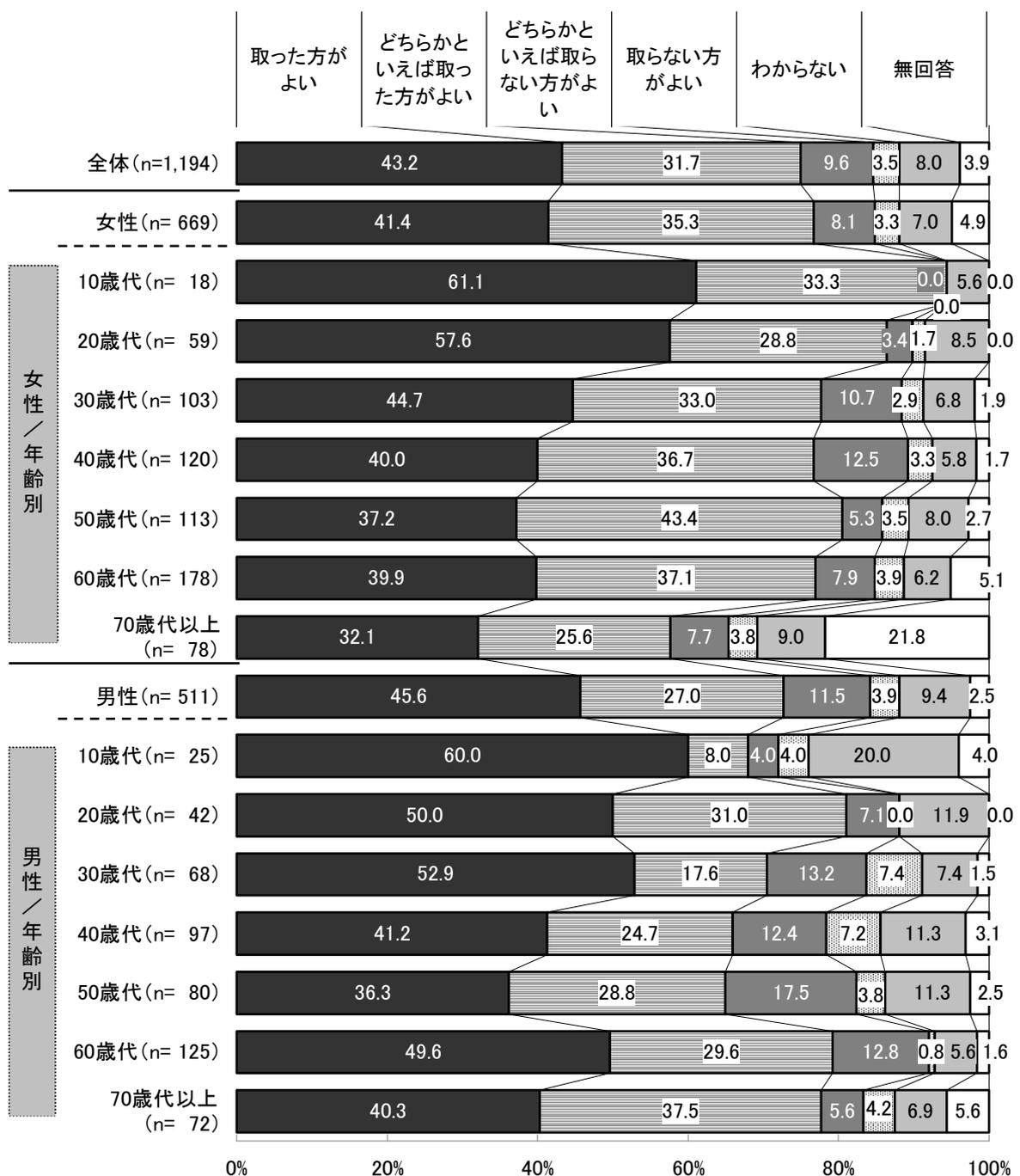


問 12 この制度を活用して男性が休業や休暇を取得することについて、あなたはどのように思いますか。①～④のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

①育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）

男性の育児休業の取得については、「取った方がよい」が43.2%と最も高く、「どちらかといえば取った方がよい」と合わせた『取った方がよい』が74.9%となっています。

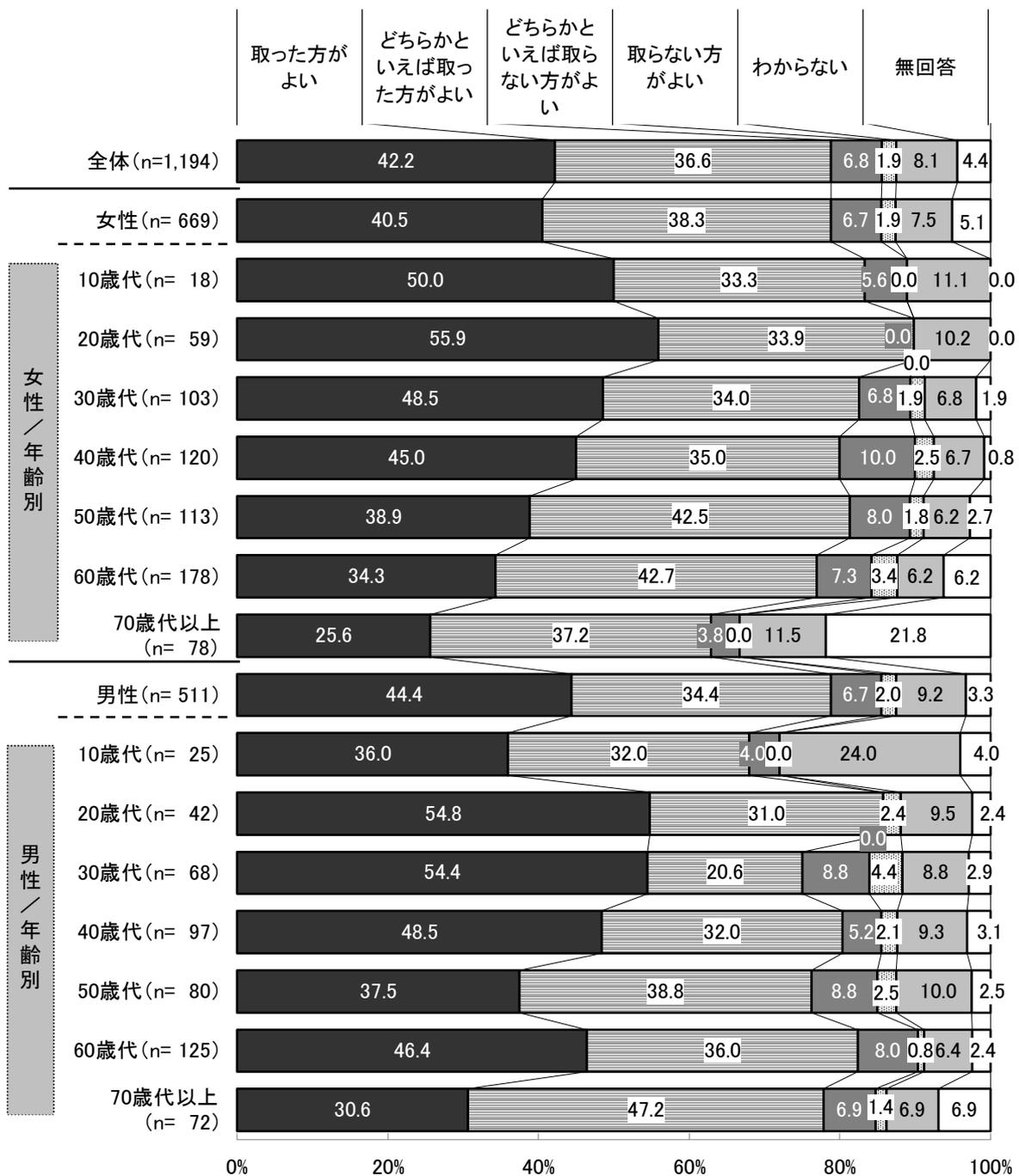
性・年齢別にみると、女性では『取った方がよい』が年齢とともに減少する傾向がうかがえます。男性では30歳代から50歳代で「どちらかといえば取らない方がよい」と「取らない方がよい」を合わせた『取らない方がよい』が約2割で、他の年代よりも高くなっています。



②子の看護休暇（病気等の子どもの看護のための年5日程度の休暇）

男性の子の看護休暇の取得については、「取った方がよい」が42.2%と最も高く、「どちらかといえば取った方がよい」と合わせた『取った方がよい』が78.8%となっています。

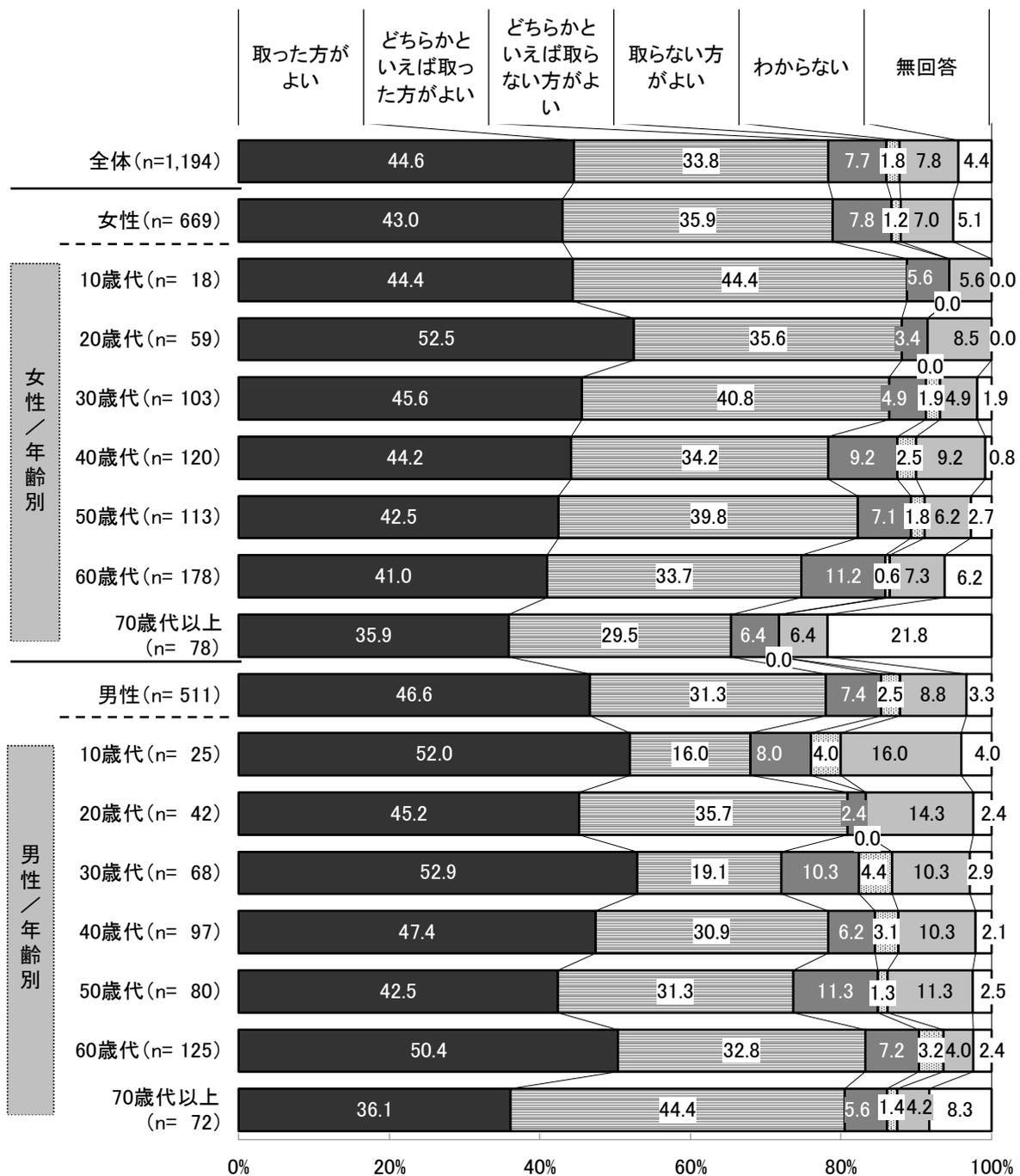
性・年齢別にみると、女性では20歳代をピークに『取った方がよい』が年齢とともに減少する傾向がうかがえます。一方、男性では20歳代以上で『取った方がよい』が7割から8割を超え、高くなっています。



③介護休業（介護のために一定期間休業できる制度）

男性の介護休業の取得については、「取った方がよい」が44.6%と最も高く、「どちらかといえば取った方がよい」と合わせた『取った方がよい』が78.4%となっています。

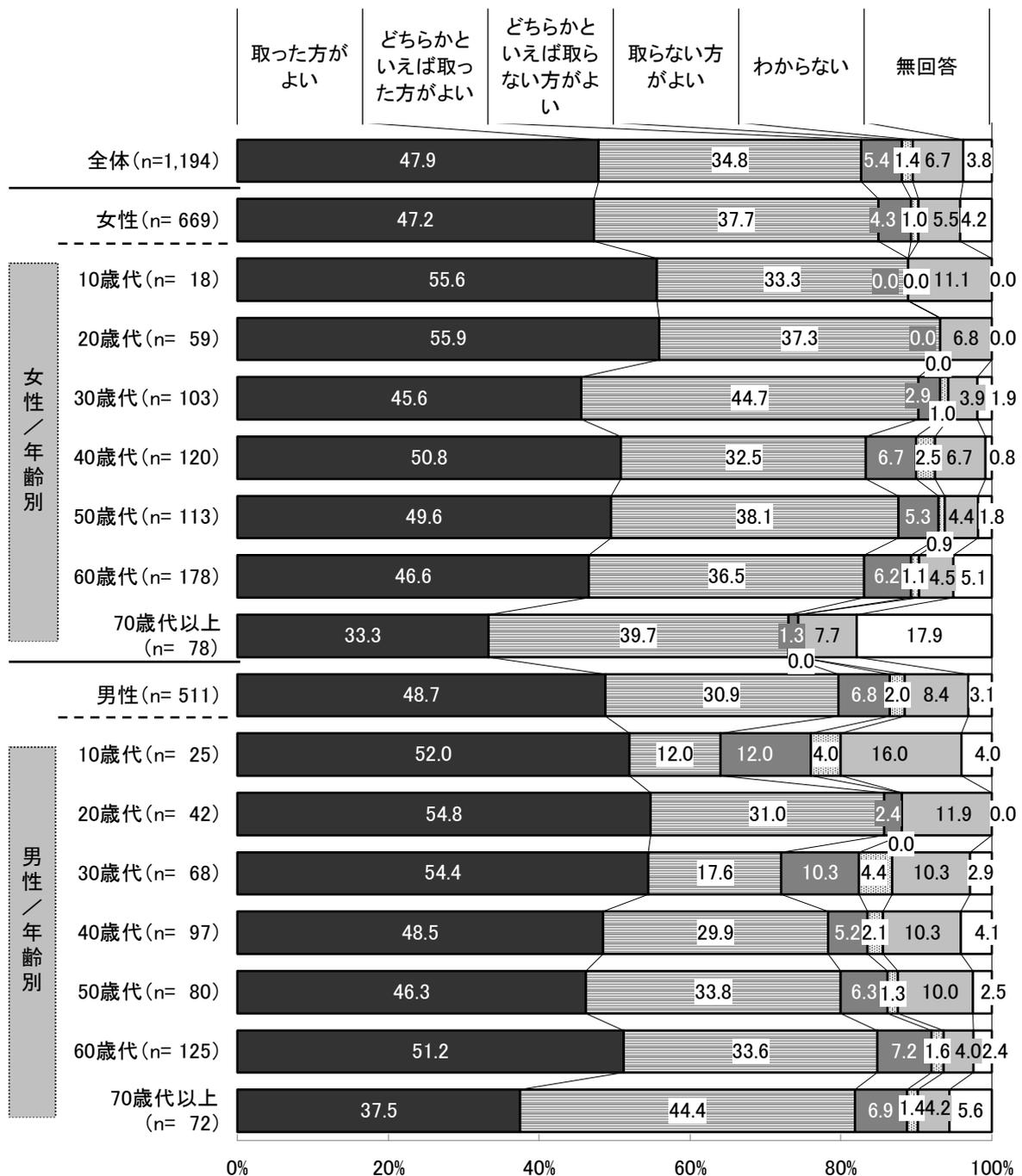
性・年齢別にみると、女性では「取った方がよい」が年齢とともに緩やかに減少する傾向がうかがえます。男性では10歳代から50歳代で「わからない」が1割を超え、他の年代よりも高くなっています。



④介護休暇（短期の介護のための年5日程度の休暇）

男性の介護休暇の取得については、「取った方がよい」が47.9%と最も高く、「どちらかといえば取った方がよい」と合わせた『取った方がよい』が82.7%となっています。

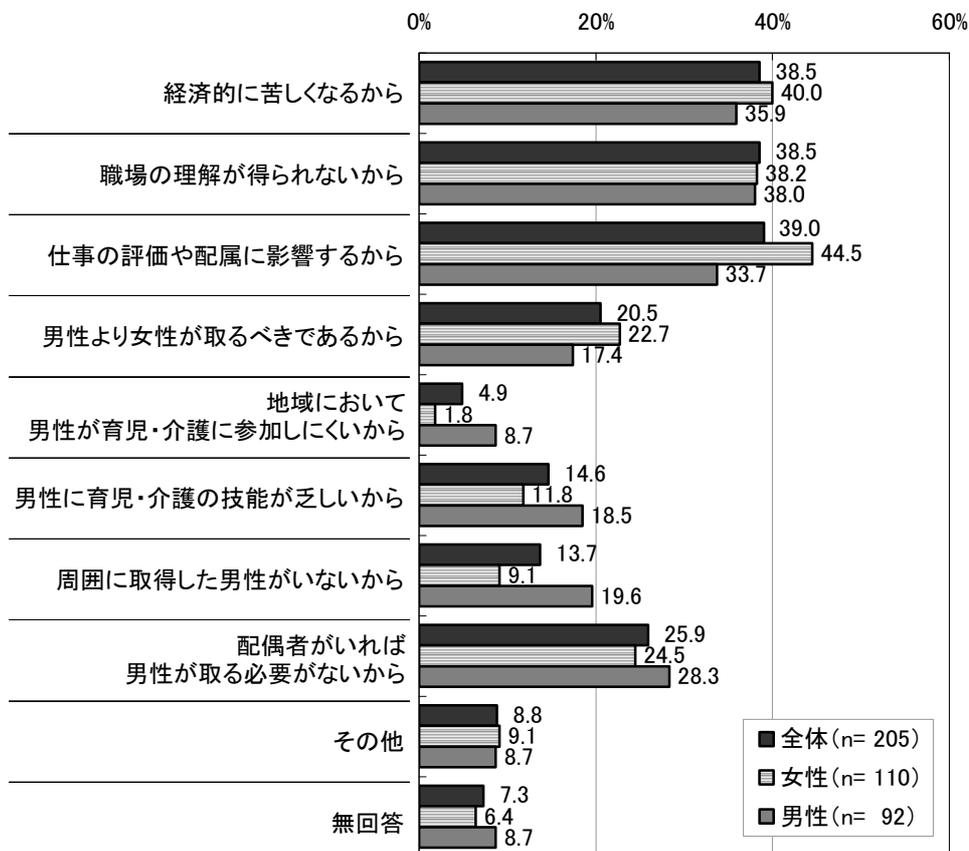
性・年齢別にみると、男女ともに70歳代以上を除く、すべての年代で全体的な傾向とほぼ同様であることがわかります。



問 13 問 12 で、「3 どちらかといえば取らない方がよい」「4 取らない方がよい」に1つでも○のあった方に伺います。(それ以外の方は問 14 へお進みください。) それは、どのような理由からですか。あてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

「どちらかといえば取らない方がよい」、「取らない方がよい」と回答した理由については、「仕事の評価や配属に影響するから」が 39.0%と最も高く、次いで「経済的に苦しくなるから」、「職場の理解が得られないから」がともに 38.5%となっています。

性別にみると、女性では「仕事の評価や配属に影響するから」、男性では「職場の理解が得られないから」が最も高くなっています。また、「仕事の評価や配属に影響するから」では女性が男性よりも 10 ポイント以上、「周囲に取得した男性がいないから」では男性が女性よりも約 10 ポイント上回っています。



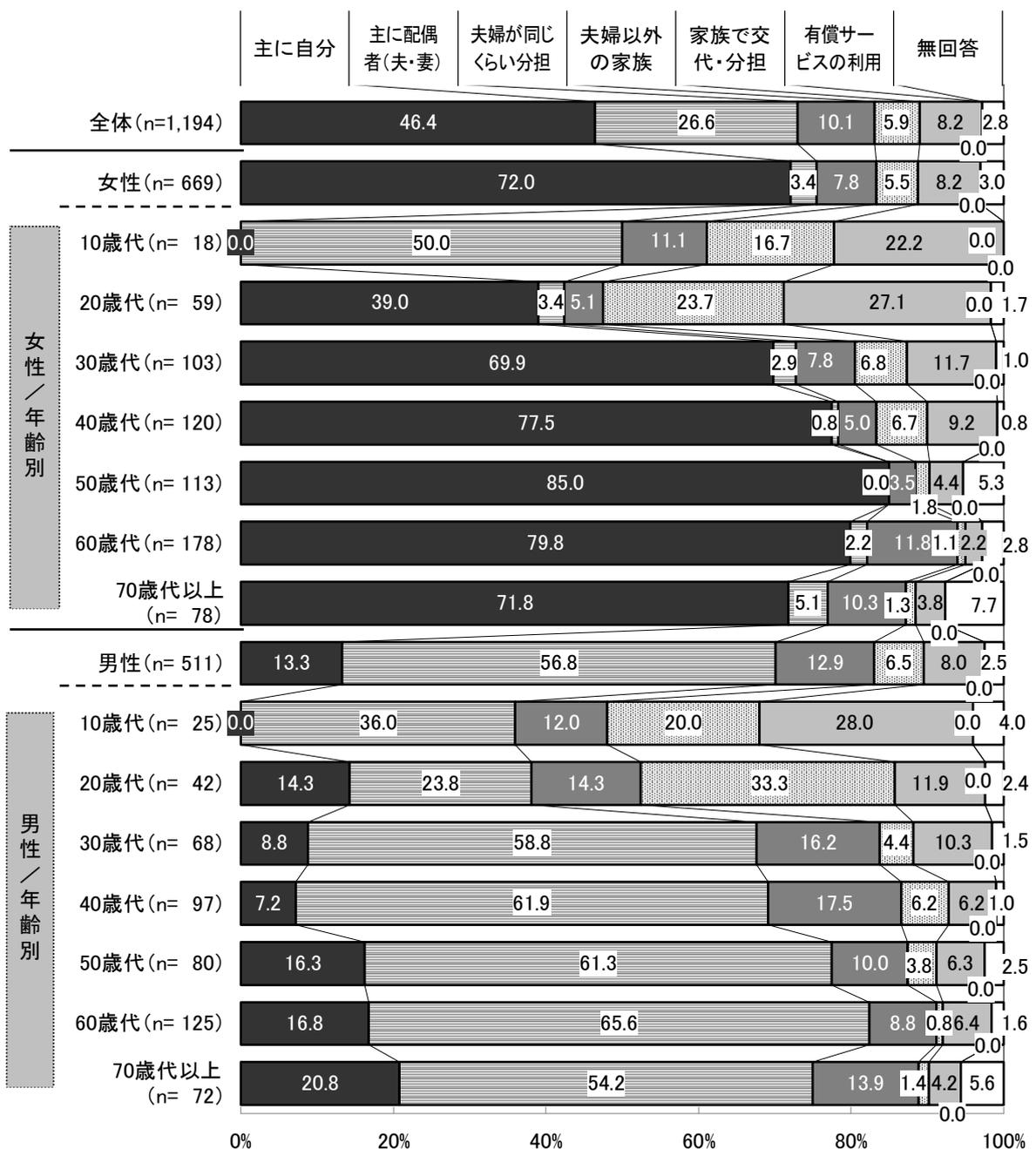
問 14 あなたの家庭では、次の①～④のことを主に誰がしていますか（誰がしますか）。それぞれについて、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。現在、子育てや介護をしていない場合でも、していると想定してお答えください。

①家事

家事の担い手については、「主に自分」が46.4%と最も高く、次いで「主に配偶者（夫・妻）」が26.6%となっています。

性別にみると、女性では「主に自分」が72.0%、男性では「主に配偶者（夫・妻）」が56.8%と最も高くなっています。

性・年齢別にみると、男女ともに10歳代と20歳代では「夫婦が同じくらい分担」と「家族で交代・分担」が合わせて3割弱から4割となっています。

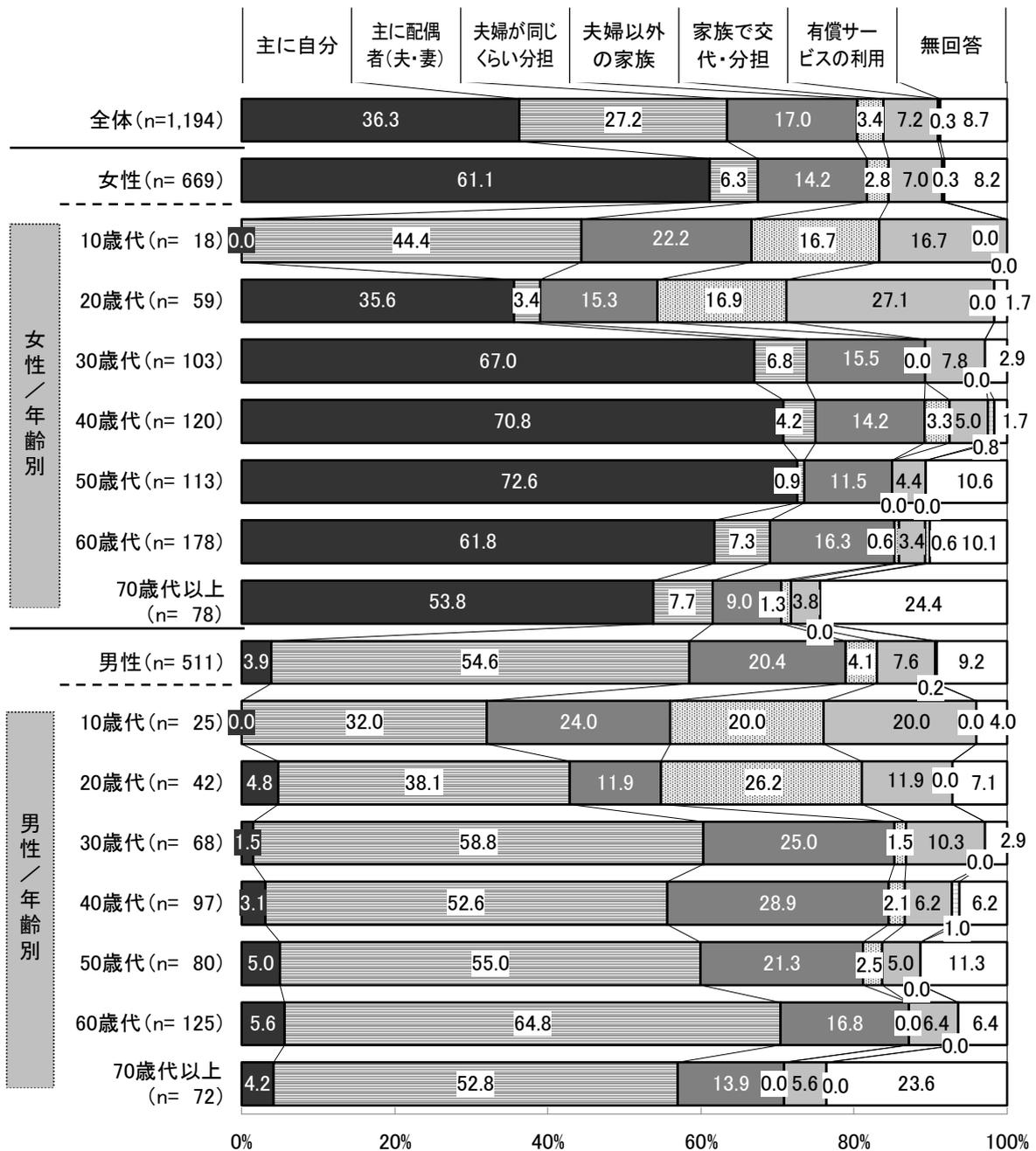


②育児・子育て

育児・子育ての担い手については、「主に自分」が36.3%と最も高く、次いで「主に配偶者(夫・妻)」が27.2%となっています。

性別にみると、女性では「主に自分」が61.1%、男性では「主に配偶者(夫・妻)」が54.6%と最も高くなっています。

性・年齢別にみると、「夫婦が同じくらい分担」では30歳代から50歳代で男性が女性を10ポイント前後上回っており、捉え方に違いがみられます。

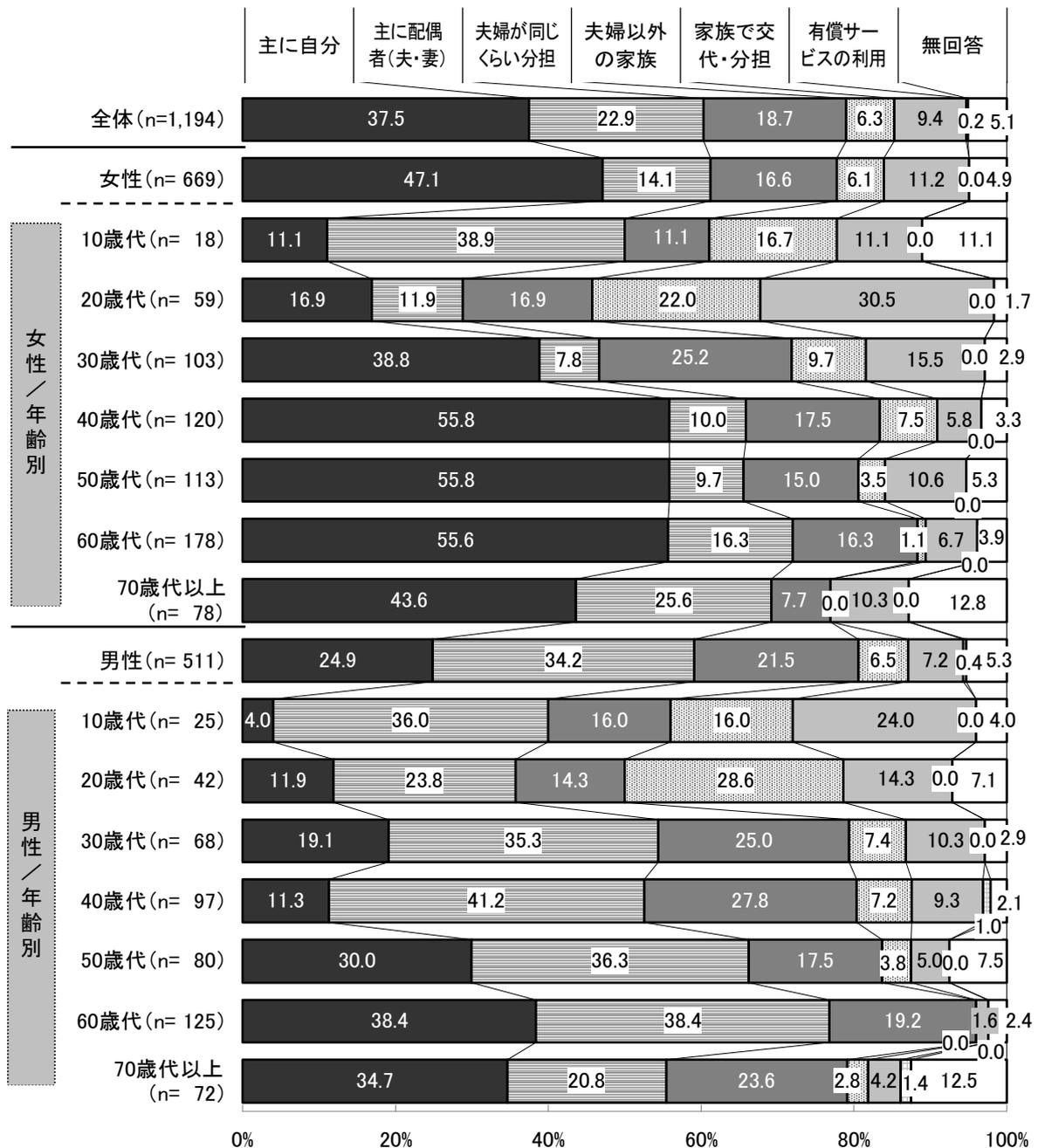


③自治会活動など地域の活動

自治会活動など地域の活動の担い手については、「主に自分」が37.5%と最も高く、次いで「主に配偶者(夫・妻)」が22.9%となっています。

性別にみると、女性では「主に自分」が47.1%、男性では「主に配偶者(夫・妻)」が34.2%と最も高くなっています。

性・年齢別にみると、男性の50歳代以上では「主に自分」が3割を超え、他の年代よりも高くなっています。

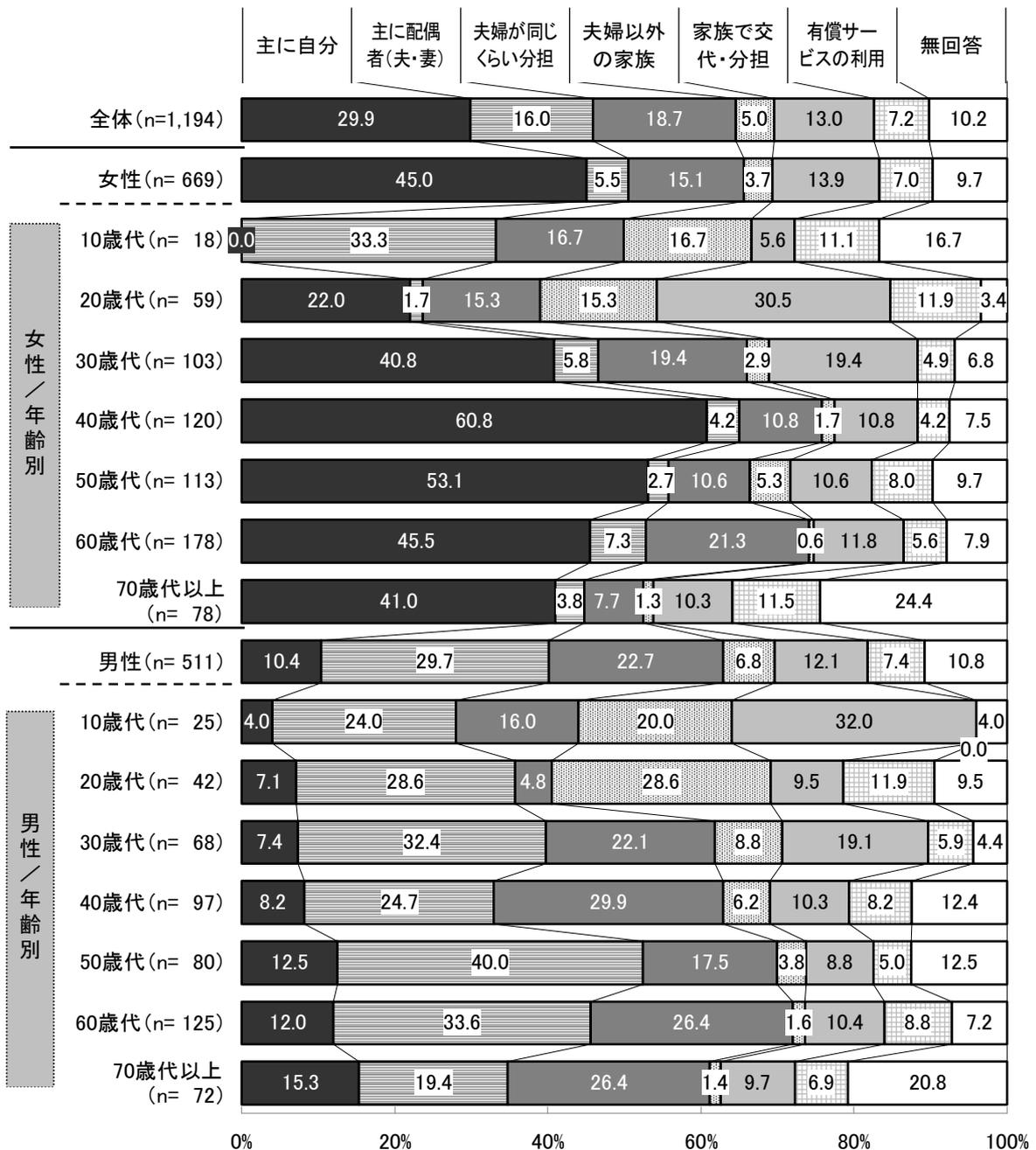


④介護

介護の担い手については、「主に自分」が29.9%と最も高く、次いで「夫婦が同じくらい分担」が18.7%となっています。

性別にみると、女性では「主に自分」が45.0%、男性では「主に配偶者(夫・妻)」が29.7%と最も高くなっています。

性・年齢別にみると、男性の50歳代を除く30歳代以上で「夫婦が同じくらい分担」が2割を超えており、同年代の女性の数値を上回っています。



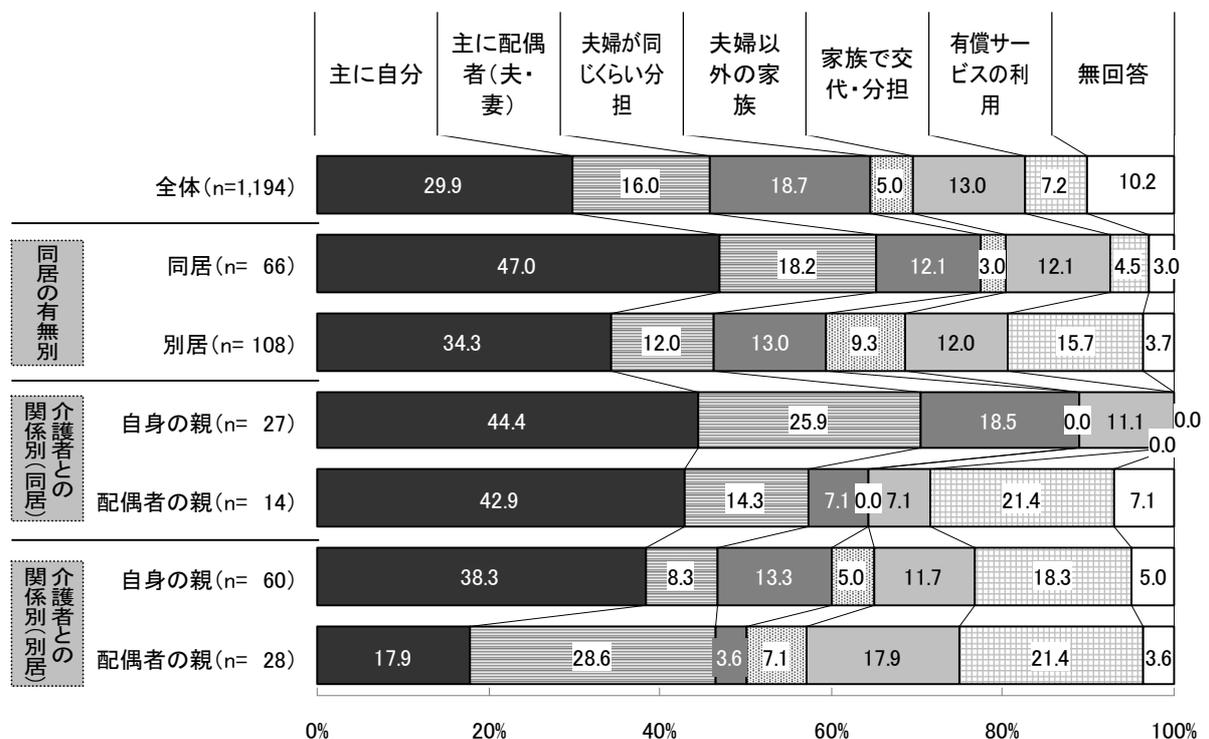
④介護

介護の状況別

介護の状況別にみると、同居の有無では、同居・別居のいずれの場合も「主に自分」が最も高いものの、同居の場合の方が10ポイント以上高くなっています。また、別居の場合「有償サービスの利用」が同居の場合よりも10ポイント以上高くなっています。

同居の場合の介護者との関係では、自身の親・配偶者の親のいずれの場合も「主に自分」が最も高くなっています。また、自身の親の場合は「主に配偶者（夫・妻）」、配偶者の親の場合は「有償サービスの利用」も高くなっています。

別居の場合の介護者との関係では、自身の親の場合は「主に自分」、配偶者の親の場合は「主に配偶者（夫・妻）」が最も高くなっています。また、同居の場合と比べ、「家族で交代・分担」や「有償サービスの利用」も高い傾向がうかがえます。

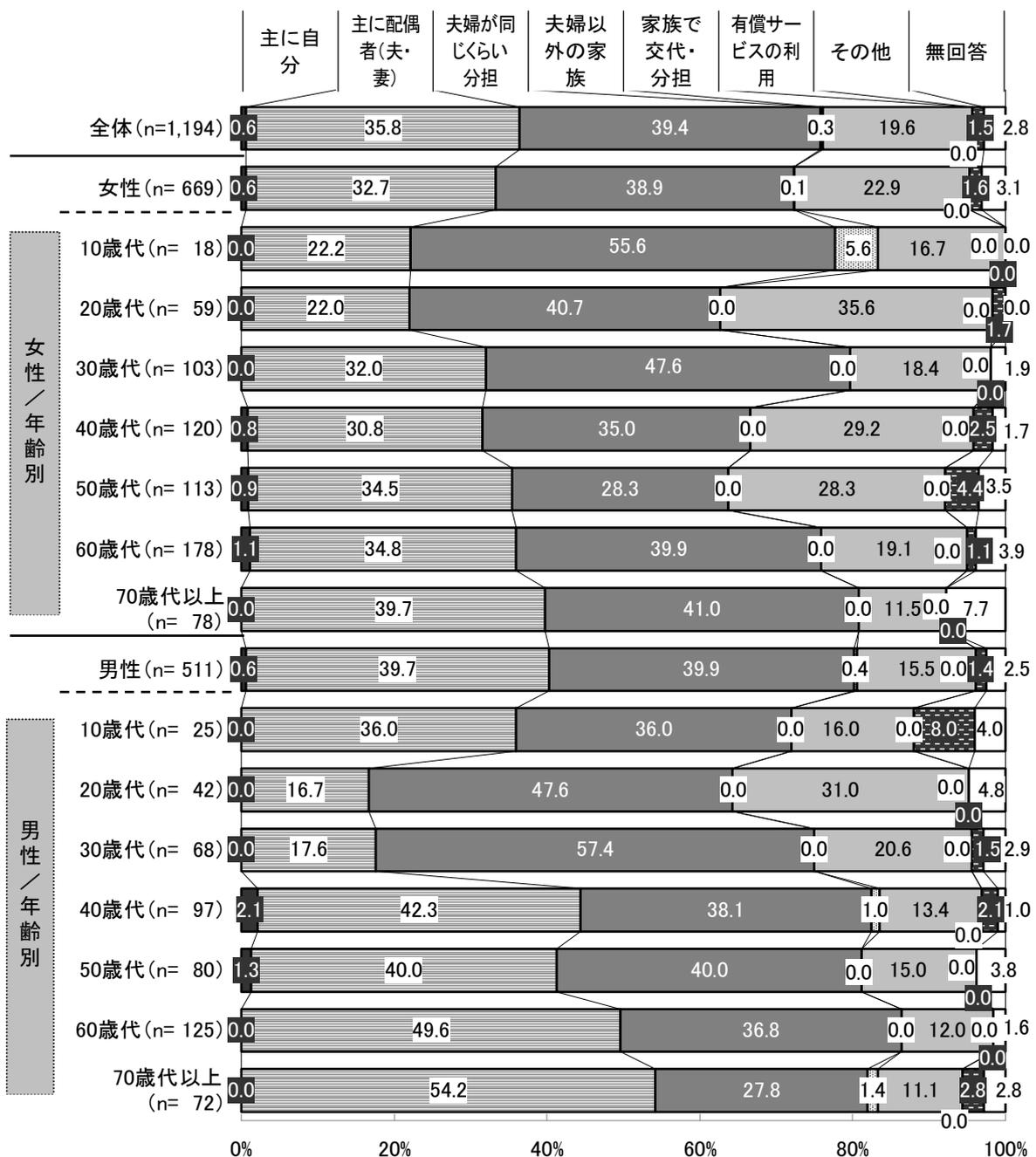


問 15 あなたは、次の①～④について、家庭における役割は誰がするのが望ましいと思いますか。それぞれについて、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

①家事

家事の望ましい担い手については、「夫婦が同じくらい分担」が39.4%と最も高く、次いで「主に配偶者（夫・妻）」が35.8%となっています。

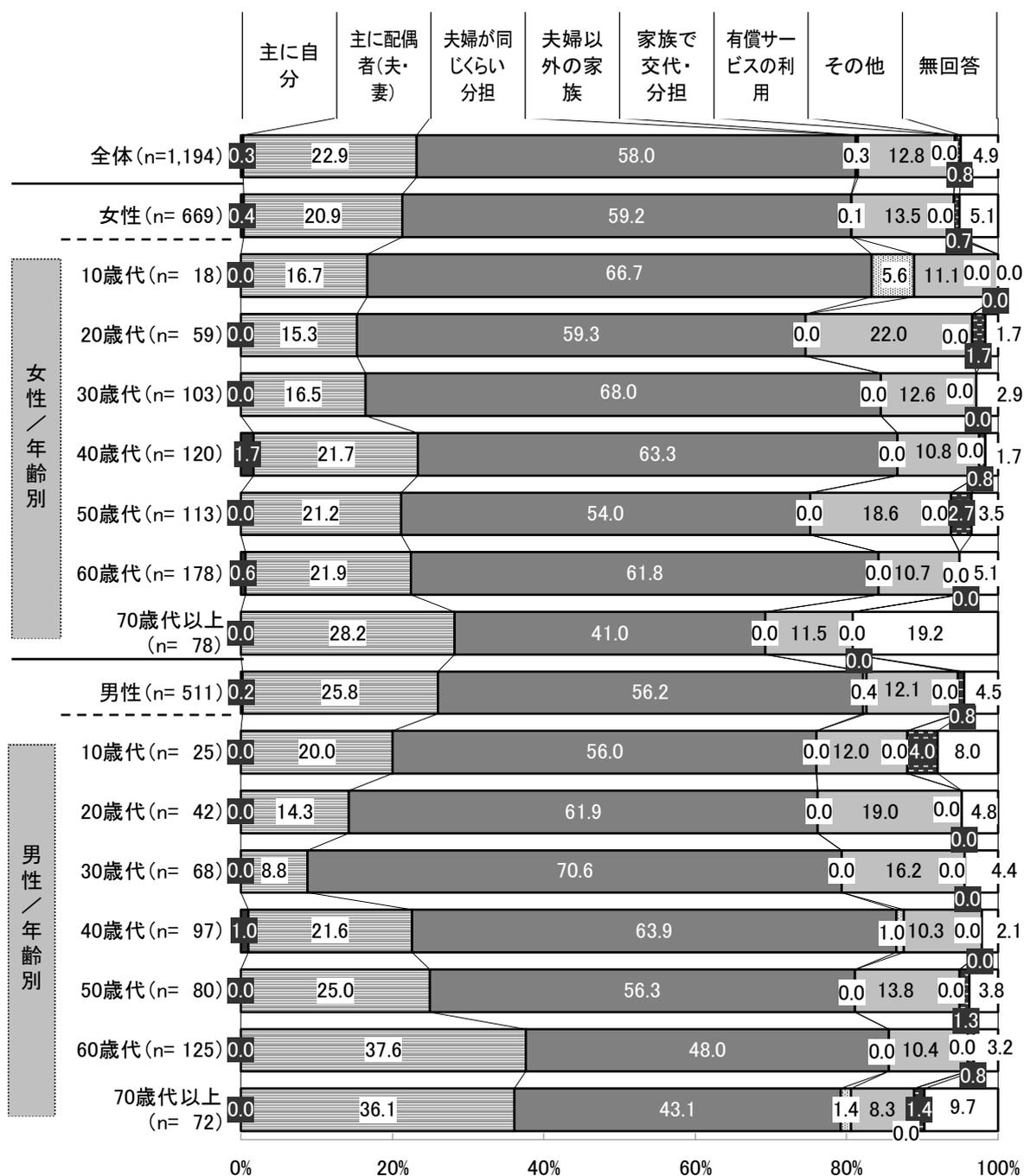
性・年齢別にみると、女性では10歳代から30歳代までは「夫婦が同じくらい分担」が「主に配偶者（夫・妻）」を15から20ポイント以上上回っているものの、40歳代以上ではほぼ同程度となっています。また、20歳代及び40歳代と50歳代では「家族で交代・分担」も高くなっています。男性では、20歳代と30歳代では「夫婦が同じくらい分担」、40歳代以上では「主に配偶者（夫・妻）」が高くなっています。



②育児・子育て

育児・子育ての望ましい担い手については、「夫婦が同じくらい分担」が 58.0%と最も高く、次いで「主に配偶者（夫・妻）」が 22.9%となっています。

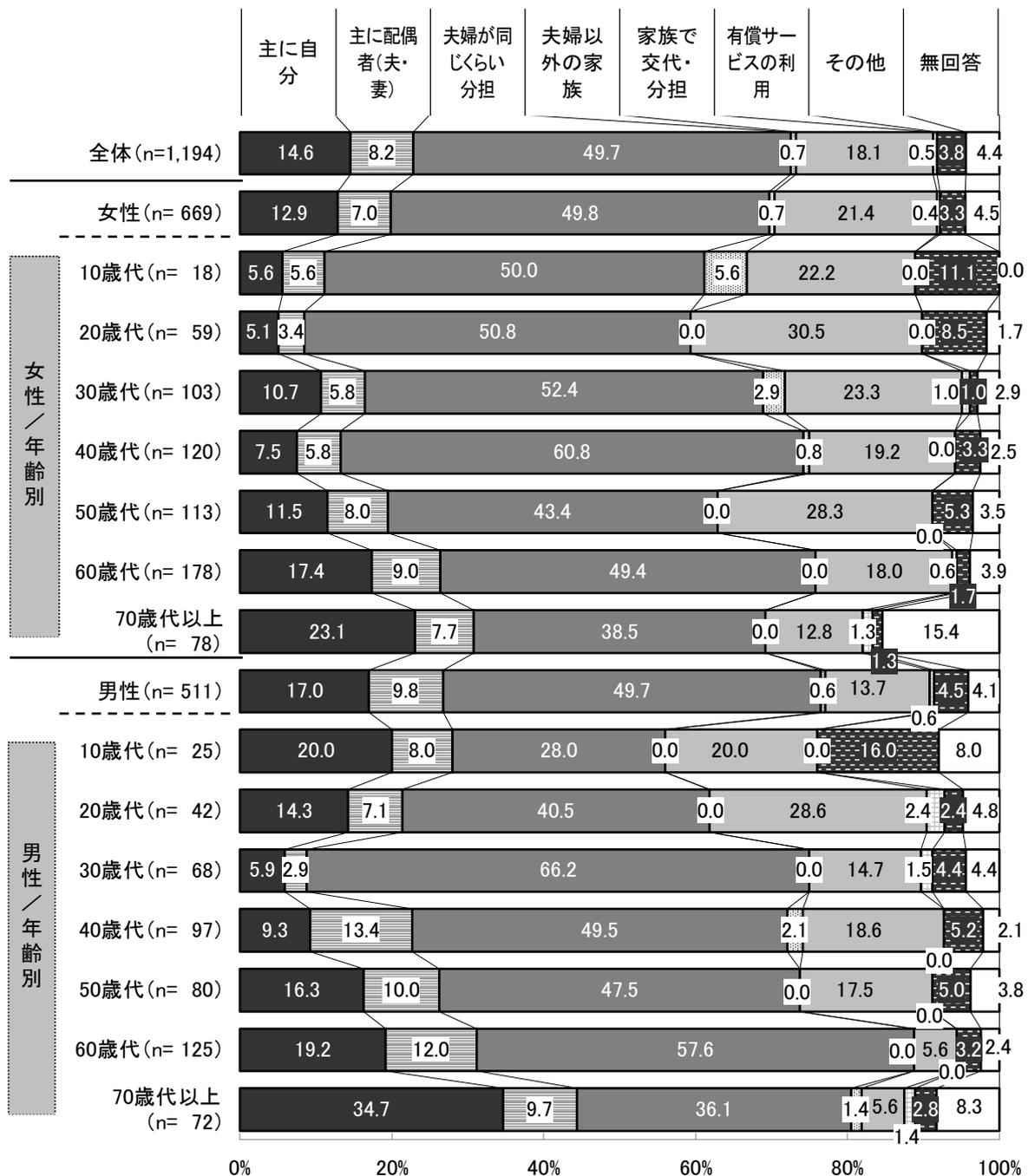
性・年齢別にみると、女性では全体的な傾向とほぼ同様となっています。男性では、20歳代から40歳代で「夫婦が同じくらい分担」が6割から7割を超え、他の年代よりも高くなっています。



③自治会活動など地域の活動

自治会活動など地域の活動の望ましい担い手については、「夫婦が同じくらい分担」が 49.7%と最も高く、次いで「家族で交代・分担」が 18.1%となっています。

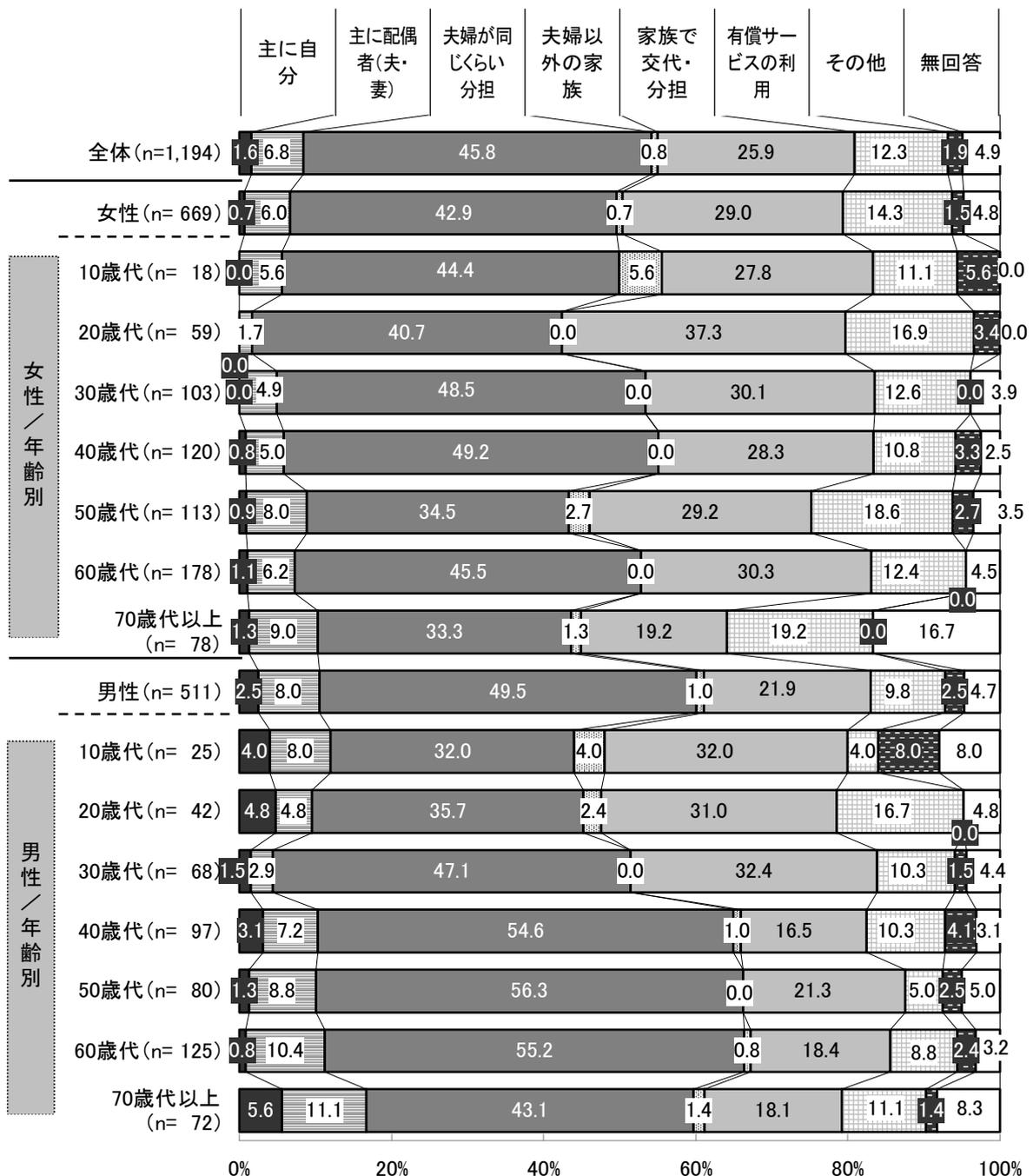
性・年齢別にみると、女性では 40 歳代以上、男性では 30 歳代以上で「主に自分」が年齢とともに上昇していることがわかります。



④介護

介護の望ましい担い手については、「夫婦が同じくらい分担」が45.8%と最も高く、次いで「家族で交代・分担」が25.9%となっています。また、「有償サービスの利用」が12.3%と1割を超えています。

性・年齢別にみると、男女ともに全体的な傾向とおおむね同様となっています。



問 16 あなたが現在、仕事以外で、参加している地域活動は何ですか。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

現在参加している地域活動については、「地域活動に参加したことがない」が 32.9%と最も高く、次いで「仲間とする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動」が 31.5%、「自治会等の活動」が 25.6%となっています。

性別にみると、女性では「仲間とする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動」、男性では「地域活動に参加したことがない」が最も高くなっています。

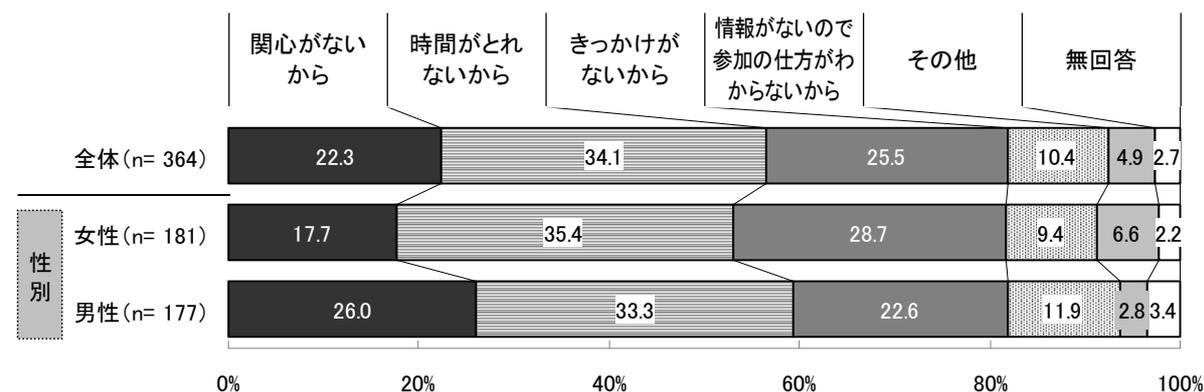
性・年齢別にみると、女性の 10 歳代及び 50 歳代以上では「仲間とする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動」、20 歳代と 30 歳代では「地域活動に参加したことがない」、40 歳代では「自治会等の活動」が最も高くなっています。また、男性の 10 歳代では「仲間とする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動」、20 歳代から 40 歳代及び 60 歳代では「地域活動に参加したことがない」、50 歳代と 70 歳代以上では「自治会等の活動」が最も高くなっています。

単位：%	n	一人です る学習活 動、スポ ーツ活動、趣 味や娯楽 活動	仲間とす る学習活 動、スポ ーツ活動、趣 味や娯楽 活動	自治会等 の活動	民生委員 などの公 的な立場 で地域社 会に貢献 するよう な活動	NPO(民 間非営利 組織)やボ ランティア などの活 動	その他	地域活動 に参加し たことが ない	無回答	
全体	1,194	20.7	31.5	25.6	2.3	6.8	3.2	32.9	5.8	
女性	女性全体	669	18.7	34.4	27.4	1.8	6.7	3.1	29.1	6.4
	10歳代	18	33.3	44.4	0.0	0.0	5.6	0.0	33.3	5.6
	20歳代	59	22.0	22.0	11.9	0.0	6.8	0.0	55.9	0.0
	30歳代	103	17.5	23.3	20.4	1.0	2.9	1.9	49.5	1.9
	40歳代	120	14.2	24.2	40.0	2.5	4.2	4.2	27.5	7.5
	50歳代	113	14.2	38.9	25.7	1.8	12.4	6.2	18.6	9.7
	60歳代	178	23.6	46.6	32.0	2.8	6.2	2.2	18.5	3.9
70歳代以上	78	16.7	37.2	26.9	1.3	9.0	3.8	23.1	16.7	
男性	男性全体	511	23.5	28.2	23.5	3.1	7.0	3.3	37.6	4.9
	10歳代	25	20.0	48.0	12.0	0.0	4.0	0.0	32.0	4.0
	20歳代	42	26.2	23.8	0.0	0.0	7.1	7.1	50.0	7.1
	30歳代	68	22.1	36.8	11.8	0.0	5.9	2.9	44.1	4.4
	40歳代	97	20.6	22.7	13.4	2.1	2.1	2.1	52.6	3.1
	50歳代	80	26.3	18.8	33.8	3.8	5.0	3.8	32.5	3.8
	60歳代	125	24.8	28.0	32.0	4.8	11.2	2.4	33.6	3.2
70歳代以上	72	23.6	33.3	38.9	6.9	11.1	5.6	19.4	11.1	

問 17 問 16で「7 地域活動に参加したことがない」とお答えした方に伺います。(それ以外の方は問 18 へお進みください)。それは、どのような理由からですか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

地域活動に参加したことがない理由については、「時間がとれないから」が34.1%と最も高く、次いで「きっかけがないから」が25.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「時間がとれないから」が最も高いものの、女性では「きっかけがないから」、男性では「関心がないから」も高くなっています。



問 18 あなたが今後、参加してみたい地域活動は何ですか。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

今後してみたい地域活動については、「仲間とする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動」が39.4%と最も高く、次いで「特にない」が33.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「仲間とする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動」が最も高くなっています。

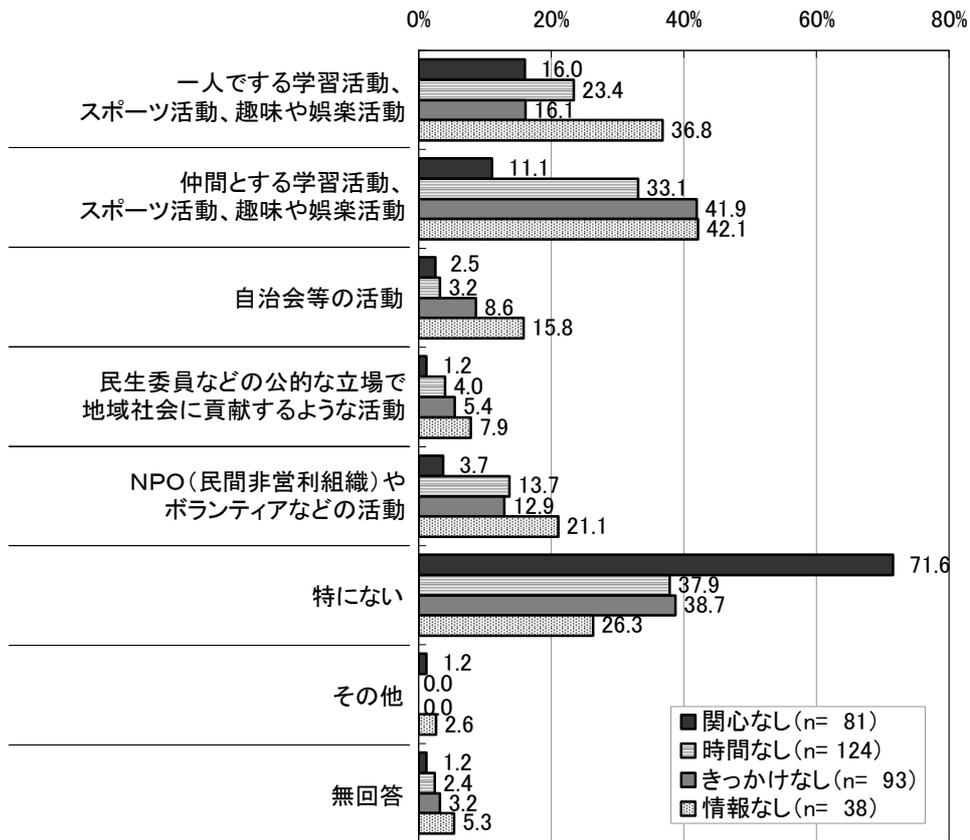
年齢別にみると、全体及び性別の傾向とほぼ同様となっているものの、60歳代以上で「自治会等の活動」、10歳代と50歳代及び60歳代で「NPO（民間非営利組織）やボランティアなどの活動」が他の年代よりもやや高くなっています。

単位:%	n	一人でする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動	仲間とする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動	自治会等の活動	民生委員などの公的な立場で地域社会に貢献するような活動	NPO(民間非営利組織)やボランティアなどの活動	特にない	その他	無回答
全体	1,194	21.3	39.4	10.8	7.0	17.7	33.6	1.5	4.9
性別									
女性	669	22.4	41.7	8.5	5.2	19.0	31.2	1.2	5.1
男性	511	20.2	36.6	13.9	9.2	16.0	36.0	1.8	4.9
年齢別									
10歳代	18	14.0	32.6	4.7	4.7	23.3	41.9	0.0	4.7
20歳代	59	24.8	44.6	8.9	9.9	15.8	32.7	2.0	2.0
30歳代	103	22.1	39.5	7.0	7.0	12.8	39.0	0.6	1.2
40歳代	120	25.2	35.3	9.6	7.8	14.2	39.9	2.3	3.7
50歳代	113	19.7	36.8	8.8	6.7	23.8	34.2	0.5	5.7
60歳代	178	22.5	43.0	13.7	6.8	20.8	26.4	2.0	5.9
70歳代以上	78	14.4	39.2	16.3	5.2	13.7	30.7	2.0	10.5

未参加の理由別

地域活動に参加したことがない場合の理由別にみると、「関心なし」と「時間なし」では参加してみたい活動は「特になし」、「きっかけなし」と「情報なし」では「仲間とする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動」が最も高くなっています。

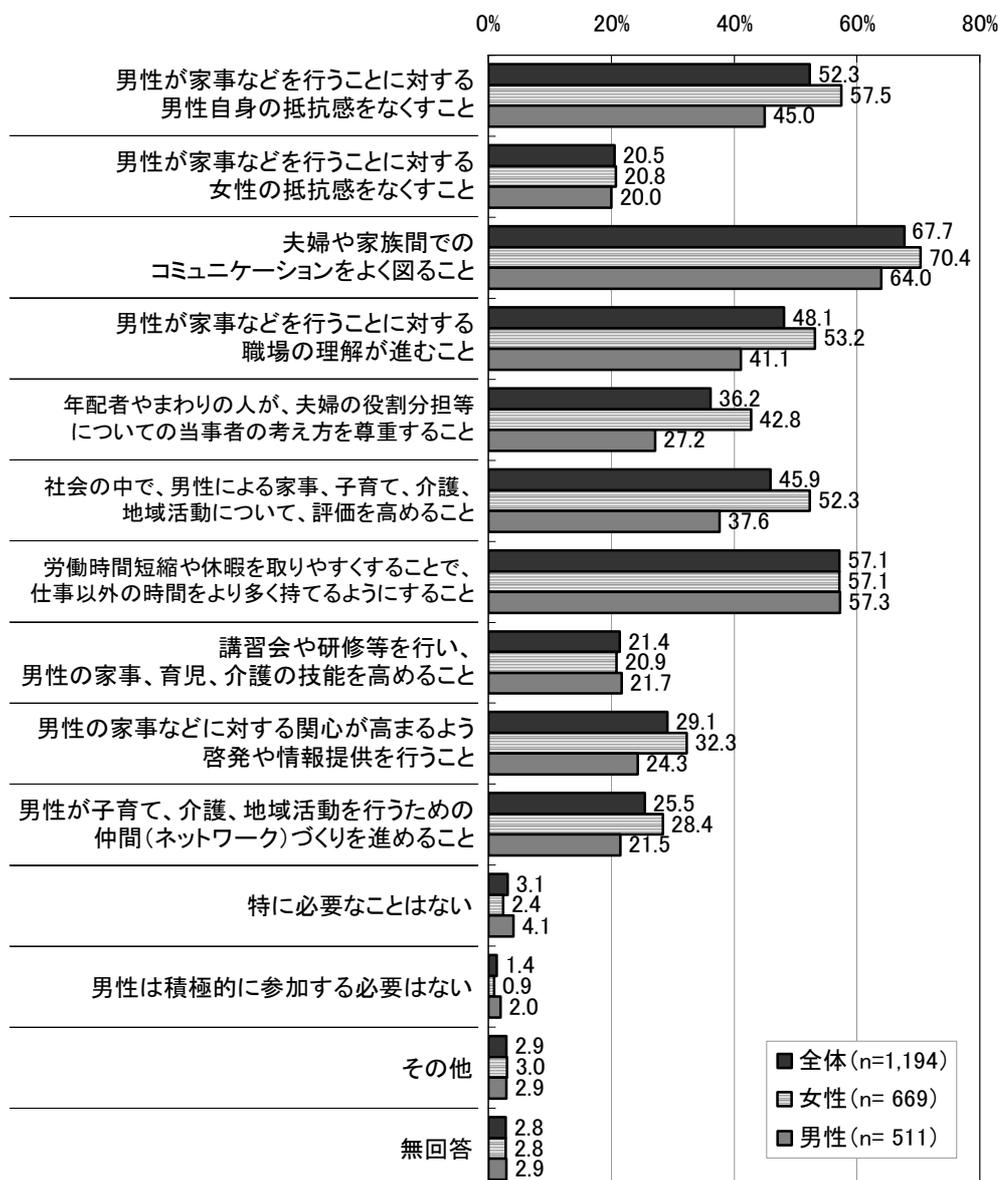
また、「情報なし」では「自治会等の活動」や「NPO（民間非営利組織）やボランティアなどの活動」が他の理由の項目よりも比較的高くなっています。



問 19 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に必要だと思うことを1～13の中からすべて選び、番号に○をつけてください。

男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくために必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が67.7%と最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が57.1%、「男性が家事などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が52.3%となっています。

性別にみると、男女ともに全体的な傾向とおおむね同様となっているものの、「男性が家事などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「男性が家事などを行うことに対する職場の理解が進むこと」、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、評価を高めること」では女性が男性を10ポイント以上上回っています。



5 ドメスティック・バイオレンス（DV）について

問 20 ①～⑬の各項目のようなことが、親しい間柄の異性間（配偶者・恋人・事実婚を含む）であった場合において、あなたはそれを暴力だと思いますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

親しい間柄間での行為を暴力だと思うかについては、すべての項目で「思う」が「思わない」を上回っています。「暴力と思う」の中では、“⑥避妊に協力しない・妊娠中絶を強要する”が最も高く90.6%、一方最も低かったものは“⑦携帯電話、手紙、メールなどを勝手に見る”の72.2%となっています。

性別にみても、全体的な傾向とほぼ同様となっています。

単位：%		思う	思わない	無回答
①平手で打つ <身体的>	全体(n=1,194)	88.9	6.2	4.9
	女性(n= 669)	88.5	5.7	5.8
	男性(n= 511)	89.6	7.0	3.3
②相手が嫌がっているのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる <性的>	全体(n=1,194)	85.2	9.5	5.3
	女性(n= 669)	83.4	10.0	6.6
	男性(n= 511)	87.9	8.8	3.3
③相手の交友関係や電話を必要以上に監視する <社会的>	全体(n=1,194)	83.4	10.9	5.7
	女性(n= 669)	83.6	9.7	6.7
	男性(n= 511)	83.4	12.5	4.1
④大声でどなる <精神的>	全体(n=1,194)	78.6	15.7	5.7
	女性(n= 669)	81.6	11.4	7.0
	男性(n= 511)	74.8	21.3	3.9
⑤家に生活費を入れない <経済的>	全体(n=1,194)	84.0	10.2	5.8
	女性(n= 669)	85.7	7.5	6.9
	男性(n= 511)	82.2	13.7	4.1
⑥避妊に協力しない・妊娠中絶を強要する <性的>	全体(n=1,194)	90.6	3.1	6.3
	女性(n= 669)	90.3	2.4	7.3
	男性(n= 511)	91.4	3.9	4.7
⑦携帯電話、手紙、メールなどを勝手に見る <社会的>	全体(n=1,194)	72.2	20.8	7.0
	女性(n= 669)	71.0	19.9	9.1
	男性(n= 511)	74.2	21.5	4.3
⑧勝手に借金をする・無理に借金をさせる <経済的>	全体(n=1,194)	87.6	6.7	5.7
	女性(n= 669)	87.6	5.5	6.9
	男性(n= 511)	87.9	8.2	3.9
⑨何を言っても無視し続ける <精神的>	全体(n=1,194)	81.9	12.1	6.0
	女性(n= 669)	83.0	9.6	7.5
	男性(n= 511)	80.6	15.5	3.9
⑩外出を制限する <社会的>	全体(n=1,194)	81.7	12.2	6.0
	女性(n= 669)	83.3	9.4	7.3
	男性(n= 511)	80.0	15.9	4.1
⑪性的な行為の強要 <性的>	全体(n=1,194)	90.3	3.9	5.9
	女性(n= 669)	89.7	3.1	7.2
	男性(n= 511)	91.4	4.7	3.9
⑫「誰のおかげで生活できるのだ」などと言う <精神的>	全体(n=1,194)	83.2	11.2	5.6
	女性(n= 669)	85.4	7.8	6.9
	男性(n= 511)	80.4	15.7	3.9
⑬「甲斐性がない」「稼ぎが悪い」などと言う <精神的>	全体(n=1,194)	80.7	12.6	6.7
	女性(n= 669)	81.0	10.8	8.2
	男性(n= 511)	80.6	14.9	4.5

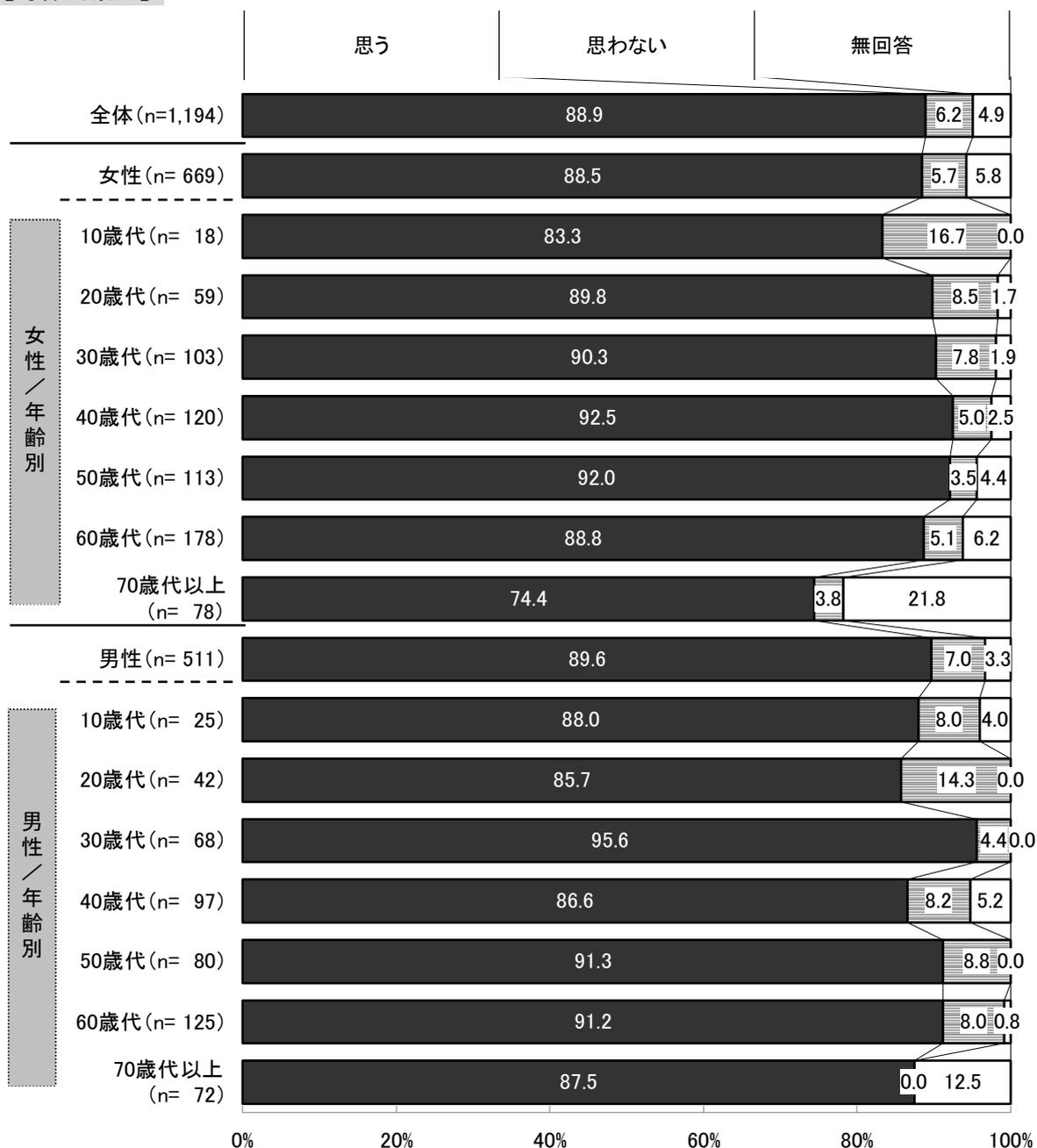
分野別

※分野別暴力について、すべて「思う」と回答した場合「思う」、「思わない」が1つでもあった場合又は無回答の場合「思わない」、すべて無回答の場合「無回答」とする。

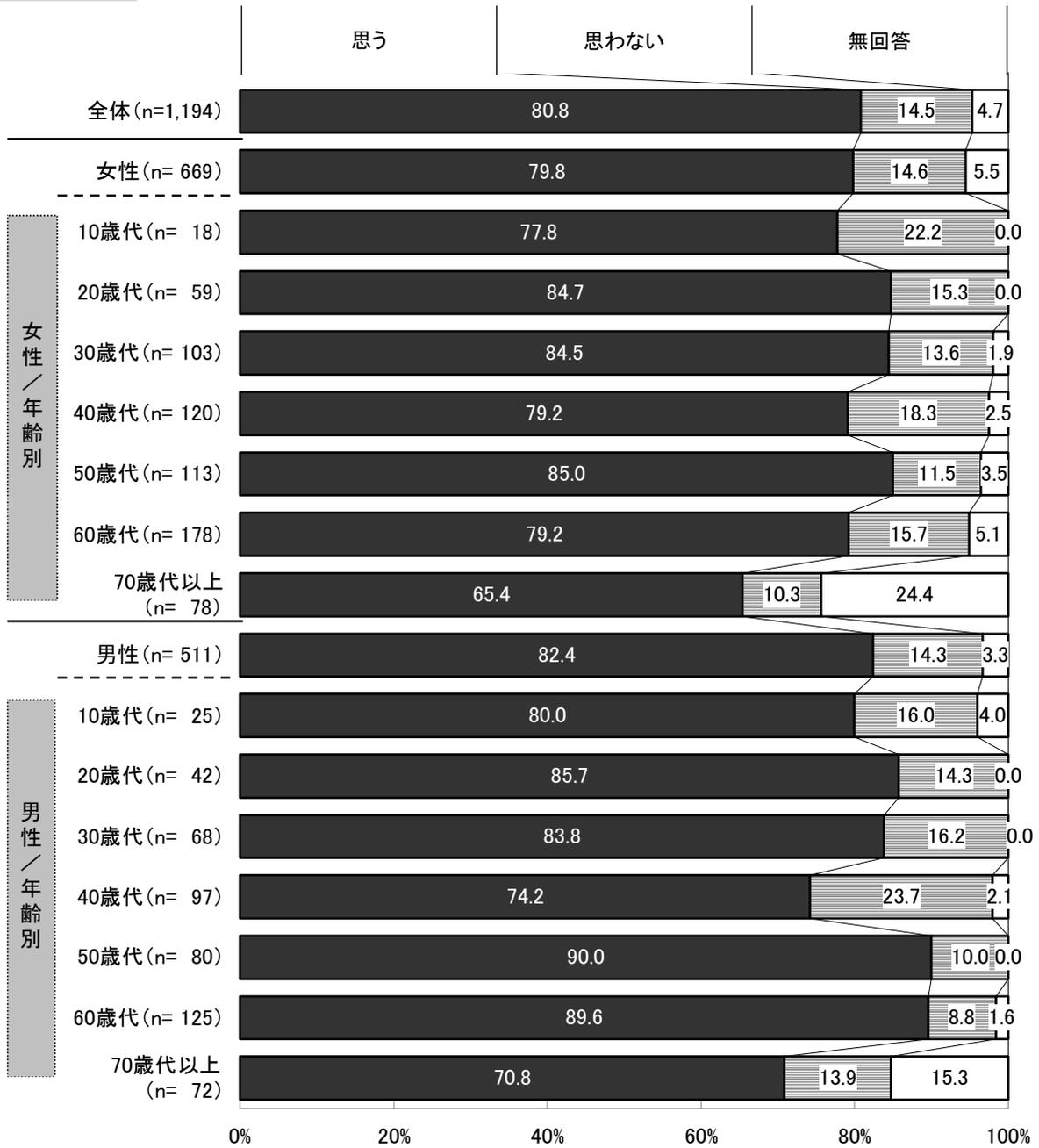
暴力を分野別にみると、“身体的暴力”、“性的暴力”、“経済的暴力”については「暴力と思う」が8割を超えているものの、“精神的暴力”や“社会的暴力”は6割半ばに止まっています。

性・年齢別にみると、“身体的暴力”や“性的暴力”は全体的な傾向とほぼ同様であるのに対し、“経済的暴力”では女性よりも男性の方が「暴力と思う」の割合が低い傾向がみられます。また、“精神的暴力”や“社会的暴力”は、男性の20歳代から40歳代で「暴力と思う」の割合がやや低くなっています。

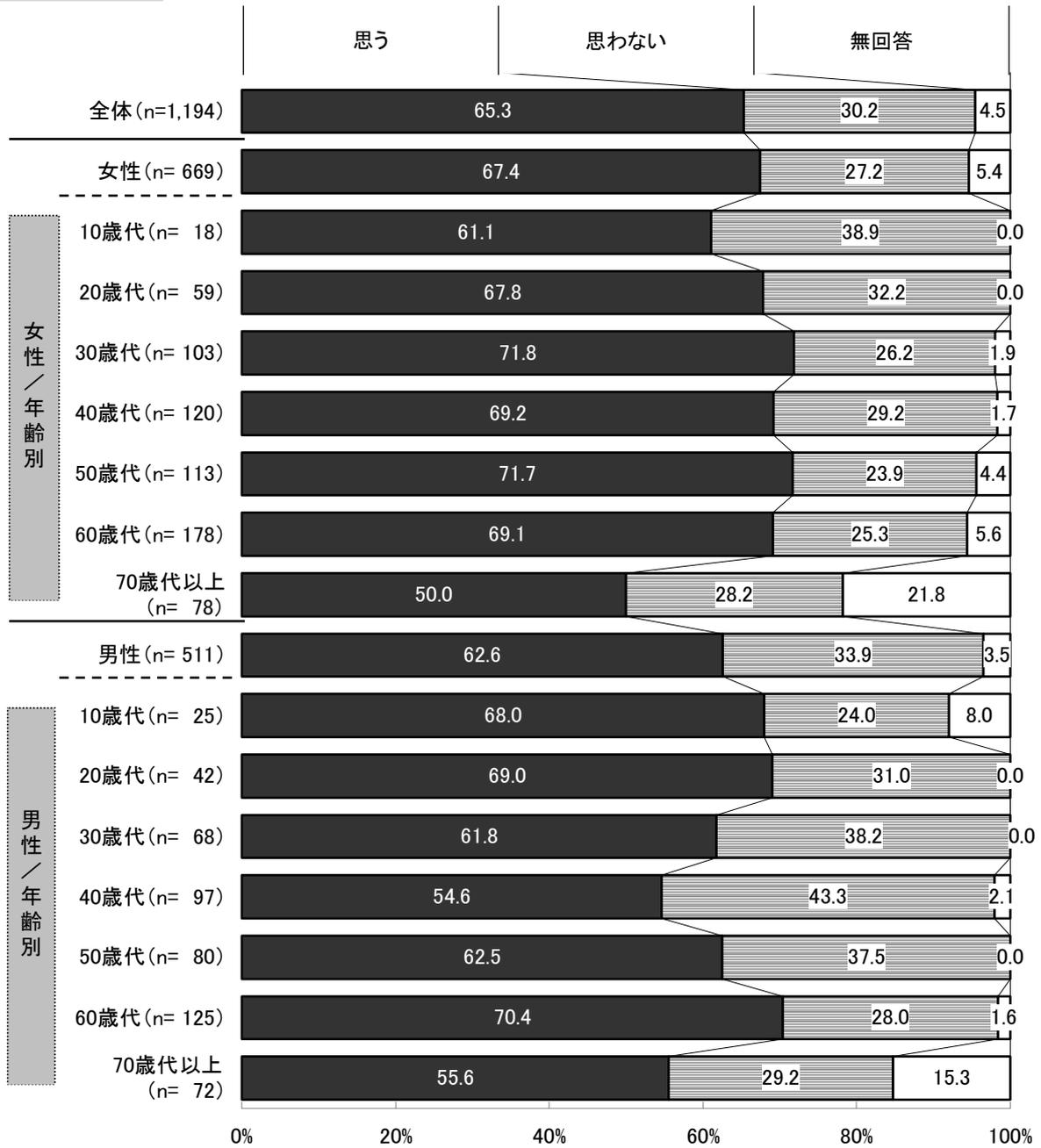
【身体的暴力】



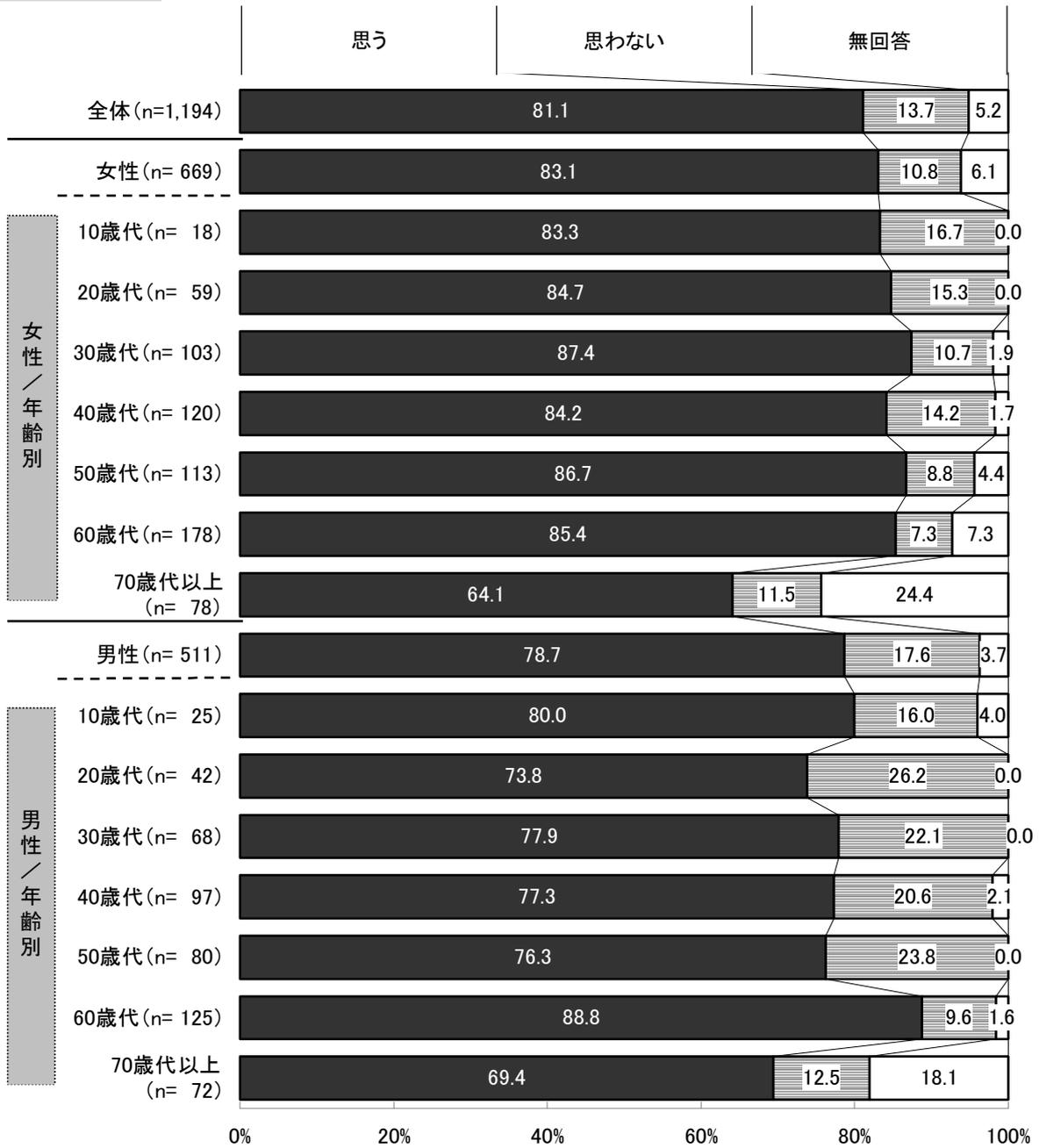
【性的暴力】



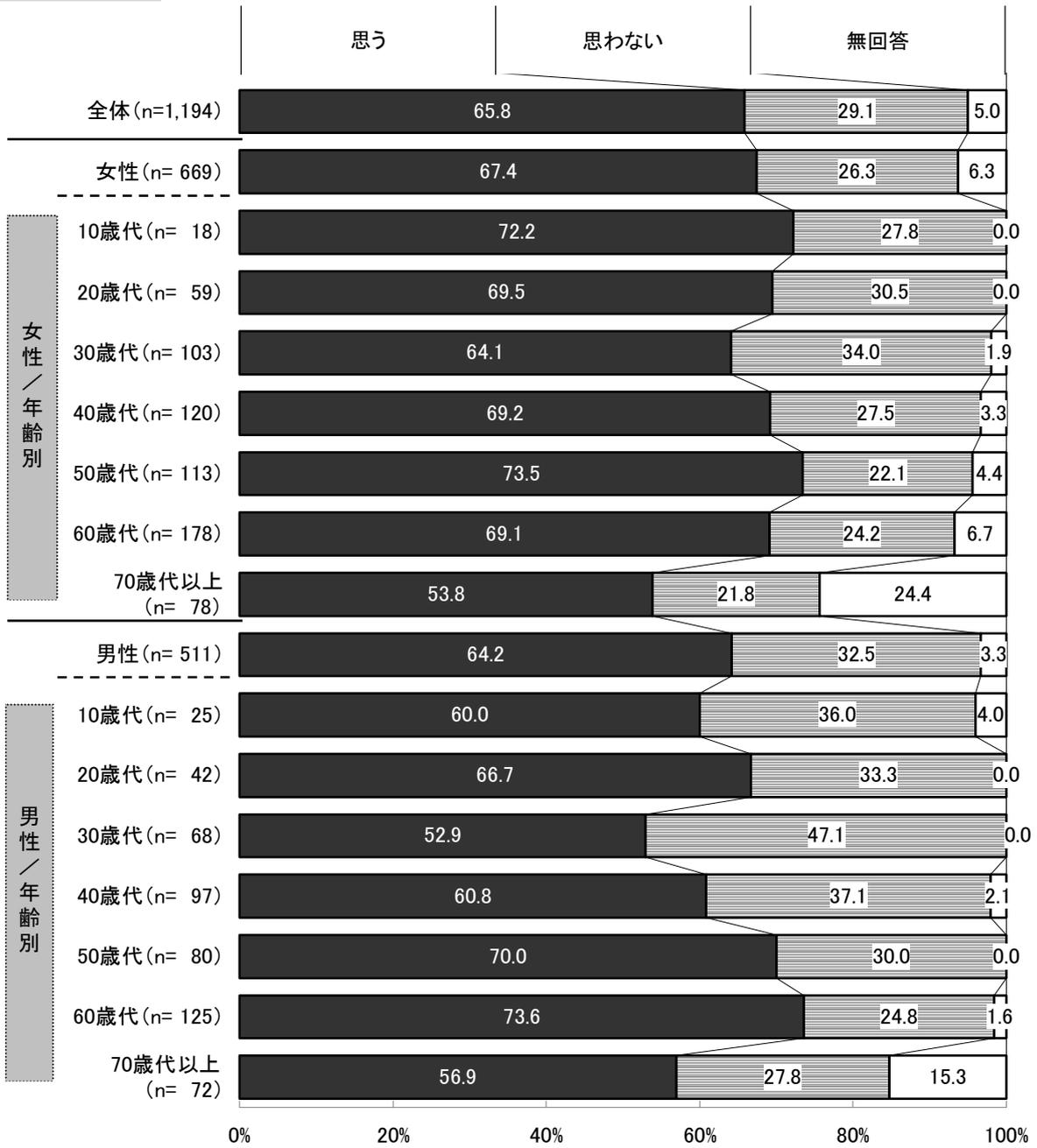
【精神的暴力】



【経済的暴力】



【社会的暴力】



経年比較

平成17年に実施した調査と比較すると、男女ともにすべての項目で「暴力と思う」の割合が上昇しています。

【女性】

単位：%		思う	思わない	無回答
①平手で打つ ＜身体的＞	平成27年(n=669)	88.5	5.7	5.8
	平成24年(n=659)	91.2	5.5	3.3
	平成17年(n=730)	80.3	11.5	8.2
②相手が嫌がっているのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる ＜性的＞	平成27年(n=669)	83.4	10.0	6.6
	平成24年(n=659)	84.1	13.2	2.7
	平成17年(n=730)	72.9	18.9	8.2
③相手の交友関係や電話を必要以上に監視する ＜社会的＞	平成27年(n=669)	83.6	9.7	6.7
	平成24年(n=659)	82.4	14.6	3.0
	平成17年(n=730)	60.7	29.9	9.5
④大声でどなる ＜精神的＞	平成27年(n=669)	81.6	11.4	7.0
	平成24年(n=659)	82.7	14.9	2.4
	平成17年(n=730)	72.6	19.2	8.2
⑤家に生活費を入れない ＜経済的＞	平成27年(n=669)	85.7	7.5	6.9
	平成24年(n=659)	84.8	12.4	2.7
	平成17年(n=730)	67.1	23.6	9.3
⑨何を言っても無視し続ける ＜精神的＞	平成27年(n=669)	83.0	9.6	7.5
	平成17年(n=730)	59.7	30.4	9.9
⑩性的な行為の強要 ＜性的＞	平成27年(n=669)	89.7	3.1	7.2
	平成17年(n=730)	89.2	4.5	6.3

【男性】

単位：%		思う	思わない	無回答
①平手で打つ ＜身体的＞	平成27年(n=511)	89.6	7.0	3.3
	平成24年(n=477)	89.1	8.2	2.7
	平成17年(n=552)	76.6	14.7	8.7
②相手が嫌がっているのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる ＜性的＞	平成27年(n=511)	87.9	8.8	3.3
	平成24年(n=477)	84.9	12.4	2.7
	平成17年(n=552)	75.5	14.9	9.6
③相手の交友関係や電話を必要以上に監視する ＜社会的＞	平成27年(n=511)	83.4	12.5	4.1
	平成24年(n=477)	82.0	15.7	2.3
	平成17年(n=552)	62.0	27.4	10.7
④大声でどなる ＜精神的＞	平成27年(n=511)	74.8	21.3	3.9
	平成24年(n=477)	75.9	21.8	2.3
	平成17年(n=552)	59.8	30.8	9.4
⑤家に生活費を入れない ＜経済的＞	平成27年(n=511)	82.2	13.7	4.1
	平成24年(n=477)	78.0	18.2	3.8
	平成17年(n=552)	64.9	23.9	11.2
⑨何を言っても無視し続ける ＜精神的＞	平成27年(n=511)	80.6	15.5	3.9
	平成17年(n=552)	57.1	31.9	11.1
⑩性的な行為の強要 ＜性的＞	平成27年(n=511)	91.4	4.7	3.9
	平成17年(n=552)	86.4	5.1	8.5

資料：平塚市「男女共同参画に関する市民意識調査」(平成17年度)
平塚市「男女共同参画に関する市民意識調査」(平成24年度)

問 21 ①～⑬の各項目のようなことについて、過去1年以内に親しい間柄の異性間（配偶者・恋人・事実婚を含む）で、あなたは「した」又は「された」経験がありますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

暴力を「した」又は「された」経験については、“④大声でどなる”で「した」が11.1%、「された」が13.1%で最も高くなっています。

性別にみると、女性では被害経験として“④大声でどなる”や“⑫「誰のおかげで生活できるのだ」などと言う”が1割から2割以上、男性では加害経験として“④大声でどなる”が約2割となっています。

単位：%		した	された	経験はない	無回答
①平手で打つ <身体的>	全体(n=1,194)	2.7	4.5	86.2	6.6
	女性(n=669)	1.9	6.9	83.7	7.5
	男性(n=511)	3.5	1.6	89.6	5.3
②相手が嫌がっているのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる <性的>	全体(n=1,194)	0.3	0.8	92.3	6.6
	女性(n=669)	0.0	1.5	91.0	7.5
	男性(n=511)	0.4	0.0	94.5	5.1
③相手の交友関係や電話を必要以上に監視する <社会的>	全体(n=1,194)	0.3	3.8	89.9	5.9
	女性(n=669)	0.1	5.8	87.4	6.6
	男性(n=511)	0.6	1.2	93.3	4.9
④大声でどなる <精神的>	全体(n=1,194)	11.1	13.1	69.6	6.1
	女性(n=669)	4.5	20.5	68.8	6.3
	男性(n=511)	19.4	3.7	71.0	5.9
⑤家に生活費を入れない <経済的>	全体(n=1,194)	0.8	3.1	90.2	5.9
	女性(n=669)	0.4	5.1	88.0	6.4
	男性(n=511)	1.2	0.6	93.2	5.1
⑥避妊に協力しない・妊娠中絶を強要する <性的>	全体(n=1,194)	0.4	2.0	91.2	6.4
	女性(n=669)	0.3	3.4	88.8	7.5
	男性(n=511)	0.4	0.0	95.1	4.5
⑦携帯電話、手紙、メールなどを勝手に見る <社会的>	全体(n=1,194)	2.0	4.4	86.5	7.0
	女性(n=669)	2.7	5.5	83.9	7.9
	男性(n=511)	1.2	3.1	90.2	5.5
⑧勝手に借金をする・無理に借金をさせる <経済的>	全体(n=1,194)	0.5	3.6	89.6	6.3
	女性(n=669)	0.3	5.4	87.1	7.2
	男性(n=511)	0.8	1.4	93.2	4.7
⑨何を言っても無視し続ける <精神的>	全体(n=1,194)	2.8	6.6	83.7	6.9
	女性(n=669)	2.1	8.8	81.6	7.5
	男性(n=511)	3.9	3.9	86.5	5.7
⑩外出を制限する <社会的>	全体(n=1,194)	0.7	3.9	88.9	6.6
	女性(n=669)	0.3	5.2	87.0	7.5
	男性(n=511)	1.2	2.2	91.6	5.1
⑪性的な行為の強要 <性的>	全体(n=1,194)	0.7	3.9	89.0	6.4
	女性(n=669)	0.4	6.7	85.4	7.5
	男性(n=511)	1.0	0.4	94.1	4.5
⑫「誰のおかげで生活できるのだ」などと言う <精神的>	全体(n=1,194)	1.8	6.5	85.7	5.9
	女性(n=669)	0.9	11.1	81.6	6.4
	男性(n=511)	3.1	0.6	91.4	4.9
⑬「甲斐性がない」「稼ぎが悪い」などと言う <精神的>	全体(n=1,194)	2.3	2.4	88.7	6.6
	女性(n=669)	3.3	2.2	87.0	7.5
	男性(n=511)	1.0	2.7	91.2	5.1

経年比較

平成17年に実施した調査と比較すると、女性ではすべての項目で加害・被害経験ともに減少しています。男性もおおむねすべての項目で加害・被害経験ともに減少しているものの、“⑤家に生活費を入れない”では加害・被害の両方、“⑩性的な行為の強要”では被害経験がわずかに上昇しています。

【女性】

単位:%		した	された	経験はない	無回答
①平手で打つ <身体的>	平成27年(n= 669)	1.9	6.9	83.7	7.5
	平成24年(n= 659)	1.5	3.8	91.4	3.3
	平成17年(n= 730)	4.2	17.8	69.9	8.1
②相手が嫌がっているのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる <性的>	平成27年(n= 669)	0.0	1.5	91.0	7.5
	平成24年(n= 659)	0.0	1.5	96.1	2.4
	平成17年(n= 730)	0.1	4.5	86.6	8.8
③相手の交友関係や電話を必要以上に監視する <社会的>	平成27年(n= 669)	0.1	5.8	87.4	6.6
	平成24年(n= 659)	0.8	3.6	93.0	2.6
	平成17年(n= 730)	1.2	9.2	80.5	9.0
④大声でどなる <精神的>	平成27年(n= 669)	4.5	20.5	68.8	6.3
	平成24年(n= 659)	3.2	22.5	70.6	3.8
	平成17年(n= 730)	6.2	31.5	55.2	7.1
⑤家に生活費を入れない <経済的>	平成27年(n= 669)	0.4	5.1	88.0	6.4
	平成24年(n= 659)	0.6	4.1	92.6	2.7
	平成17年(n= 730)	0.5	6.7	83.8	8.9
⑨何を言っても無視し続ける <精神的>	平成27年(n= 669)	2.1	8.8	81.6	7.5
	平成17年(n= 730)	6.3	11.9	73.0	8.8
⑩性的な行為の強要 <性的>	平成27年(n= 669)	0.4	6.7	85.4	7.5
	平成17年(n= 730)	0.0	12.5	79.3	8.2

【男性】

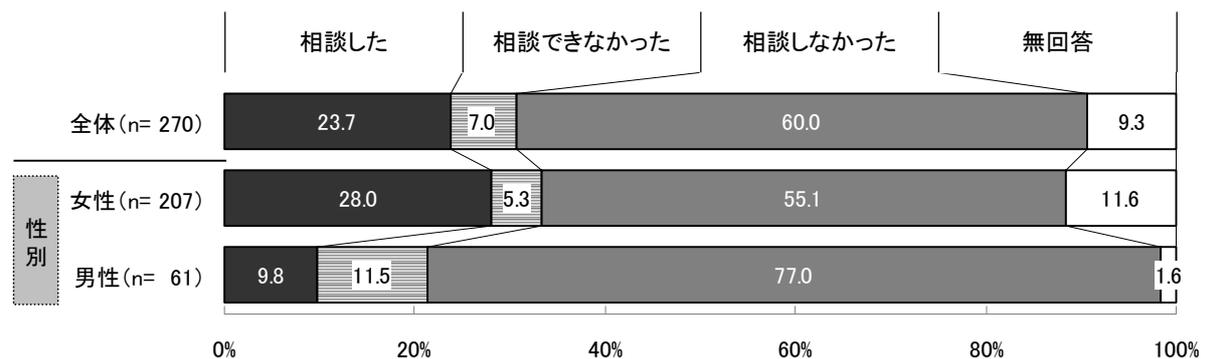
単位:%		した	された	経験はない	無回答
①平手で打つ <身体的>	平成27年(n= 511)	3.5	1.6	89.6	5.3
	平成24年(n= 477)	1.0	2.1	95.2	1.7
	平成17年(n= 552)	16.1	6.0	69.4	8.5
②相手が嫌がっているのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる <性的>	平成27年(n= 511)	0.4	0.0	94.5	5.1
	平成24年(n= 477)	0.4	0.2	98.3	1.0
	平成17年(n= 552)	2.4	0.2	88.4	9.1
③相手の交友関係や電話を必要以上に監視する <社会的>	平成27年(n= 511)	0.6	1.2	93.3	4.9
	平成24年(n= 477)	0.6	1.7	96.2	1.5
	平成17年(n= 552)	1.3	3.3	85.7	9.8
④大声でどなる <精神的>	平成27年(n= 511)	19.4	3.7	71.0	5.9
	平成24年(n= 477)	16.4	3.1	78.4	2.1
	平成17年(n= 552)	35.3	6.0	49.5	9.2
⑤家に生活費を入れない <経済的>	平成27年(n= 511)	1.2	0.6	93.2	5.1
	平成24年(n= 477)	1.9	0.6	95.8	1.7
	平成17年(n= 552)	1.1	0.4	88.4	10.1
⑨何を言っても無視し続ける <精神的>	平成27年(n= 511)	3.9	3.9	86.5	5.7
	平成17年(n= 552)	12.0	6.9	71.9	9.2
⑩性的な行為の強要 <性的>	平成27年(n= 511)	1.0	0.4	94.1	4.5
	平成17年(n= 552)	3.8	0.2	86.8	9.2

資料：平塚市「男女共同参画に関する市民意識調査」（平成17年度）
平塚市「男女共同参画に関する市民意識調査」（平成24年度）

問 22 問 21 で「された」に1つでも○のあった方に伺います。(それ以外の方は問 25 へお進みください。) あなたは、このような経験について、誰かに相談しましたか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

暴力に関する相談の有無については、「相談しなかった」が 60.0%と最も高く、次いで「相談した」が 23.7%となっています。

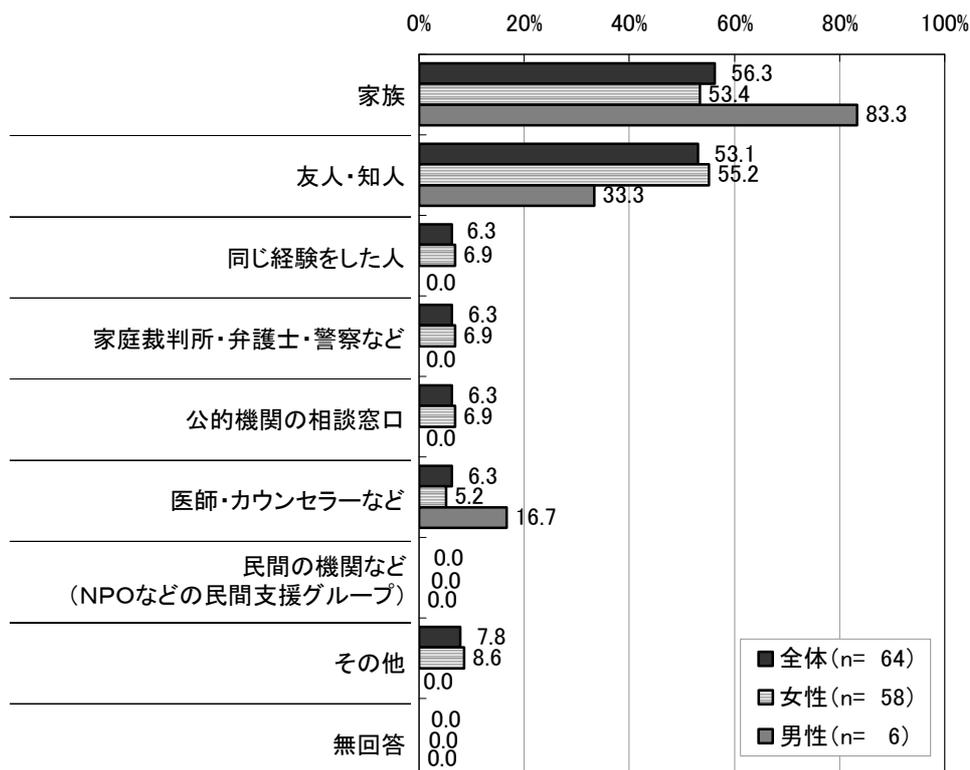
性別にみると、男女ともに「相談しなかった」が最も高くなっているものの、男性が女性を 20 ポイント以上上回っています。また、女性では「相談した」が男性よりも約 20 ポイント高くなっています。



問 23 問 22 で 1 に○のあった方に伺います。実際にどこ（誰）に相談しましたか。あてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

相談先については、「家族」が 56.3%と最も高く、次いで「友人・知人」が 53.1%となっています。

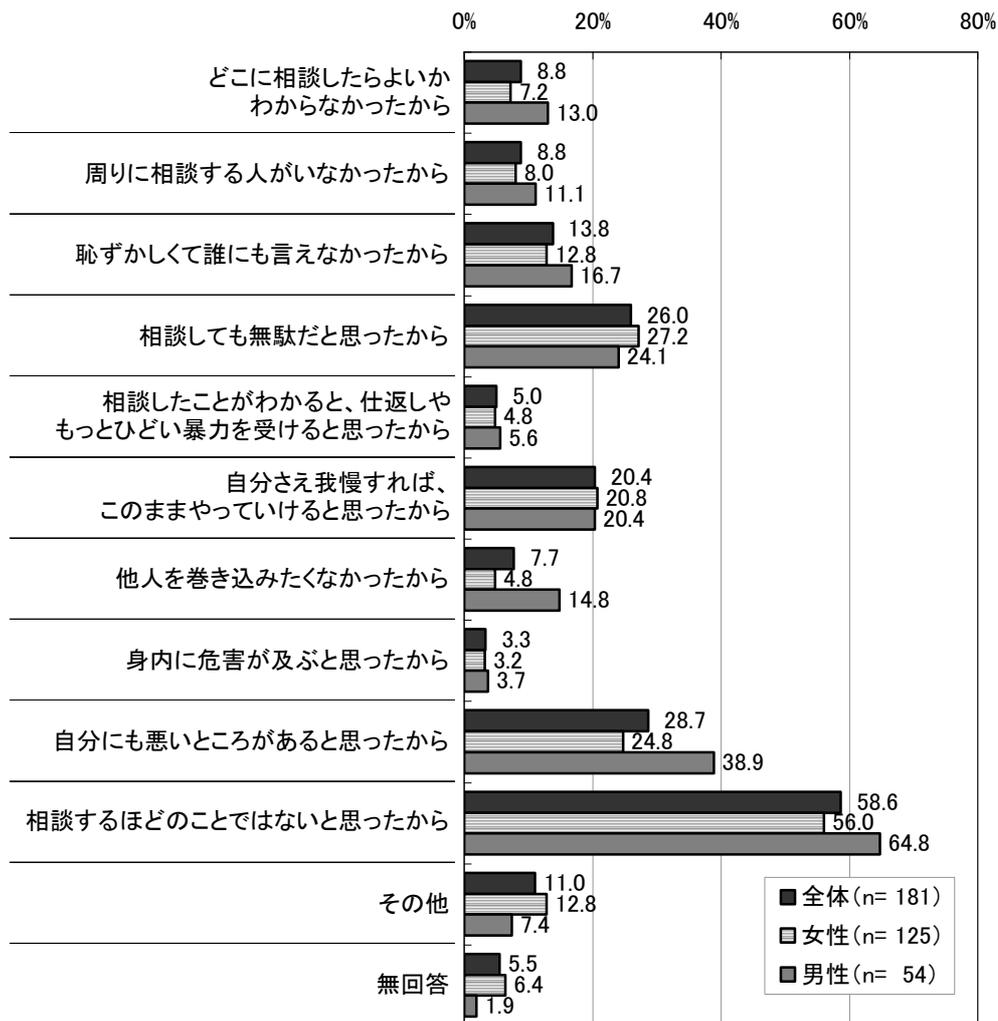
性別にみると、男女ともに全体的な傾向とおおむね同様となっているものの、男性では「医師・カウンセラーなど」が 1 割を超えています。



問 24 問 22 で 2、3 に ○ のあった方に伺います。なぜ、「相談できなかった」「相談しなかった」のですか。あてはまるものすべてを選び、番号に ○ をつけてください。

「相談できなかった」、「相談しなかった」理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が 58.6% と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が 28.7%、「相談しても無駄だと思ったから」が 26.0% となっています。

性別にみても、全体的な傾向とほぼ同様となっているものの、「他人を巻き込みたくなかったから」や「自分にも悪いところがあると思ったから」では男性が女性を 10 ポイント以上上回っています。

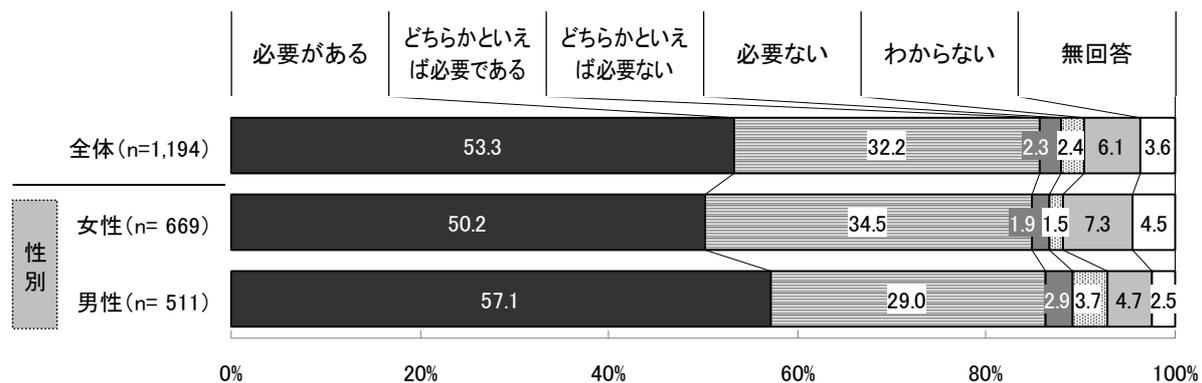


6 防災について

問 25 あなたは、防災や災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか。1～5のうち、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

防災や災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要か否かについては、「必要がある」が53.3%と最も高く、「どちらかといえば必要である」と合わせた『必要がある』が85.5%となっています。

性別にみても、全体的な傾向とほぼ同様となっています。

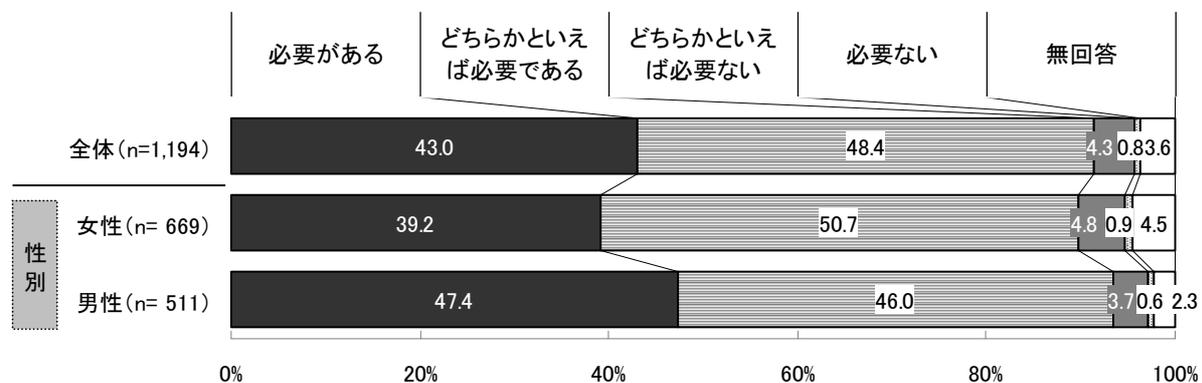


問 26 誰の身にも降りかかる可能性のある災害ですが、防災や災害復興活動に関して男女共同参画を推進していくためには、特にどんなことが必要と考えますか。①～⑧の項目について、それぞれあてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

①女性が、防災訓練や防災研修会へ積極的に参加するよう努めること

女性が、防災訓練や防災研修会へ積極的に参加するよう努めることについては、「どちらかといえば必要である」が48.4%と最も高く、「必要がある」と合わせた『必要がある』が91.4%となっています。

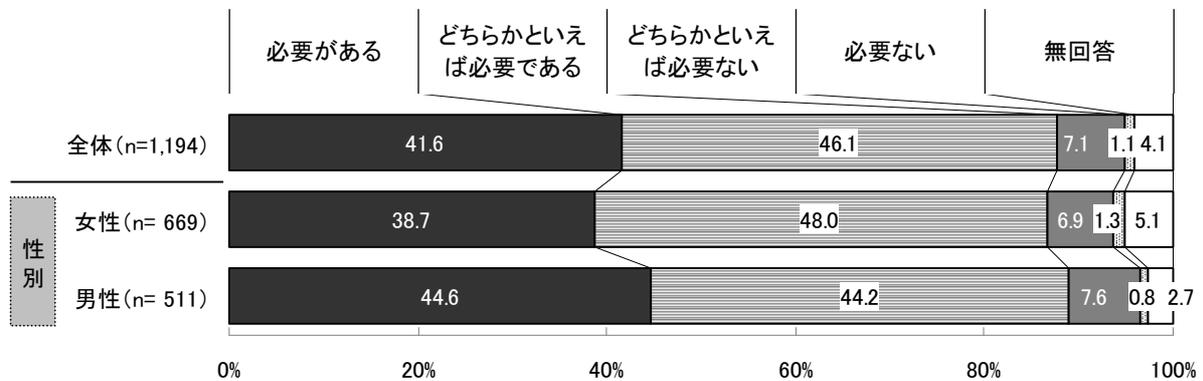
性別にみても、全体的な傾向とほぼ同様となっています。



②母親教室、乳幼児教室、PTA活動等、女性が多く集まる団体へ防災訓練・研修を行うこと

女性が多く集まる団体へ防災訓練・研修を行うことについては、「どちらかといえば必要である」が46.1%と最も高く、「必要がある」と合わせた『必要がある』が87.7%となっています。

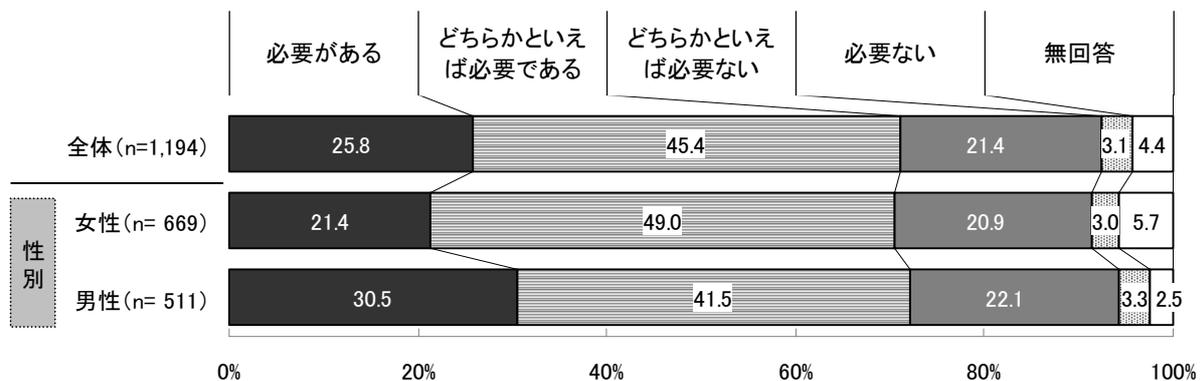
性別にみても、全体的な傾向とほぼ同様となっています。



③女性消防団員等の育成や役員への女性登用をすること

女性消防団員等の育成や役員への女性登用をすることについては、「どちらかといえば必要である」が45.4%と最も高く、「必要がある」と合わせた『必要がある』が71.2%となっています。

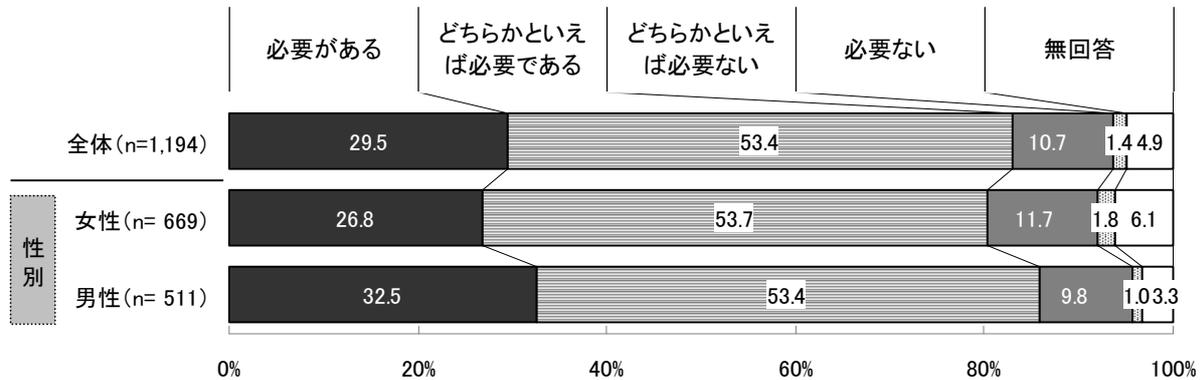
性別にみると、全体的な傾向とほぼ同様となっているものの、女性よりも男性で「必要がある」が高く、10ポイント弱上回っています。



④自治会等の自主防災組織に女性が積極的に参加するよう努めること

自治会等の自主防災組織に女性が積極的に参加するよう努めることについては、「どちらかといえば必要である」が 53.4%と最も高く、「必要がある」と合わせた『必要がある』が 82.9%となっています。

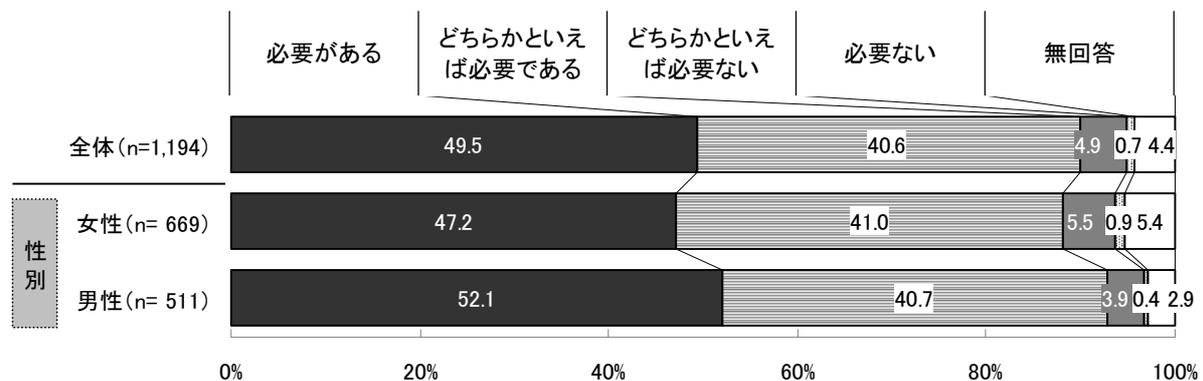
性別にみても、全体的な傾向とほぼ同様となっています。



⑤防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること

防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ることについては、「必要がある」が 49.5%と最も高く、「どちらかといえば必要である」と合わせた『必要がある』が 90.1%となっています。

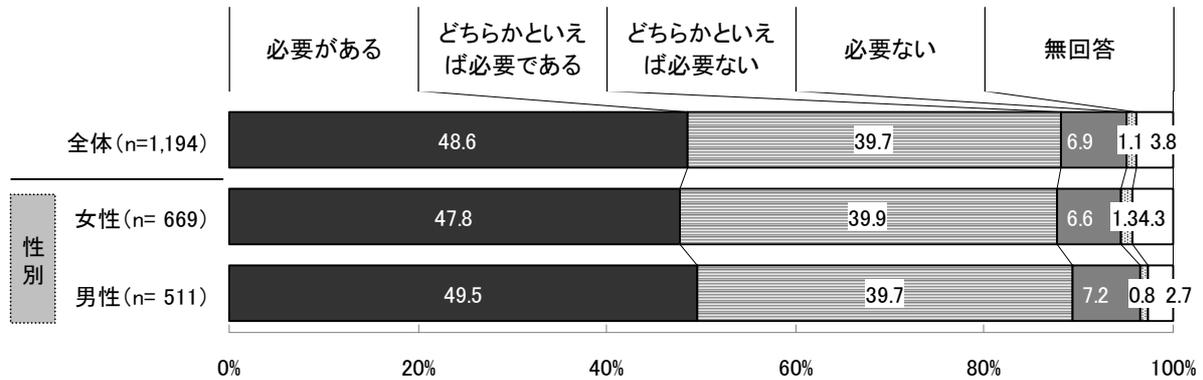
性別にみても、全体的な傾向とほぼ同様となっています。



⑥避難所運営の際に女性のリーダーやスタッフを配置すること

避難所運営の際に女性のリーダーやスタッフを配置することについては、「必要がある」が48.6%と最も高く、「どちらかといえば必要である」と合わせた『必要がある』が88.3%となっています。

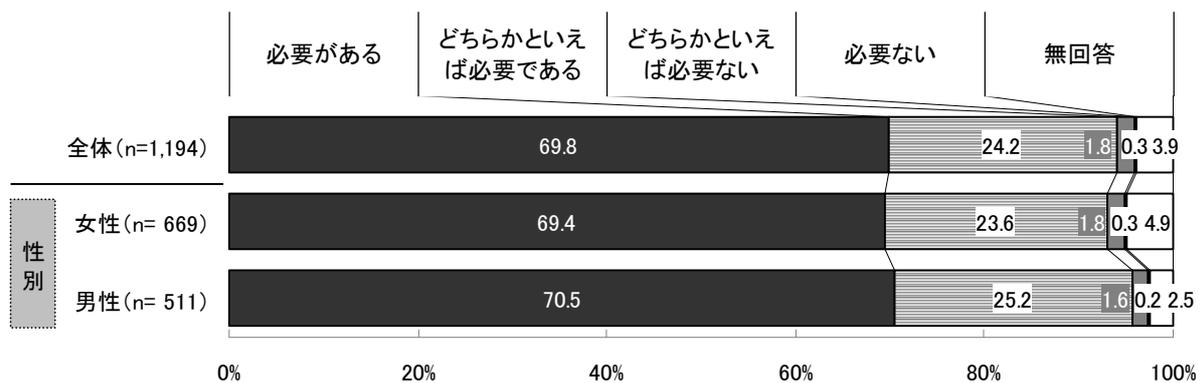
性別にみても、全体的な傾向とほぼ同様となっています。



⑦女性や乳幼児等に配慮した避難所機能の確保をすること

女性や乳幼児等に配慮した避難所機能の確保をすることについては、「必要がある」が69.8%と最も高く、「どちらかといえば必要である」と合わせた『必要がある』が94.0%となっています。

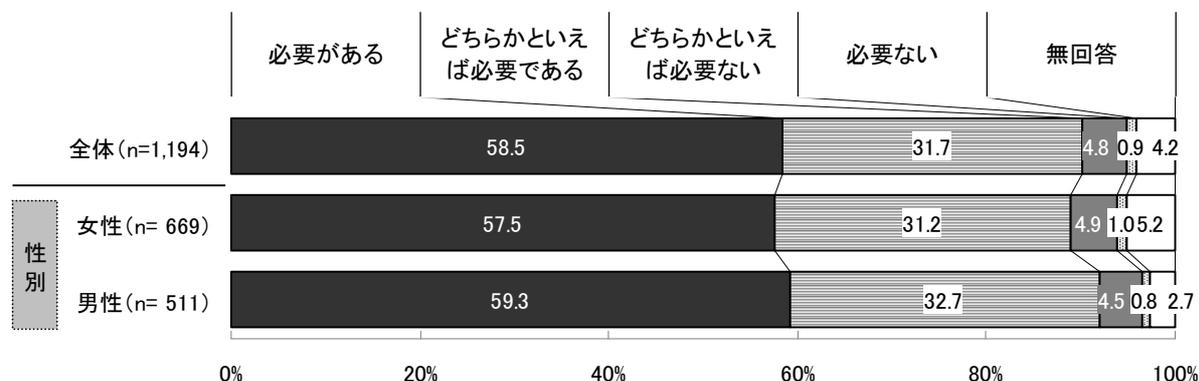
性別にみても、全体的な傾向とほぼ同様となっています。



⑧避難所などの運営マニュアルに男女別のニーズに配慮した視点を取り入れること

避難所などの運営マニュアルに男女別のニーズに配慮した視点を取り入れることについては、「必要がある」が58.5%と最も高く、「どちらかといえば必要である」と合わせた『必要がある』が90.2%となっています。

性別にみても、全体的な傾向とほぼ同様となっています。



①から⑧の各項目間を比較しやすいよう、下式のように各評価に点数を与え、各項目を計算しました。

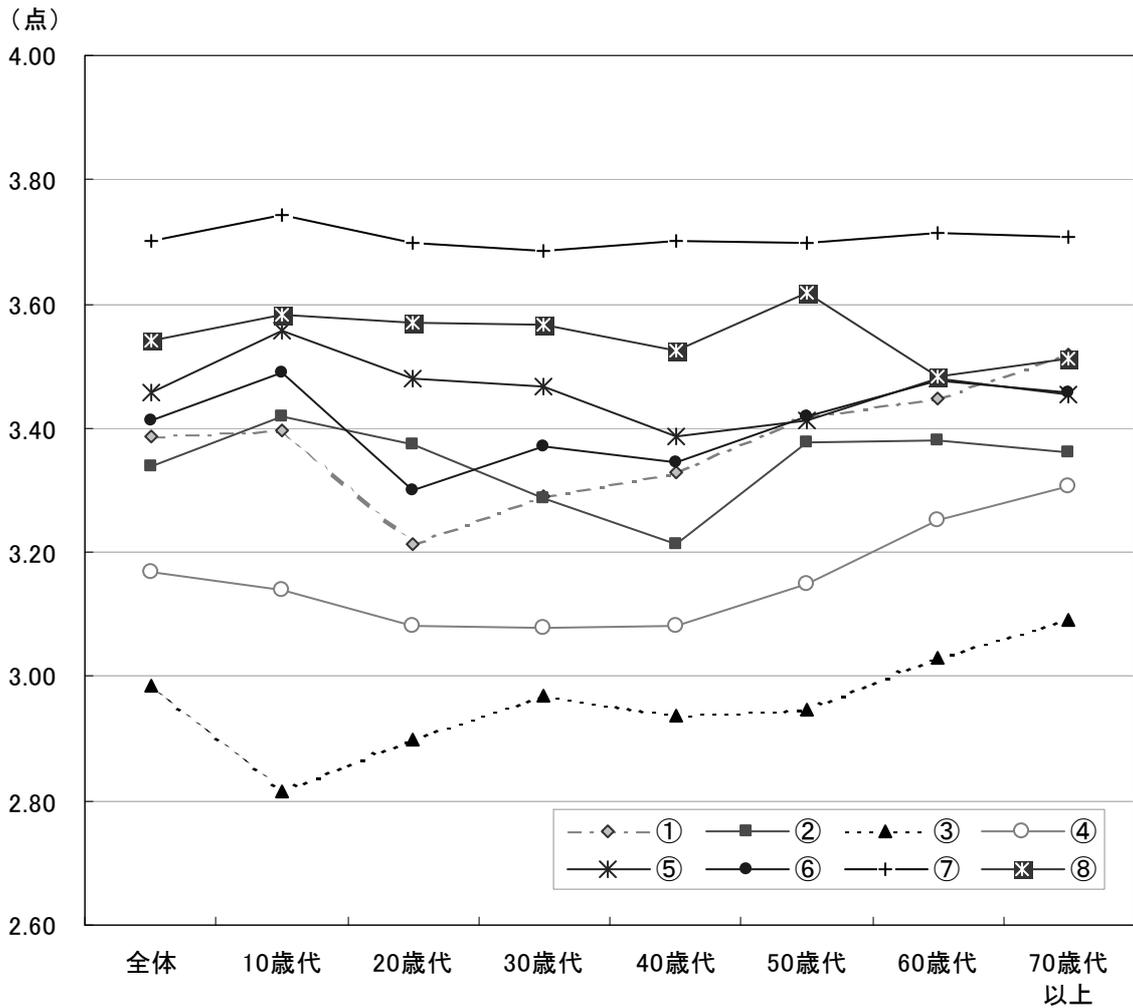
$$\text{平均点評価} = \frac{\text{「必要がある」の回答数} \times 4 \text{点} + \text{「どちらかといえば必要である」の回答数} \times 3 \text{点} + \text{「どちらかといえば必要ない」の回答数} \times 2 \text{点} + \text{「必要ない」の回答数} \times 1 \text{点}}{\text{実回答者数}}$$

この算出方法は4点満点評価で、評価点が高いほど「必要がある」ということになります。

年齢別

年齢別にみると、すべての年代で最も必要度が高い項目は“⑦女性や乳幼児等に配慮した避難所機能の確保をすること”、次いで“⑧避難所などの運営マニュアルに男女別のニーズに配慮した視点を取り入れること”となっています。

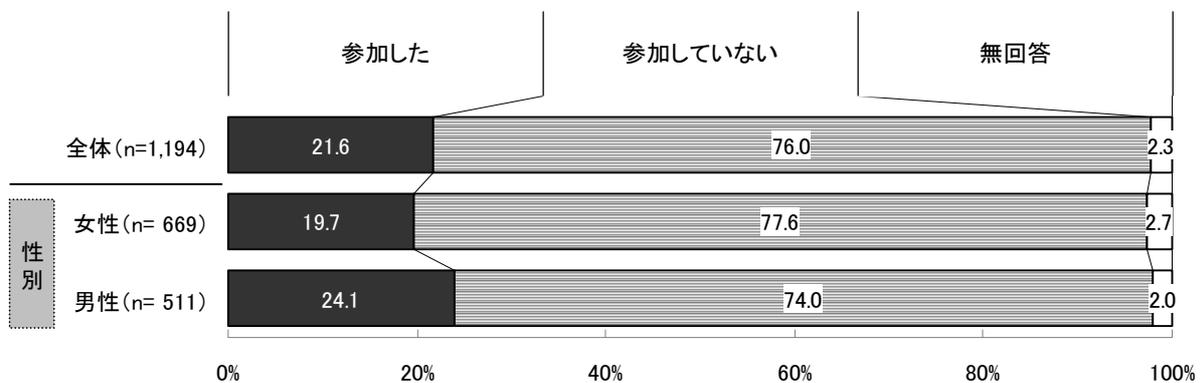
また、40歳代以上で年齢とともに必要度が上がる傾向がみられるのは、“①女性が、防災訓練や防災研修会へ積極的に参加するよう努めること”、“③女性消防団員等の育成や役員への女性登用をすること”、“④自治会等の自主防災組織に女性が積極的に参加するよう努めること”となっています。



問 27 あなたは、この1年間で、地域の防災訓練に参加しましたか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

地域の防災訓練への参加の有無については、「参加していない」が76.0%と、「参加した」を上回っています。

性別にみても、全体的な傾向とほぼ同様となっています。



7 平塚市の実施する男女共同参画推進事業について

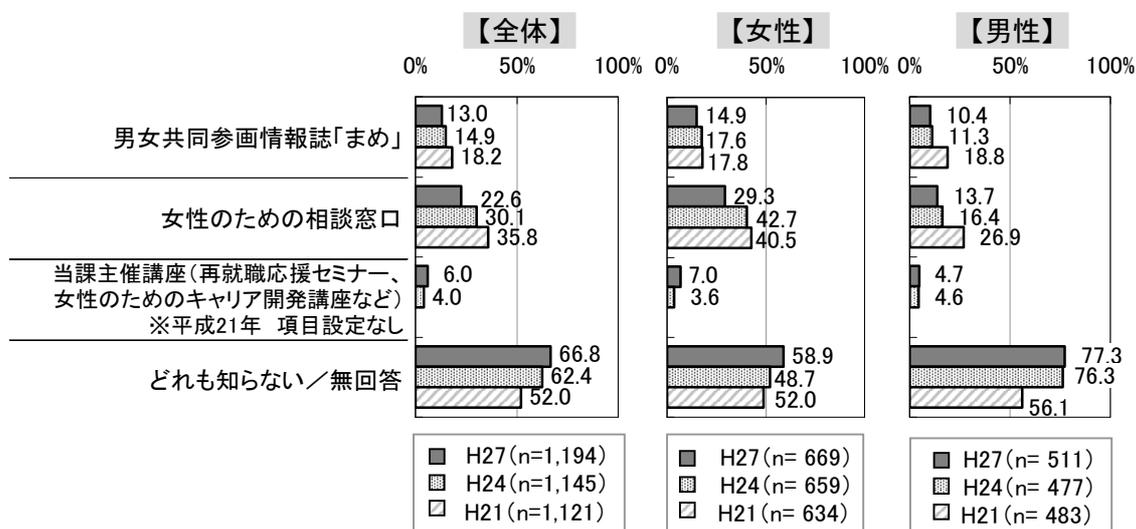
問 28 平塚市が実施する次の1～3の男女共同参画推進事業のうち、あなたが見たり聞いたりして知っているものについて、すべてを選び、番号に○をつけてください。

市の男女共同参画推進事業の認知については、全体及び男女すべての年代で「どれも知らない」が最も高く、次いで「女性のための相談窓口」となっています。また、「男女共同参画情報誌『まめ』」は、女性の50歳代と60歳代では1割半ばから2割強と、他の年代よりも高くなっています。

単位：%	n	男女共同参画情報誌「まめ」	女性のための相談窓口	当課主催講座(再就職応援セミナー、女性のためのキャリア開発講座など)	どれも知らない	無回答	
全体	1,194	13.0	22.6	6.0	62.6	4.2	
女性	女性全体	669	14.9	29.3	7.0	54.3	4.6
	10歳代	18	0.0	16.7	0.0	77.8	5.6
	20歳代	59	10.2	22.0	10.2	67.8	0.0
	30歳代	103	7.8	39.8	8.7	50.5	2.9
	40歳代	120	13.3	27.5	4.2	60.0	2.5
	50歳代	113	16.8	31.9	8.0	54.0	2.7
	60歳代	178	23.6	30.9	7.3	48.3	2.8
	70歳代以上	78	11.5	19.2	6.4	48.7	20.5
男性	男性全体	511	10.4	13.7	4.7	73.8	3.5
	10歳代	25	4.0	4.0	4.0	88.0	4.0
	20歳代	42	2.4	7.1	2.4	88.1	0.0
	30歳代	68	13.2	13.2	4.4	76.5	2.9
	40歳代	97	12.4	13.4	8.2	70.1	5.2
	50歳代	80	5.0	11.3	1.3	83.8	2.5
	60歳代	125	12.8	16.8	4.8	68.8	1.6
	70歳代以上	72	13.9	19.4	5.6	59.7	8.3

経年比較

平成21年及び平成24年に実施した調査と比較すると、全体及び男女いずれも「男女共同参画情報誌『まめ』」と「女性のための相談窓口」が減少しています。

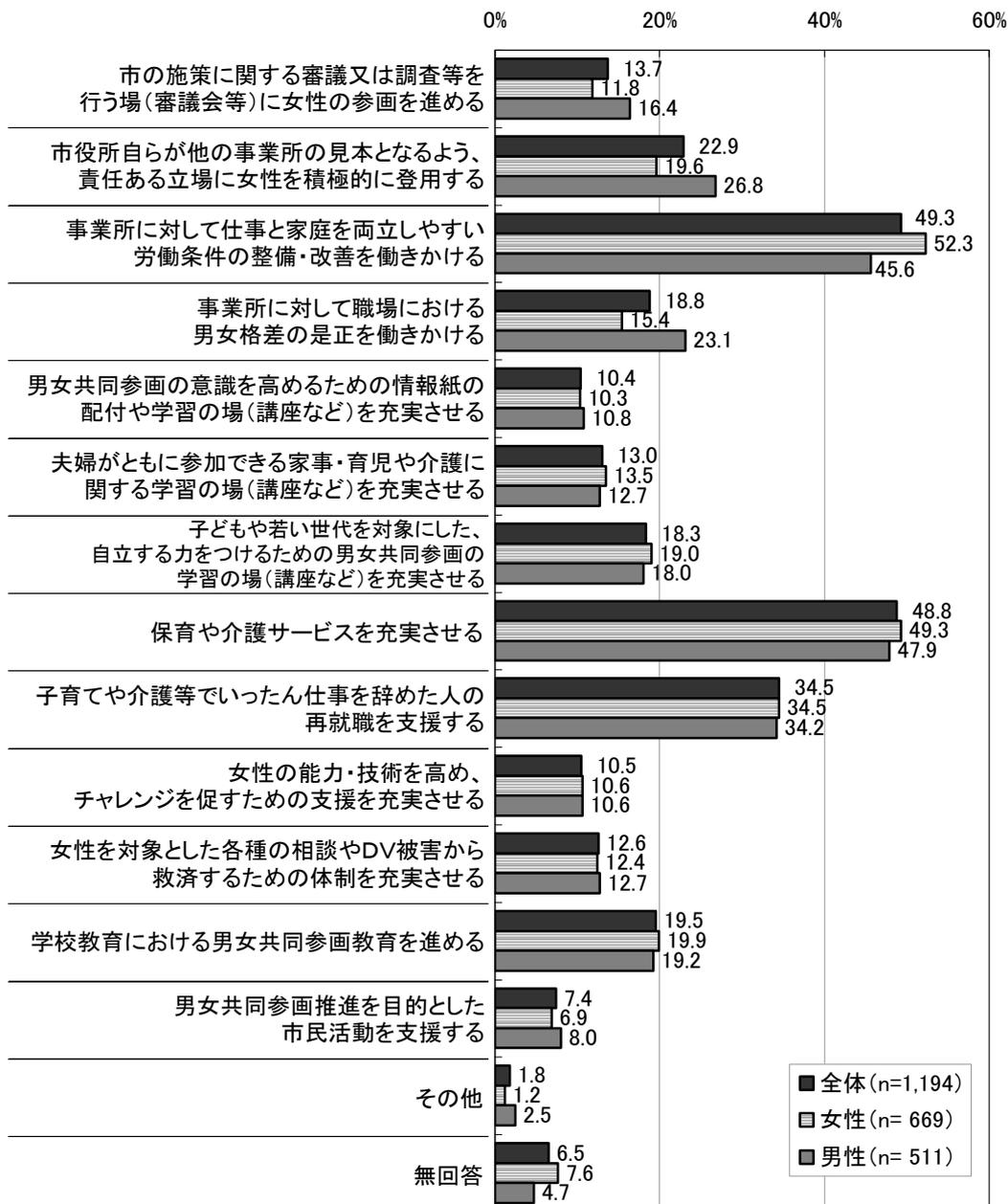


資料：平塚市「男女共同参画に関する市民意識調査」(平成21年度)
平塚市「男女共同参画に関する市民意識調査」(平成24年度)

問 29 性別にかかわらず自らの意思によって社会のあらゆる分野に参画し、個性と能力が発揮できる男女共同参画社会を実現していくために、あなたは平塚市が今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。優先すべきと考えるもの3つを選び、番号に○をつけてください。

男女共同参画社会実現に向け、市が取り組むべきことについては、「事業所に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける」が49.3%と最も高く、次いで「保育や介護サービスを充実させる」が48.8%、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が34.5%となっています。

性別にみても、全体的な傾向とほぼ同様となっています。



年齢別

年齢別にみると、すべての年代で「事業所に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける」又は「保育や介護サービスを充実させる」が第一位・第二位となっています。また、40歳代以上で「市の施策に関する審議又は調査等を行う場（審議会等）に女性の参画を進める」、50歳代以上で「男女共同参画の意識を高めるための情報紙の配付や学習の場（講座など）を充実させる」が、他の年代よりもやや高くなっています。

単位：%	n	市の施策に関する審議又は調査等を行う場（審議会等）に女性の参画を進める	市役所自らが他の事業所の見本となるよう、責任ある立場に女性を積極的に登用する	事業所に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける	事業所に対して職場における男女格差の是正を働きかける	男女共同参画の意識を高めるための情報紙の配付や学習の場（講座など）を充実させる	夫婦がともに参加できる家事・育児や介護に関する学習の場（講座など）を充実させる	子どもや若い世代を対象にした、自立する力をつけるための男女共同参画の学習の場（講座など）を充実させる	
全体	1,194	13.7	22.9	49.3	18.8	10.4	13.0	18.3	
年齢別	10歳代	43	9.3	41.9	46.5	30.2	7.0	20.9	25.6
	20歳代	101	8.9	15.8	58.4	20.8	2.0	16.8	21.8
	30歳代	172	8.1	17.4	57.6	19.8	7.0	14.0	16.3
	40歳代	218	14.2	22.9	55.0	21.1	8.7	12.4	16.1
	50歳代	193	18.1	21.8	44.6	17.6	11.9	14.0	16.1
	60歳代	307	13.4	25.1	48.9	14.3	15.0	11.7	20.2
	70歳代以上	153	19.0	25.5	34.0	19.0	12.4	9.2	19.6

単位：%	n	保育や介護サービスを充実させる	子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	女性の能力・技術を高め、チャレンジを促すための支援を充実させる	女性を対象とした各種の相談やDV被害から救済するための体制を充実させる	学校教育における男女共同参画教育を進める	男女共同参画推進を目的とした市民活動を支援する	その他	
全体	1,194	48.8	34.5	10.5	12.6	19.5	7.4	1.8	
年齢別	10歳代	43	44.2	25.6	7.0	18.6	18.6	4.7	4.7
	20歳代	101	52.5	36.6	10.9	12.9	19.8	3.0	1.0
	30歳代	172	58.7	41.9	11.0	14.0	12.8	4.7	3.5
	40歳代	218	49.5	36.2	11.5	15.6	22.0	6.9	0.9
	50歳代	193	53.4	30.6	10.9	14.5	17.1	5.7	1.6
	60歳代	307	46.9	38.8	11.1	10.1	20.8	8.1	1.6
	70歳代以上	153	32.7	20.3	7.8	7.2	24.2	15.7	1.3

単位：%	n	無回答	
全体	1,194	6.5	
年齢別	10歳代	43	4.7
	20歳代	101	4.0
	30歳代	172	5.2
	40歳代	218	4.6
	50歳代	193	6.7
	60歳代	307	4.6
	70歳代以上	153	17.0

8 自由回答

問 30 最後に、男女共同参画についてのご意見やご要望があれば、自由にご記入ください。

1. 男女共同参画全般（共生社会に向けて）について	性別	年齢
みんなで協力できるしっかりとしたまちづくりが新しくなり変われる部分があればスタートしてけばいいと思います！！	女性	20 歳代
このアンケートの書き方にも男・女を区切っている部分がある。女も男も体が違うのだから使える・できるところが違うのだから何もかも平等である必要はないが、それぞれできるところで力を発揮し、それがプラスマイナスゼロになれば良いと思う。	女性	20 歳代
女性ばかり重視してしまうと今度は男性が弱い立場に立たされかねないので、どちらの権利も配慮することの必要性をもっと訴えていくべきだと思います。	女性	20 歳代
すべてを平等には思いませんが、男性は男性、女性は女性の良いところを伸ばしていける社会になっていけばよいと思います。	女性	20 歳代
人それぞれに「向き」「不向き」があるので強引に男女の両立を進めることはないと思う。できるのにやらないというのはゆるせないと思う。	男性	20 歳代
女性の就業、出世率が数値的に上がったどうかのみを重視する愚かなことは止めてほしいです。平等は男女比が 1:1 になることと必ずしも等しいわけではないです。	男性	20 歳代
最近はお男の方が差別されていると思うのになぜメディア等で取り上げられないのでしょうか？	男性	20 歳代
性的視点のみで物事の判断をすることは今後、止めるべきかと思いますが、体質や体格差等、女性、男性特有の性質も理解をするべきかと思います。	女性	30 歳代
男女ともに自立ができてこそその話だと思います。自立した女性が少なく、又、女性が働く事に対する意識が年配者の中で低いと感じる事が多く、離婚にもつながるのだと思います。理想論ばかりで現実的になるには難しいと思っています。	女性	30 歳代
結局法律で決めても社会や家族の協力が得られなければ難しい問題なのでは。収入によって解決する事でもあるのかなど。	女性	30 歳代
女性が社会に出て育児や介護を行うというのは現実的ではないと感じます。仕事も家事も全て男女同じ様に関わるのではなく働く人の給料が上がり、家事、育児にどちらかが専念できるような環境作りが大切なのではないかと思います。	女性	30 歳代
男性優位社会がまだ続いている様子です。女性も男性と同じ地位に立てる社会を望みます。	女性	30 歳代
男女共同参画と男女平等は同じ意味なのでしょう。今ひとつわかりにくいです。	男性	30 歳代
能力がある人が上にあがれる仕組み作りが必要です。性別は関係ないはず。 (根本的に間違っている)	男性	30 歳代
核家族は子供の面倒をみる負担が大きすぎる。3 世代で住みやすく子供の教育が投資となっており、それを上回る金銭的メリットがなければ、女性が社会進出するメリットを感じにくいと思います。女性の割合を決めるだけでは逆差別化になりかねない。男か女かという考えがそもそもおかしい。	男性	30 歳代
パフォーマンスで女性を役職につけるようなことがないように、女性だけではなく、能力があるからという基準で男性でも女性でも権利を持てるようにしてほしい。差別をなくすことで逆に女性が優位な立場に立ちすぎないようにしてほしい。	男性	30 歳代
男性と女性は根本的に違います。なんでも同じにすれば平等とはいえ、かえって不平等となる事も多いのではないかと思います。	女性	40 歳代
女性の参画のみ強調されている様に思われます。考え方、行動には個人差があり「女性」と強調するよりは、能力や環境に応じた社会を整備すべきと考えます。女性として適応できないのであれば、それも個性だと考えます。そこに力をそそぐ必要はないと思います。	女性	40 歳代
男女に関係なく、やりたい人（やる気のある人）がやった方がすべてうまくいくと思います。向き不向きもあると思いますし…。	女性	40 歳代

1. 男女共同参画全般（共生社会に向けて）について【続き】	性別	年齢
ジェンダー論が台頭してきてから、生きづらく（仕事しづらくなった）そもそも身体能力の差があり、生理現象もある中で平等を叫ぶならば重たい荷物も女性は1人で運び、生理前後の気持ちの落ち込みなどあり得なくなり、手を貸す事＝ジェンダー論に反することになる。それを良しと思う女性もいれば良しとしない女性もいるはず。	男性	40 歳代
自分の中でも理想と現実の差に気づかされ回答の難しいアンケートでした。時間はかかりますが、ある程度は強制力を駆使して進めなければ実現していかないテーマだと思います。	男性	40 歳代
社会意識は少しずつ変化してきていると思います。女性の立場、権利能力を促進し確立していくことはとても大事かと思えます。今月、沢山のやるべきことがあります。（仕事、家庭、育児、地域活動、教育など）有りすぎます。一人の役割が多すぎると思いますが、今月これをやらないと地域から孤立していきます。（権利主張の乱立で）難しい世の中になりました。もっとシンプルな社会へ戻ればと願うばかりです。	男性	40 歳代
男女共同参画推進については今の現状を見ていても、まだ 10%にも満たない気がします。もっと女性が「シングルマザー」とか「生活苦」など、もっと良くしてもらえたら良いと思います。	女性	50 歳代
男女雇用機会均等法の下、総合職として社会人になったにも関わらず、結婚を機に退職し、その後育児家事介護を経験しました。途中、仕事をしたいと思うこともありました。特に子供が小さい間は、主人に反対され仕事に復帰する事ができませんでした。ある程度、家庭状況が整うと仕事することに反対はされなくなったものの、経験値がなく、体力も無く、自分が思うような仕事に就くことが出来ません。育児に専念してきたことに後悔はありませんが、一人の人間として今の自分の社会から認められ方には、納得できない部分があります。誰がどのような立場であってもお互いを尊重できる社会であれば人間として納得できる人生を送ることができると思えます。「他人に優しい社会」こそが、よりよい男女共同参画やワークライフバランスを実現できると思えます。	女性	50 歳代
とりもなおさず夫婦円満（互いを尊重し会話があり）家族が心身共に健康である事がまず第一。	女性	50 歳代
なんか安易な分類に賛同できなくて…難しかったです。最近女性が男女にモラハラをしている事もあったりビックリです。男性、女性というよりも大切なのはその人の人間性なのではないでしょうか。せつかく生まれてきたのですから協力しながら楽しく生きたいですね。	女性	50 歳代
男女共同参画というネーミングは難しいのもっと親しみやすい副題をつけられるといいかと思えます。	女性	50 歳代
今回初めて男女共同参画社会という言葉を知りました。用語説明で人間として社会に生きていく為の基本だと思います。平塚市が実現してくれる事を望みます。	女性	50 歳代
職場における男女格差、世間での男女格差がかなりあるのに夢物語に思える。それができるのは公務員と一部の人のだけではないか？と思う。	女性	50 歳代
男女は平等であるべきと考えますが、男性にできる事、女性にできる事があると思うので、色々な方向で考えなければならないと考えています。	女性	50 歳代
男性と女性では体力面やその他の面でも違いがあるので、すべて同じ仕事を平等でさせるのは、かえって平等ではないと思います。例えばCAや看護師などの仕事は女性の方がより配慮ができるだろうし、力仕事を女性にさせるのは無理があると思います。子育てにしても男性は母乳を与えることもできないし、男女共同参画とはいえ、すべて平等にやるのではなく、臨機応変に対応していくのが大事だと思います。	男性	50 歳代
男女共同参画といっても本質はそう簡単にはいかない。男女で能力、体力が異なり相互を補うために存在していると私には思える。なるべく女性の参加機会を増やすという方針は旧来の社会通念の脱却を良しとする前提に立っている。ただし、前提と各人の意識の差は大きく、道のりは険しいと思う。（積極的な反対はないが現実には消極的）	男性	50 歳代
個人差があるので個人や夫婦間で相談し決めるべきで政府が強制する問題ではない。行政やメディアが騒ぎすぎ。専業主婦でいたい人も他人の目を気にして外にも出にくくなる人もいる事を認識するべきである！	男性	50 歳代
あらゆる仕事、あらゆる役職に男女共同参画を進めるのではなく、男女どちらの特性に合ったものはどちらかだけであってもいいのではと思います。	男性	50 歳代

1. 男女共同参画全般（共生社会に向けて）について【続き】	性別	年齢
子育て、育児、教育がすべての子供たち受けることが可能な男女共同社会を作る	男性	50 歳代
男女共同参加というより、能力のある人がその人にふさわしい立場をあたえられるような社会を作るべき。人によっては（女性）細かすぎて男性の意見を聞かない人が管理職になると部下は苦勞するばかり…女性の総理大臣を誕生させよ。	男性	50 歳代
まだまだ社会、家庭、地域での男性優位が目立つが少しずつ良くなってる気がする。	女性	60 歳代
男女共同参画が叫ばれ始めてから社会的にも個人的にも理解度、考え方が随分進歩してきたと思います。社会の流れと共に地道な活動をなさっている皆様の努力も大きいです。特性が違うので男女全く共同には思いませんが少しでも差が縮まっていく事を願います。	女性	60 歳代
女性が活躍出来る社会は大歓迎です。が、女性特有のものとのとらえ方、自分本位、視野が狭い等があるので余り過大評価はしない方がいいかも。	女性	60 歳代
世の中の状況も変革の時代です。男と女で単純に分けられるとは思わないので同性婚もできているし、その区分けが難しいと思います。	女性	60 歳代
「男女共同参画」という日本語が理解できません。欧米でもそう言うのでしょうか？	女性	60 歳代
女性は子供を産み、生活するのは自然な事。男性は女性にやさしくして尊重するべきと思う。	女性	60 歳代
今回、アンケートで初めて男女共同参画推進事業について知りました。（名前を聞いたことぐらいでした）今後は意識的に関心を持ちたいと思いました。	女性	60 歳代
今回このアンケートによって自分も色々勉強になる事がありこれからの社会において特に女性の能力や個性を重んじてあらゆる分野において活躍して行く事は大変大切な事だと思います。先月会社を退職しましたがこれからも平塚市民として発展のため努力し頑張っていきたいと思っています。	女性	60 歳代
男女の間の意識、距離が少しでも短くなればと思います。またこれからは若い女性に期待します！	女性	60 歳代
それぞれの能力を活かした社会になれば良いと思う（性別）	女性	60 歳代
男女～参加は心に余裕、経済的に豊か、そして健康でなければ男女共同参画の土台は有りえない。男女～参加と同時に施策をやって行かなければと思っています。	男性	60 歳代
日々の中で共同すべきであり公が立入るものでない。	男性	60 歳代
この制度が何なのかを理解していないのが現状で、誰が、いつまでに、何を、どうするのかという見識を持っていない。言葉の中でばく然とはわかるが 69 歳の今その必要性を見い出せない。	男性	60 歳代
女性を受け入れる側の問題がほとんどだと思う。もうそろそろ平等になってもいいような気がします。そこはやはり受け入れ側の方が考え方、男性の働き方が改善されていないのではないのでしょうか。	男性	60 歳代
男女共同参画推進事業などの活動をしなくても同様と思われる世の中になることこそ理想です。	女性	70 歳代以上
3,000 人の中の 1 人と思うと真剣に記入しました。高齢女性にあてはまらない箇所もあったように思いました。男女共同参画推進をすることは平和へのかけはし、弱い立場の人が泣き悲しむ戦争はシナイ、サセナイを中心にした活動を願っています。世の中平和でなければ男女共同参画運動は生まれませんものね	女性	70 歳代以上
この間にお言葉を返すようですが私にとって今の男女の気持ちがわかりません。私は今 72 歳ですが昔は結婚したら仕事をやめ、家庭を守ると云われて来ましたのでこの間には余り答えられません。でも今の男女は家庭を持って仕事をして、子育てをする、それでいいじゃありませんか。	女性	70 歳代以上
男女平等であるから当然必要である。	男性	70 歳代以上
男女共同参画推進は行政の強い推進により実現します。男女が均しく活力により、国家が発揚し経済が発展平和な人間社会を創造します。	男性	70 歳代以上

2. 男女共同参画社会に向けた意識改革について	性別	年齢
女性は結婚し、子どもを産むことが幸せのようにいいますが全ての人にあてはまる訳ではないと思います。そこら辺の意識改革が必要だと思います。(男性が独身でもあまり気にとめられませんが、女性の場合だと違うと思うのです)	女性	10 歳代
ご父兄の皆様…などの書き出しがよくありますが男尊女卑っぽくて嫌ですね。これはどうしようもないことですが…	女性	10 歳代
男性が持つ偏見、女性が持つ偏見、社会に対する偏見を本当は「こうなんだ」という事を市をはじめに各地域に知ってもらう事が重要だと思います。	男性	10 歳代
まだ根強い男性優位の考えがある。今までの状況をすぐに覆すことはできにくいと思われるので、若い世代に期待したい。	女性	20 歳代
講座の場で参加を待っているのではなく市役所又は市議会が積極的に行動し中学校や高校、職場に足を運び講座をひらき意識を高める必要があると思います。ただ単に講座をひらいて参加を待っているだけでは参加する人々は限られ全体への意識を高める事は不可能に感じます。	男性	20 歳代
世代別に男女の話し合いの場があると理解が深められると思いますので検討よろしくをお願いします。	男性	20 歳代
世代間の考えに格差がある。若い人より年配の方の中にはまだ男尊女卑の考えをしている方もいたり…そういう人達とかかわる事は嫌だ！	女性	40 歳代
人はすぐには変わらない、変えられないと思うので若い世代からの教育が大事だと思います。時間がかかるかとかけるべきだと思います。	女性	40 歳代
幼稚園、小学校の役員を経験して、女性自身がプライドや自分の地位などを守るためか、人をランク付けしたり見下しているような態度をとる人が多いと思う。女性自身の意識改革などしないとダメだと思う	女性	40 歳代
男女同権は良いが、同等は難しいと思う。私はレディースディなども差別と考えている。	男性	40 歳代
男性が仕事を優先し、子育てや地域活動に参画しない傾向や、女性が積極的に責任ある立場に就こうとしない(特に職場で)傾向を感じるので、双方の意識が改善するような社会環境を整備する必要があると思います。	男性	40 歳代
男だから、女だからという言葉はあまり聞かなくなりました。性別ではなく、同じ人間として見ることができればと思います。	女性	50 歳代
女尊は男女平等の意識を低下させる、家でも責任を持って幸せを考える女性になりたい。子供と女性を並列な弱者に書くことが差別的な思考と思う。夫や子を守る女(経済的にも、家事も)だから地域のこと、国のこと、家庭のこと、会社のこと、幸せ、平和を考えられるでしょう。	女性	50 歳代
女性の意識はかなり変化していると思う。男性の意識がもっと時代にあわせて変れるようにすべきである。	女性	50 歳代
年配者は今だに男が一番だと思っている。これがなくならなければ何も変わらない。地域にはどこも老人が多いからそして力があるが？	女性	50 歳代
これからは協力生活をしていかねばそんな時代ではないかと思います。結婚しない結婚できないではなく、共に生きていかねば駄目だと思うね！！	女性	60 歳代
「三つ子の魂百までも」幼児教育の中に、今回のアンケートの男女に対してその他諸々が培われると思います。人間性の基本となるメンタル教育と環境に力を入れていただければ、おのずと弱者に対する思いやり、DVも防げるのではないのでしょうか。	女性	60 歳代
60代の私と20代30代の娘達との考え方のギャップがあり、若い世代の家庭は育児も家事も分担して行っている様です。家庭生活ではそれが当たり前になりつつあるのに、企業内が男女平等にならないのは年配の上層部の考えであり年配の方々が考えを改めなければと思います。	女性	60 歳代
調査の結果を有効に活用してほしい。結果内容は不明ではあるが、まだまだ女性が十分に活躍できていない。女性自身の意識改革も必要ではあるが、併せて男性や年配の女性は仕事以外(子育て・家事・介護)を女性が行うことが当然と思い発言・行動している。そのような方々の意識改革を促す施策の企画・実行を希望します。	女性	60 歳代
子供の内からの男女の格差をなくす教育をして欲しい。	女性	60 歳代
とにかく、啓発の機会を増やす。	男性	60 歳代
教育の充実。	男性	60 歳代

2. 男女共同参画社会に向けた意識改革について【続き】	性別	年齢
男女共同参画とはどういうものなのかについて各地区公民館などでわかりやすく説明する機会等があると、もっとわかりやすいと思います。用語が難しすぎます。わかりやすくしてもらいたい。	女性	70歳代以上
女子会、女子アナ、女性…といった表現はやめること。初の女性…も同様に考えるべきで、メディアの表現には差別的なものが多いと考えられる。	男性	70歳代以上
その家庭の職業、年金暮らし等によって、女性の共同参画は画一的にはいかない。女性のやる気と自覚は環境を整える事が不可決。	男性	70歳代以上

3. 女性の参画について	性別	年齢
女性の社会への共同参画は必ずしも何か役職につくということではなく、女性にしかできない、女性が得意とする業務の位置づけをもっと上げるべき。「リーダーシップを取れる人＝優れた人」ではないと思う。男性と同じ業務や求められることが同じで女性がついていけないはずがない。例えば、泊まりの出張など、働く全ての女性が応じられる訳がない。いつもいつも残業できる訳がない。男性にそれができるのは、家を守っている女性がいるから、ということをもっと分かるべき。優慮されるべき。同じ土俵で比較することが間違い。もっと業務を細分化すれば皆が早く帰り、家庭での時間も多く持て、雇用も促進されるのでは？1人2人急に休んでも困らないはず。	女性	30歳代
中小企業はまだまだ休暇（有給）すら取りづらい状態があります。私は女性の社会進出はあまり好ましくないと思います。結婚したら仕事を辞めて若い人に席を譲るべきです。だから新卒の人が正社員になれないのだと思います。	女性	30歳代
男女格差をなくすこと自体は大切なこと。でも身体能力的に女性には困難なこともある。災害においては特に男女差は大きい。それぞれ得意な能力を伸ばすこと、互いの立場を尊重し協力し合えるシステムが望ましい。単に女性の活躍の場を増やすだけでは不具合が生じる。	男性	30歳代
国が男女共同参画を推進するからといって、税の優遇などの対策のために能力が達していなかったり、家庭や職場の協力なく、負担の大きな役職に女性を登用すれば、結局辞めざるを得ない状況になるリスクがある。そうした場合、その個人はもちろん、一般的なイメージとして”だから女はダメ”とレッテルを貼られる事になる。性別で差別される事は避けるべきだが、整備されなければならない事は多くあると思います。	女性	40歳代
男性からの差別的な扱いは論外として、女性自身が上昇志向を持ち切れないことが男女共に歯止めをかけている原因に思える。キャリアアップは大変な試練なので、女性に覚悟を持ってほしい。	男性	40歳代
性差はあるので、それぞれの適性に応じて参加する機会を増やすのは良いが、今までないところに無理に割り込んでいく必要もないと思う。（ドボジョやトラガールなど）	男性	40歳代
女性側からの視点にとらわれず、どうしたら男性も参画が容易になるかという視点にも立って進めてもらいたい。	男性	40歳代
女性の登用は社会を発展させる為に必要と思う。しかし、誰でもというわけでなく、女性でもバランスのとれた人がそれなりのポジションにつける環境をつくる事も大切。と思います。	男性	40歳代
推進するのはよいが、無理に押し進めることはないと思います。女性個人がそういう気持ちを持って初めて成立する事であり、あえて女性を登用させる！！制度的なものはいらないと思う。力量（キャパ）が見合う女性が必然的に登用される流れで。	女性	50歳代
男女平等に社会進出できる事は良い事だと思います。その反面仕事に充実を求める女性は結婚をしなくなると思います。メリットがないと考える女性が出て来るのではないのでしょうか？	女性	60歳代
要は女性個人の能力、知識、経験のレベルが女性参画のカギになると思う。	男性	60歳代
少子高齢化に伴い、女性の能力活用は必要。	男性	60歳代
今まで、男性は会社女性は家庭に縛られ過ぎていた感がありましたが、男性も家事や育児にもっと参加できる環境になったと同時に女性ももっと社会に貢献できる機会が多くなっている昨今、どんどん社会で活躍できる場が多くなれば世の中もっと明るくなると思います。	男性	70歳代以上
ますます進む少子高齢化社会に女性の社会参加を望みます。	男性	70歳代以上

4. 職業観やワーク・ライフ・バランスについて	性別	年齢
女性が育児休業を取得する際の、男性の視線等が冷たいと思う。特に50代、60代の男性上司をもつ20、30代女性は非常に肩身の狭い思いをしているように感じる。	女性	20歳代
男性が遅くまで働いていることで女性が早く帰宅し子育てや家事をやらなければいけなかったり、休日も出勤しなければいけないことで家族で過ごす時間が減っていることが問題だと思う。もっと早く帰ったりもっと休みを自由にとれるようにして家庭への関心を向けられるようにすれば男女とも考え向き合う時間が増えると思う。	女性	20歳代
やみくもに女性を地位や責任のある立場に登用するのは良くない。能力に応じた配置、登用がなされる仕組みの構築を行うことが大切だと考える。	男性	20歳代
育児・介護のサポートと共に、アフターマティブアクションが必要に思います。女性の管理職への登用など、現況を変更することでおのずと周囲の意識も変わってくると思います。	男性	20歳代
子どもを一緒に連れていっても、大丈夫な職が増えると働きやすくなるのでは？	女性	30歳代
夫の会社は、夫本人が体調不良でも休ませてくれないような状態なので、子の病気で休むことなど不可能に近い。なので、共働きでも必ず妻が休みを取り、子の面倒を看ている。事業所に対して、そういう状況を改善するよう働きかけてほしい。	女性	30歳代
男性が家庭の事に参加するためには職場の理解が必要です。個人の意思があってもまわりの協力なくしては参加できません。	女性	30歳代
女性が仕事をしなければならぬほど男性の賃金が少ないのであれば男性はもっと家庭や子育てに協力すべき。短時間労働でも正規雇用と認められるような待遇で働けるような環境で働きたい。正規と非正規では全然待遇が変わる。	女性	30歳代
子供が小さいうちは（0歳～5歳くらい）できれば子育てに専念したい。（妊婦も含め）と思っている母親はたくさんいます。（実際に私のまわりもほとんどが専業主婦）ただ、子供が育ってからの再就職には不安があるのが現状です。（再就職できるか？雇用してくれる会社はあるのか？など）社会全体でもっと積極手に子育て終了ママの雇用にも力を入れてほしいです。	女性	30歳代
「男女平等」＝「男社会でも女性が活躍出来る」ことと、とらえられていると感じることがあるが、それこそ男社会は素晴らしいという差別的考えのように感じる。家事を行う、子供を産むことを会社で仕事をすると同じ様に価値あることだと考えられないことが問題だと思う。また最近では若い女性が多い職場で働いていたが妊娠中の女性、子供をもつ女性への配慮がいきすぎていて不公平であった。妊娠してつわりがひどいからと突如会社に来なくなり（妊娠したことの説明も休むことの謝罪もなし）3ヶ月休み続け会社をそのまま辞めたり子供がいて時短勤務だからと雑な仕事をしたりされ、その分周囲に負担がかかって非常に迷惑であった。会社はあくまで労働の場なので通常の業務が出来ないのであればその分の負担（休むことへの謝罪、時短の分給与を減らす等）は本人に求めるべきであるし、その上で本人に働く意志があるのであれば、会社は雇用し続けるべきだと思う。	女性	30歳代
たぶん、仕事してる人はムリ。一日参加すれば給料が減るからムリ。	女性	30歳代
職場でもっと有給の連休をとりやすい改善を働きかけてほしい。有給は権利であるはずなのに、6月に連休でとったので却下されることが職場であった。	女性	30歳代
役職、公職等は性別に関係なく能力による物で有って欲しい。現状では%で登用、機会が増え意識が変わる事が（男女共）期待されいい事とは思うが、%ありきで能力無視での登用とならない様願いたい。現状はそこまでしないと難しい状況に近い部分が有るからと思いますが、どちらとも言えない間には答えていません。こういう質問は私の中では有りえません。	男性	30歳代
少子化対策の強化を行い、女性の雇用と職場での保育という事に力を入れてほしい。男女雇用機会均等法が出来たことは良いが、それにより子供をつくらぬもしくは結婚しない男女が増加している事は事実だと考える。	男性	30歳代
本人の意志や企業の努力による事が多い。	男性	30歳代
今のサラリーマンは家庭で何かあっても簡単には休めない！結果、主婦（妻）が家の事をやらなくてはならない。震災などあっても会社に行こうとするサラリーマンがおかしい…。社会が変な気がする。	女性	40歳代

4. 職業観やワーク・ライフ・バランスについて【続き】	性別	年齢
男女共同参画という事とずれてしまっていますが、男性、女性を問わず、自分の損、得や権利ばかりが先に出て、仕事自体を本当に一生懸命する事がなんだかこの次になっている様でこの先の世が心配です。男性が家事育児を手伝ってくれたら妻としては助かりますが…そんな一時的な事ではなく、一生を通してやりがいを持って仕事に向きあえる人がもっと増えたら良いと思います。	女性	40 歳代
市役所などの公務員は育休や時間休があつたりと恵まれていてうらやましい。一般企業では中々制度があつても利用しにくいのが現状。（罰則もないし）結局就職先の対応の良し悪しで決まってしまう。	女性	40 歳代
女性の立場を向上していくのも大切ですが男性社会の中で仕事以外の事を優先させづらい現状や休めない現状をまず変えていただけないと仕事優先のままでも何かかわらない。	女性	40 歳代
女性ばかり育児活動をしている。時短で早く帰るが仕事が残ったり帰宅後に話が変わったりする。次の日内容が変わってついていくのが大変だったりする。とかく、女性が働くのは大変。家事も仕事でもお金はでない。家事は家政婦感が強い。	女性	40 歳代
会社においては、能力も関係してくるので、口をはさむ問題でないと思う。優秀なら私の会社では上がっていく。能力の無い人を女性だからと言って上げる意味が分からない。	男性	40 歳代
基本的に男女平等を尊重しますが、子供は女性にしか産めないという事実がくつがえせません。今の職場がそれを前提に構築されたものだとすれば、無理に女性を表舞台に引きずり出すことについては、よく考えねばならないと思います。	男性	40 歳代
男性も女性も仕事が時間通り終了し、家族との時間がもっともっと増えればと思います。	女性	50 歳代
私どもの世代はどうしても男性優位の社会的な構図がありましたが、今は男女ともに働き続ける時代だと思うので、やはり家事・育児・介護もお互いに協力して助け合っていく時代の流れであると思います。男女ともに理解して、相手に思いやりを持って、健康的に生きていけば平塚市全体が安心して暮らしていけるいい街になると思います。	女性	50 歳代
男女雇用均等を表面的には挙げている事業所においても、まだ不平等であり、女性の地位は低く抑えられている。例えば職種による賃金の格差とかがあると思う。	男性	50 歳代
子供を持つ 20 代～30 代の女性が働きやすくする為には夫の職場の改善、賃金の格差を無くす。現状はあまり女性が働きやすいとは思わない。講座などに参加したくても子育て・仕事で忙しくて無理。	女性	60 歳代
今年 8 月末で仕事をやめました。26 年間仕事中心で家族にはずいぶん迷惑をかけたと思っております。家事は主人がずいぶん協力してくれました。感謝いたしております。	女性	60 歳代
所得の格差をなくす。	女性	60 歳代
保育園に病児保育士がいたら良いと思います。小さな子供がいるという事情で会社を休めない、責任ある仕事につけない。	女性	60 歳代
短絡的には効果が表れない問題で、地道な行動が求められると思いますが、一步一步進めてほしいと思います。今 2 人ともリタイヤし、時間とゆとりができる男女共同参画も進むものだなと実感しております。自分の子供が中小企業に行っていると帰りが非常に遅く、これでは例え結婚しても男女共同どころか人間的な生活さえも満足にできない現状で、そういうところからも手をつけていってほしいと思います。	女性	60 歳代
一般事業所で働く育児中の女性には、まだまだ厳しい世の中です。そういう人間の声を聞くのが一番大事なことです。	男性	60 歳代
現在、現役でなくなりましてのであまり身近には感じられませんが、役職で女性を何人とか何%とかの数あまり関係がなく能力次第だと思います。年功序列などは最悪ではないでしょうか。	男性	60 歳代
結婚したならば男女共に家庭を守ることは同じく努力すべき。ただし、子育ての期間のある女性に対して、その仕事が両立できるよう、職場環境を整えて欲しいと思う。また女性が職場に復帰する場合には十分な支援が必要だと思います。	女性	70 歳代以上
女性が働かなくても、子供のそばで子育てできるように支援してあげてほしい。女性が働きやすいようにするのはではなく、女性（子育て中）が働かなくても生活できるように支援してほしい。	男性	70 歳代以上

5. 家庭生活について	性別	年齢
女性だけが、子どもを産めるという性別の違いがあるように、男女全く同じことを同じようにはならないと思う。子育ては、特に女性の役割がとても重要と思うので、特に子どもが小さい時期は女性が仕事などで社会に出るときは、その比重が多きくならない方が良いと感じる。まずは、人を育てるという仕事を真剣にやり、家庭の基盤を作ることが必要。子どもが育ったときにまた女性が社会に参画するのは、色々な経験を経ているので、また大きな力になるのではと思う。	女性	30 歳代
子育てしている女性を働きやすく（保育園の入園）や（保育時間）する支援を充実してもらえたら、もっと社会貢献できると思う。	女性	30 歳代
育児しながら仕事をしています。平塚市は学童の協力が少なく、保護者が運営しています。会議、会計などで、月3回会議となり負担も多く、仕事はパートにしています。女性参加の社会とするならば、育児への協力は必須です。よろしくお願ひします。	女性	40 歳代
自分の理想は、夫は外で働き妻は家庭を守るべきだと思います。現状は経済的な理由で妻もパートをしています。自分の母はいつも家に居ました。昔は、みんな（大体）そうだったと思います。そして今よりも子育てには良かったと思います。ちなみに妻は看護師ですので女性ならではの業種もあると思いますが、理想は妻は家で。女性が仕事を持つ事は共稼ぎさせて政府がGDPを増やして税収を増やす為では無いのですか？	女性	40 歳代
介護や家族が病気になったときなどは仕事をやめる状態にならない制度づくり、支援があると良いと思います。介護状態になると仕事をやめざるを得ない人たちはたくさんいると思います。（介護職をしているので思うことです。）	女性	40 歳代
女性の家事は評価され難いため、何らかの評価についてあると救われる方が居ると思う。	男性	40 歳代
女性が社会において活躍する場が増えているが、夫婦共に外で働き、家庭内での子育て・子供の教育がおろそかになっているのではと思うことがある。子育ても立派な社会における仕事であり、責任が重大である。人任せの子育てではなく、各家庭での責任ある子育てが重視されてもいいのではないのでしょうか。	女性	50 歳代
14 番の質問の答えに” 同じくらい分担とありましたが、同じではなく、協力して分担又は話し合いで分担して生活してきました。話し合い、協力して分担がよいと思っています。	女性	50 歳代
まず子育て中のシングルの人に必要な支援をして下さい。現在、夫を介護中、老々介護になるこれからの心配。介護されるのが私でなくて良かったと思っています。介護するのは当然と主人は思っています。	女性	60 歳代
家庭における共同参画について現代の若い夫婦は外で働いている夫は家に帰っても家事をしている等、60 代の私には男性は大変だなど思ってしまう。（共働きの場合は別）何でもかんでも共同参画はいかなものか！	女性	60 歳代
時代の流れでしょうか。自分の親を見て古い考えなのではないでしょうか？子供の生活を見ていると良く協力していると思います。	女性	60 歳代

6. 地域との関わりについて	性別	年齢
自治会や地域の活動では、会長等の役職が長年同じ方が就いていて固定観念やしきたりが払拭できなかつたりする。地域の活動に対して定期的に役職の方が関わって差別や偏見がなくなるような指導をしてもらいたい。市として方針を掲げても、個人個人の良くしようという意識を高めない浸透していかないと思う。	女性	40 歳代
自治会では年上の方や役職の付いている方のされるままで、いくら声を上げてもゴミの対策等を話しても改善しない。女の方が入って円満に聞か若い世代のアイデア等を取り入れてほしい。	女性	50 歳代
男性以外、自治会長をやった事がない地域です。女性にもやってほしいと思っています。（女性の方がより地域の事を知っていると思います）	女性	60 歳代
ボランティア（無償）参加だと思うが、これに参加するには時間と暇が必要だがある程度有償にした方がいいのではないかと。	男性	60 歳代

7. DVや人権について	性別	年齢
過度に女性の人権を保護するのも良くないと思います。女性ばかり守るのではなく男性も平等に守られるようにするべきだと思います。いつか女性>男性になってしまいそうで怖いです。	女性	20 歳代
男女とありますが、女性間でも格差はあると思います。女性の人権を守れない女上司もたくさんいます。	女性	30 歳代
市役所からこそ、DV被害者は必ずしも女性ではないこと、そして家庭やカップルは「異性間」に限らないこと、これに対して意識を高める必要があると思います。	男性	30 歳代
友人にDVで悩んでいる人がいます。DV相談後、DVから脱する具体的な流れや具体例をもっとわかりやすく気軽に知る事ができれば良いです。併せて、DVする側の心のケアする場も身近に感じられるよう広めてほしいです。	女性	40 歳代
性行為に関しても夫は行為したくとも妻に拒否され続ける事はDVであると思う。	男性	40 歳代
DVについてですが、それらのDV等の被害から身を守る（一時的にでも）施設があれば（助けてくれる所）尚よいのではないのでしょうか…	女性	60 歳代
娘が旦那からDVを受けた時市の相談窓口にて相談したけど、権限が無いと言って何も解決できないし何もしない。これなら民間のDV専門会社を市役所の中に入れた方が良い。私たちは家の内情を話して恥をさらしたただけだ。何に対しても市役所のやる気を問いたい気持ちです。	女性	60 歳代
すべての人（外国の方も含む）の人権を尊重すれば男女共同とか言わなくても良いと思う。	男性	60 歳代

8. 市の取り組みへの要望等について	性別	年齢
若い世代の男女が共に考え、一方に負荷がかかり過ぎる状況がないように、早い時期からの学習の場を設け、サービスを充実させてほしい。また困った時のSOSの発信ができるように「どこに」「どうやって」をもっと広く周知できるようにしていく事が必要と思う。	女性	20 歳代
市役所自ら積極的に女性がどの仕事にも就ける（責任ある立場の仕事だけではなく、どの課でもゴミ収集の女性はみたことがない。）	女性	20 歳代
アンケートという形態での意見聴取は有効だし、有意義、市民の潜在的な考え方や理解する上で重要。だが、具体的なことは顔をつき合わせて、特殊な個人的事情を含めて総意を探り出す熟議と同時に「決断」する勇気も大切。期待しています。	男性	20 歳代
アンケートではなく、実際に足で動いて目で見て頂けるとよいと思います。講座の充実をしても実際には参加できないのが現状です。	女性	30 歳代
子育ての支援に関しましても、公共の場ですのに乳幼児の為のスペース等は全く配慮がありませんので（授乳室、広めのトイレ等）必要性を説く機会を作るべきです。	女性	30 歳代
自分の町内では当初ゴミ捨てすら男性はしておらず、自分が捨てるようになってから奥様方で話が合ったか知らないが、旦那様がゴミ捨てを始めた。見本となる行政、市民は必要と感じます。ぜひ平塚市民は進んでいる…。と思う行政になっていただきたい。	男性	30 歳代
過保護は甘えをうむので過干渉も良くないと思った。	男性	30 歳代
若い世代は男女差をあまり感じずに育っていると思う。若い世代向けへのPR、特に子を持つようになる時期に参加し易い日程で夫婦そろっての研修を行ってはどうか。パパママ教室で男女共同参画について知ってもらいよい機会になるのではないかな。ただし、イベントは興味が無ければ読まない、行かない。そうしたところに予算を充てるのではなく、市民が有益性を実感できるような保育や介護サービスの充実、再就職を支援することなどへ有効に使ってほしい。	女性	40 歳代
提案されている男女共同参画というモノの具体性がよくわかりません。まず、男女平等という意識等について平塚市としての具体的見解を示していただかない事には、男女共同参画についてお答えしようがありません。	男性	40 歳代
平塚にこのようなプランがある事を初めて知った。市民の中でどれだけの人がこのプランを知っているのかを市としては知っていた方が良いのでは？	男性	40 歳代
ただアンケートの集計結果を資料として残すだけで終わりにせず、前向きに具体策を立て、必ずそれを実施して下さい。	女性	50 歳代

8. 市の取り組みへの要望等について【続き】	性別	年齢
平塚市が積極的に活動を行い、自治体として国の見本になってほしいです。機会があれば地方の事業の為に参加活動してみたいと思いました。ますますの活動に期待し協力していく所存です。	女性	50 歳代
特になが、防災についてもっと市の方で細かくやってほしい。大雨による川の氾濫等について場所場所ですいろいろあると思う対策がどのようになっているのか一市民にまできちんと話が行き渡る様にしてほしい。	女性	50 歳代
シニア世代夫婦（男女）が共に楽しく有意義に生活できる共に生きる様、市のサポートを希望します。	女性	60 歳代
せっかく素晴らしい活動をしていてもなかなか末端までそれが行き届かない。情報発信を見聞しやすい形でお願いしたい。	女性	60 歳代
アンケートの内容を広報等に掲示してほしい。	男性	60 歳代
男女共同参画事業行政は①税制②保育③就業④社会的性の在り方等、国においては基本的な問題が検討すべき課題となっています。市の施策を遂行するに当たっては、国の行政に追随した行政ではあまり意味が無いと思いますので、このアンケートを活用して市独自の施策の地方発信を期待します。	男性	60 歳代
問 29 の 2 の市役所自ら他の事業所の見本となる～が、必要と思う。	男性	60 歳代
平塚広報が良く聞こえないです。広報はどこにいても聞えなければいけないと思います。前に高い建物があると聞こえません。なんとかならないでしょうか。	女性	70 歳代以上

9. その他	性別	年齢
特にありません。 【同様の回答 ほかに 11 件】		
質問があまり良く分かりにくかった。 【同様の回答 ほかに 8 件】		
役所の実態調査やパブリック・コメント等を集めた方が良い。 【同様の回答 ほかに 1 件】		
こちらこそ平塚市をよくしようとつとめて下さりありがとうございます。どんどん平塚市がすてきなまちになったらいいですねっ！	女性	10 歳代
まず、これの実現が「何年後？いや何十年後？」の事だか全く見当がつかない。それ以前の問題の事が沢山あるのでは？男女平等より…年代差別の方が…何でもかんでも若年ばかりに期待を持たれても…何にもならない！！そして政府に関しても、期待なんかしてないし、信用性ないので…	男性	40 歳代
成果等を含め、あまり多くを望まない事。私感ですが余裕の無い人が多く、最低限、生きる事に精一杯だと思います。上記の様な人が多数派なのではないのでしょうか。声をあげる（大きい）少数派が必要以上に優遇されない事を望みます。	男性	40 歳代
男女共同参画についての意見ではありませんが、一つ気になったことがあります。カタカナ語の言葉にカッコをし、日本語の意味がついていますが、正しい日本語で書けばそれでよいのではないのでしょうか？わざわざカタカナ語にする意味が分かりません。	女性	50 歳代
WHOの健康の定義で議られた様に「霊性」即ち「人間の神聖なる精神と善となる心」に就いて、啓蒙を図る事が、男女の調和に急務である。	男性	50 歳代
平塚市がよりよく住みやすくなるためにいろいろなアンケートをもっと実施したほうがよいと思う。男性のみ、女性のみアンケートでもよいと思う。無記名でアンケートを取るというのは市民の本当の声が聞けるということなのでとてもよいことだと思う。平塚は住みやすいのもっと良い市になって長く住み続けられるようになってほしい。	男性	50 歳代
男女がどうのとは興味ない！	男性	50 歳代
今回推進事業はどれも知らなかった。分からない人がアンケートに答えるのも少し疑問に思いましたが、せっかくの機会でしたので参加しました。	男性	60 歳代
時と場合によっては選択が変わるのが普通なので少々迷いました。	男性	60 歳代

9. その他【続き】	性別	年齢
<p>現在、若い方々の生活（家庭を持っている方）は、経済生活が大変だろうと思います。保育園は希望する方すべてが入園でき、近頃の家賃は高いので、子供さんの居る方には市の方から補助してあげる。介護に困っている方には温かい手を、市の方から差し伸べてあげる。住み良い町を作り上げ、多くの方が平塚は住み良い町だと喜んで移り住んで下されば、税の収入も増えると思います。こういうお便りを頂きありがとうございます。自らの意思を示せる、こういうアンケートがあること、信頼できる市役所だと思いました。</p>	男性	60 歳代
<p>男女共同参画の考えは基本的に正当である。しかし、北朝鮮や中国をもちだすまでもなく、日本でも現在憲法違反でも強引にやってしまう総理と保守政党があり、それを支持する保守的国民もいる。だから推進には努力と時間が必要。がんばりましょう。</p>	男性	60 歳代
<p>解答部分にまったく同感出来ないところの方が多かったような気がします。その他…自分の意見等の言える項目が少しずつでもあった方が良いのでは？多いほどその他が必要になるのでは？</p>	女性	70 歳代以上
<p>どれをとっても重要な事ばかりです。役所の方々が日々努力されていることに感謝いたします。持病や歳のせいにならず、地域の事や市の参加行事にはなるべく参加したいと思いました。</p>	女性	70 歳代以上
<p>実際にあってみないと判断できないことが多い（特に独り者は）</p>	男性	70 歳代以上

IV. 調査票

ひらつか男女共同参画プラン2007市民意識調査票

はじめに、ご自身・ご家族のことについてお聞きします。

①～⑦の各項目について、あてはまるものをそれぞれ選び、番号に○をつけてください。

① 性別	1 女性 2 男性
② 年齢	1 10歳代 2 20歳代 3 30歳代 4 40歳代 5 50歳代 6 60歳代 7 70歳代以上
③ 結婚	1 結婚していない 2 結婚していたが離婚・死別した 3 結婚している(配偶者がいる)、 パートナーと同居している(事実婚を含む) → ① 共働きしている ② 共働きしていない ③ 二人とも働いていない
④ 世帯構成	1 単身(ひとり暮らし) 2 夫婦のみ(事実婚含む) 3 核家族世帯(親と子ども) 4 二世帯世帯(親と子ども世帯) 5 三世帯世帯(親と子ども世帯と孫) 6 その他()
⑤ 子ども	1 いない 2 いる(妊娠中も含む) ① 現在妊娠中 ② 乳児・幼児(0歳以上小学校入学前まで) ③ 小学生 ④ 中学生 ⑤ 高校生以上の学生 ⑥ 学生以外の未成年 ⑦ 学生以外の成人
※仕事を一時的に休業している方(育児・介護休業等)は、休業・休暇前の就業形態をお答えください。	
⑥ 就業	1 していない → ① 主婦・主夫 ② 学生 ③ その他()
	2 している(市内) } 3 している(市外) } → ① 正規の従業員 ② 自営業者(農林漁業、商工業、サービス業等) ③ 家族従業者 ④ 会社などの役員 ⑤ 自由業(開業医、弁護士、芸術家、作家等) ⑥ パートタイマー・アルバイト・契約社員・派遣社員
⑦ 介護の必要な家族	1 いる (同居・別居の両方の場合はそれぞれ回答してください) → (1) 同居 [① 御自身の親 ② 配偶者の親 ③ その他()] (2) 別居 [① 御自身の親 ② 配偶者の親 ③ その他()] 2 いない

社会参画についてお聞きします。

内閣府は、2020年までに、社会のあらゆる指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%にするという「2020年30%」の目標を掲げています。

それでは、次の①～⑤にあげる役職や公職に女性が就くことについて、あなたの考えを伺います。

問4 ①～⑤の役職や公職に、あなたは「女性がもっと就いた方がよい」と思いますか。

1～3の中からそれぞれ1つ選び、番号に○をつけてください。

問5 もしも、①～⑤の役職や公職に、就任や立候補を依頼されたらどうしますか。

- ・あなたが女性の場合には、ご自身が承諾するかどうか
- ・あなたが男性の場合には、あなたの配偶者・パートナー(いない方は、いることを想定して)について賛成するかどうか

あなたの考えはどちらですか。

①～⑤の各項目について、それぞれ1つ選び、番号に○をつけてください。また、「5 承諾しない又は賛成しない」に○をした場合には、さらにその理由を下の囲み1～9の中から1つ選び、○をつけてください。

	問4			問5		
	そう 思 う	そう は 思 わ な い	わ か ら な い	承諾又は賛成		
				す る	し な い	しない理由
① PTA会長	1	2	3	4	5	1 2 3 4 5 6 7 8 9()
② 自治会長	1	2	3	4	5	1 2 3 4 5 6 7 8 9()
③ 職場の管理職	1	2	3	4	5	1 2 3 4 5 6 7 8 9()
④ 市の審議会等の委員	1	2	3	4	5	1 2 3 4 5 6 7 8 9()
⑤ 市議会議員	1	2	3	4	5	1 2 3 4 5 6 7 8 9()

- 承諾又は賛成しない理由
- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 自信がないから | 2 リーダーシップがないから |
| 3 責任のある職に就きたくないから | 4 家事・育児・介護などがあるから |
| 5 男性優位の組織だから | 6 仕事を持っているから |
| 7 男性が就く職であるから | 8 女性が発言をしにくい職だから |
| 9 その他 | |

問6 役職や公職への就任や立候補を依頼された際に、承諾する女性や養成する男性が増えるなど、女性が指導的地位に占める割合を増やすためには、何が重要だと思えますか。1～8の中から3つ選び、番号に○をつけてください。

- 1 「役職等は男性がやるもの」という意識をなくすこと
- 2 男性優位の組織運営を改善すること
- 3 女性の能力開発のための研修機会を充実させること
- 4 女性自身が積極的に参画意識・意欲を持つこと
- 5 家族からの支援や協力があること
- 6 女性の活動を支援するネットワークを広げて充実させること
- 7 方針決定の重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を充実させること
- 8 その他 ()
- 9 わからない

仕事や家庭、地域生活などについてお聞きします。

問7 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度について伺います。

次の①～④のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	わからない	
① あなたご自身の現状	1	2	3	4	5	6	7	8
② あなたの希望	1	2	3	4	5	6	7	8
③ 女性として望ましいと思うもの	1	2	3	4	5	6	7	8
④ 男性として望ましいと思うもの	1	2	3	4	5	6	7	8

問8 「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)※」を推進していく考え方について、

あなたはどのように思いますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

※「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」とは、誰もがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たす一方で、子育て・介護の時間や、家庭、地域、自己啓発等にかかる個人の時間を有する、健康で豊かな生活ができる状態のことをいいます。

- | | | | | | |
|---|--------------|---|--------------|---|-------|
| 1 | そう思う | 2 | どちらかといえばそう思う | | |
| 3 | どちらかといえば思わない | 4 | そう思わない | 5 | わからない |

問9 あなたは女性が仕事を続けることについてどう思いますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|----|--|
| 1 | 結婚や子育てに関わらず、働くことを選択するのは女性の自由である |
| 2 | 結婚や出産をしても仕事を続ける方がよい |
| 3 | 家事や子育てと仕事とが両立するならば、結婚や出産に関わらずずっと働き続けてもよい |
| 4 | 結婚したら仕事をやめる方がよい |
| 5 | 子どもができたなら仕事をやめる方がよい |
| 6 | 子どもができたなら仕事をやめ、ある程度大きくなったら再び仕事(正規)に就くのがよい |
| 7 | 子どもができたなら仕事をやめ、ある程度大きくなったら再び仕事(非正規)に就くのがよい |
| 8 | 結婚を機に仕事をやめ、子どもがある程度大きくなったら再び仕事(正規)に就くのがよい |
| 9 | 結婚を機に仕事をやめ、子どもがある程度大きくなったら再び仕事(非正規)に就くのがよい |
| 10 | 女性は仕事をしない方がよい |
| 11 | その他() |

問10 仕事をされている方に伺います。(仕事をされていない方は、問12へお進みください。)あなたの職場では、女性が男性に比べて、次のような扱いを受けていると思うことはありますか。

あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1 | 同じ仕事をしていても賃金が少ない |
| 2 | 結婚や出産時に退職する習慣や圧力がある |
| 3 | 能力があっても補助的な仕事や雑用を任せられることが多い |
| 4 | 配置転換(職務や部署・勤務地等を変えること)が少なく、能力を向上させにくい |
| 5 | 教育の訓練の機会が少ない、訓練の内容が男女で異なる |
| 6 | 能力があっても昇進・昇格が遅い、または望めない |
| 7 | 職業意識が低いものとして見られる |
| 8 | 男性と女性での扱いの差はない |
| 9 | その他() |

問11 育児や家族介護のために、法律に基づき育児休業・子の看護休暇・介護休業・介護休暇を取得できる制度があります。

あなたは、この制度を活用して、育児休業などを取ったことがありますか。

①～④のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

	ある	ない	今まで必要と なかったことがない	知らなかった 制度があることを
① 育児休業(育児のために一定期間休業できる制度)	1	2	3	4
② 子の看護休暇 (病気等の子どもを看護のための年5日程度の休暇)	1	2	3	4
③ 介護休業(介護のために一定期間休業できる制度)	1	2	3	4
④ 介護休暇(短期の介護のための年5日程度の休暇)	1	2	3	4

問12 この制度を活用して男性が休業や休暇を取得することについて、あなたはどのように思いますか。

①～④のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

	取った方がよい	取った方がよい どちらかといえば	取らない方がよい どちらかといえば	取らない方がよい	わからない
① 育児休業	1	2	3	4	5
② 子の看護休暇	1	2	3	4	5
③ 介護休業	1	2	3	4	5
④ 介護休暇	1	2	3	4	5

問13 問12で、「3どちらかといえば取らない方がよい」「4取らない方がよい」に一つでも○のあった方に伺います。(それ以外の方は問14へお進みください。)

それは、どのような理由からですか。あてはまるものをすべてを選び、番号に○をつけてください。

1 経済的に苦しくなるから	2 職場の理解が得られないから
3 仕事の評価や配属に影響するから	4 男性より女性が取るべきであるから
5 地域において男性が育児・介護に参加しにくから	6 男性に育児・介護の技能が乏しいから
7 周囲に取得した男性がいないから	8 配偶者がいなければ男性が取ることがないから
9 その他 ()	

問14 あなたの家庭では、次の①～④のことを主に誰がしていますか(誰がしますか)。
 それぞれについて、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。現在、子育て
 や介護をしていない場合でも、していると想定してお答えください。

	主に自分	主に配偶者(夫・妻)	夫婦(自分・配偶者)が同じくらい分担	夫婦以外の家族	家族で交代・分担	有償サービスの利用
① 家事	1	2	3	4	5	6
② 育児・子育て	1	2	3	4	5	6
③ 自治会活動など地域の活動	1	2	3	4	5	6
④ 介護	1	2	3	4	5	6

問15 あなたは、次の①～④について、家庭における役割は誰がするのが望ましいと思いますか。
 それぞれについて、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

	主に夫	主に妻	夫婦が同じくらい分担	夫婦以外の家族	家族で交代・分担	有償サービスの利用	その他
① 家事	1	2	3	4	5	6	7
② 育児・子育て	1	2	3	4	5	6	7
③ 自治会活動など地域の活動	1	2	3	4	5	6	7
④ 介護	1	2	3	4	5	6	7

問16 あなたが現在、仕事以外で、参加している地域活動は何ですか。
 あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|---|-----------------------------|
| 1 | 一人でする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動 |
| 2 | 仲間とする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動 |
| 3 | 自治会等の活動 |
| 4 | 民生委員などの公的な立場で地域社会に貢献するような活動 |
| 5 | NPO(民間非営利組織)やボランティアなどの活動 |
| 6 | その他() |
| 7 | 地域活動に参加したことがない(⇒問17へ) |

問17 問16で「7 地域活動に参加したことがない」とお答えした方に伺います。(それ以外の方は問18へお進みください)。

それは、どのような理由からですか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- 1 関心がないから
- 2 時間がとれないから
- 3 きっかけがないから
- 4 情報がないので参加の仕方がわからないから
- 5 その他 ()

問18 あなたが今後、参加してみたい地域活動は何ですか。

あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

- 1 一人でする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動
- 2 仲間とする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動
- 3 自治会等の活動
- 4 民生委員などの公的な立場で地域社会に貢献するような活動
- 5 NPO（民間非営利組織）やボランティアなどの活動
- 6 特にない
- 7 その他 ()

問19 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

特に必要だと思うことを1～13の中からすべて選び、番号に○をつけてください。

- 1 男性が家事などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事などを行うことに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること
- 4 男性が家事などを行うことに対する職場の理解が進むこと
- 5 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 6 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、評価を高めること
- 7 労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 8 講習会や研修等を行い、男性の家事、育児、介護の技能を高めること
- 9 男性の家事などに対する関心が高まるよう啓発や情報提供を行うこと
- 10 男性が子育て、介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進めること
- 11 特に必要なことはない
- 12 男性は積極的に参加する必要はない
- 13 その他 ()

ドメスティック・バイオレンス (DV) についてお聞きします。

問20 ①～⑬の各項目のようなことが、親しい間柄の異性間(配偶者・恋人・事実婚を含む)であった場合において、あなたはそれを暴力※だと思いますか。(※暴力は、身体的・精神的・性的・経済的暴力等をいいます。)

1、2のどちらか1つ選び、番号に○をつけてください。

問21 また、①～⑬の各項目のようなことについて、過去1年以内に親しい間柄の異性間(配偶者・恋人・事実婚を含む)で、あなたは「した」又は「された」経験がありますか。

3～5のうち、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

	問20		問21		
	暴力だと		した	された	経験は ない
	思う	思わない			
① 平手で打つ	1	2	3	4	5
② 相手が嫌がっているのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3	4	5
③ 相手の交友関係や電話を必要以上に監視する	1	2	3	4	5
④ 大声でどなる	1	2	3	4	5
⑤ 家に生活費を入れない	1	2	3	4	5
⑥ 避妊に協力しない・妊娠中絶を強要する	1	2	3	4	5
⑦ 携帯電話、手紙、メールなどを勝手に見る	1	2	3	4	5
⑧ 勝手に借金をする・無理に借金をさせる	1	2	3	4	5
⑨ 何を言っても無視し続ける	1	2	3	4	5
⑩ 外出を制限する	1	2	3	4	5
⑪ 性的な行為の強要	1	2	3	4	5
⑫ 「誰のおかげで生活できるのだ」などと言う	1	2	3	4	5
⑬ 「甲斐性がない」「稼ぎが悪い」などと言う	1	2	3	4	5

問22 問21で4に一つでも○のあった方に伺います。(それ以外の方は問25へお進みください。)

あなたは、このような経験について、誰かに相談しましたか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- 1 相談した (⇒問23へ)
 2 相談できなかった (⇒問24へ)
 3 相談しなかった (⇒問24へ)

問23 問22で1に○のあった方に伺います。

実際にどこ(誰)に相談しましたか。あてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1 家族 | 2 友人・知人 |
| 3 同じ経験をした人 | 4 家庭裁判所・弁護士・警察など |
| 5 公的機関の相談窓口 | 6 医師・カウンセラーなど |
| 7 民間の機関など (NPOなどの民間支援グループ) | |
| 8 その他 () | |

(⇒この後は、問25へお進みください)

問24 問22で2、3に○のあった方に伺います。

なぜ、「相談できなかった」「相談しなかった」のですか。あてはまるものすべてを選び、番号に○をつけてください。

- | |
|--------------------------------------|
| 1 どこに相談したらよいかわからなかったから |
| 2 周りに相談する人がいなかったから |
| 3 恥ずかしくて誰にも言えなかったから |
| 4 相談しても無駄だと思ったから |
| 5 相談したことがわかると、仕返しやもっとひどい暴力を受けると思ったから |
| 6 自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから |
| 7 他人を巻き込みたくなかったから |
| 8 身内に危害が及ぶと思ったから |
| 9 自分にも悪いところがあると思ったから |
| 10 相談するほどのことではないと思ったから |
| 11 その他(具体的に:) |

防災についてお聞きします。

問25 あなたは、防災や災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思えますか。
1～5のうち、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 必要がある | 2 どちらかといえば必要である |
| 3 どちらかといえば必要ない | 4 必要ない |
| 5 わからない | |

問26 誰の身にも降りかかる可能性のある災害ですが、防災や災害復興活動に関して男女共同参画を推進していくためには、特にどんなことが必要と考えますか。
①～⑧の項目について、それぞれあてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

	1 必要	2 どちらかといえば必要	3 あまり必要ではない	4 必要ない
① 女性が、防災訓練や防災研修会へ積極的に参加するよう努めること	1	2	3	4
② 母親教室、乳幼児教室、PTA活動等、女性が多く集まる団体へ防災訓練・研修を行うこと	1	2	3	4
③ 女性消防団員等の育成や役員への女性登用をすること	1	2	3	4
④ 自治会等の自主防災組織に女性が積極的に参加するよう努めること	1	2	3	4
⑤ 防災会等に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること	1	2	3	4
⑥ 避難所運営の際に女性のリーダーやスタッフを配置すること	1	2	3	4
⑦ 女性や乳幼児等に配慮した避難所機能の確保をすること	1	2	3	4
⑧ 避難所などの運営マニュアルに男女別のニーズに配慮した視点を取り入れること	1	2	3	4

問27 あなたは、この1年間で、地域の防災訓練に参加しましたか。
あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|--------|-----------|
| 1 参加した | 2 参加していない |
|--------|-----------|

最後に、平塚市の実施する男女共同参画推進事業についてお聞きします。

問28 平塚市が実施する次の1～3の男女共同参画推進事業のうち、あなたが見たり聞いたりして知っているものについて、**すべて**を選び、番号に○をつけてください。

- 1 男女共同参画情報誌「まめ」
- 2 女性のための相談窓口
- 3 当課主催講座（再就職応援セミナー、女性のためのキャリア開発講座など）
- 4 どれも知らない

問29 性別にかかわらず自らの意思によって社会のあらゆる分野に参画し、個性と能力が発揮できる男女共同参画社会を実現していくために、あなたは平塚市が今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。優先すべきと考えるもの**3つ**を選び、番号に○をつけてください。

- 1 市の施策に関する審議又は調査等を行う場（審議会等）に女性の参画を進める
- 2 市役所自らが他の事業所の見本となるよう、責任ある立場に女性を積極的に登用する
- 3 事業所に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける
- 4 事業所に対して職場における男女格差の是正を働きかける
- 5 男女共同参画の意識を高めるための情報紙の配付や学習の場（講座など）を充実させる
- 6 夫婦がともに参加できる家事・育児や介護に関する学習の場（講座など）を充実させる
- 7 子どもや若い世代を対象にした、自立する力をつけるための男女共同参画の学習の場（講座など）を充実させる
- 8 保育や介護サービスを充実させる
- 9 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
- 10 女性の能力・技術を高め、チャレンジを促すための支援を充実させる
- 11 女性を対象とした各種の相談やDV被害から救済するための体制を充実させる
- 12 学校教育における男女共同参画教育を進める
- 13 男女共同参画推進を目的とした市民活動を支援する
- 14 その他（ ）

問30 最後に、男女共同参画についてのご意見やご要望があれば、自由にご記入ください。

質問は以上です。長時間ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて、平成27年9月30日（水）までにご返送ください。（切手不要）

この印刷物には再生紙を使用しています

平塚市男女共同参画に関する
市民意識調査報告書

平成 27 年（2015 年）11 月

編集・発行：平塚市市民部人権・男女共同参画課

〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号

電話：0463-21-9861（ダイヤルイン）

FAX：0463-21-9736
